



# 住宅断熱総合カタログ

2025 ▶ 2026 2版



吉野石膏グループ



旭ファイバーグラス株式会社

# ごあいさつ

## 「快適環境づくり」

それが旭ファイバーグラスの使命です。

グラスウールは、住みやすく

省エネルギー性の高い住空間を実現し、

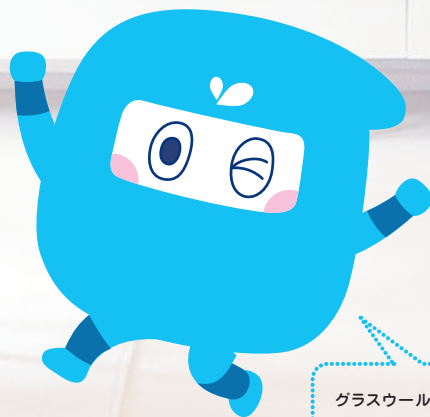
その「断熱性」「不燃性」「吸音性」が活かされ

あらゆる分野で幅広く使われています。

私たちはこれからも新しい価値を創造し、

人と地球の未来のために、

快適環境づくりに貢献してまいります。



グラスウール断熱材から生まれた  
ボク、アクリアくん！  
家族の快適な暮らしを守るため  
家族の見えないところ【壁・床・天井】で  
暑さや寒さを防いでいるんだ！  
ボクの活躍、期待しててね！

## INDEX

グラスウールの特長 .....	4
製品一覧 .....	5
住宅用製品 .....	13
技術資料 .....	43

## 住宅用製品

アクリア ..... 14 <small>アクリアαR71/アクリアR57/アクリアR45/アクリアネクストα/            アクリアマットα/アクリアウールα/アクリアTSα/アクリアUボードピンレスα/            アクリアUボードNTα/アクリアマット/アクリアネクスト/アクリアウール/            アクリアジ奥斯/アクリアUボードピンレス/アクリアUボードピンレスS/            アクリアUボードNT/アクリアプロ-S</small>	リフォーム ..... 32 ビップビルド(建築用真空断熱材) ..... 33 グラスロンウール ..... 34 遮熱材 ..... 36 副資材 ..... 38 屋根材(ファイバーグラスシングル) ..... 40
マットエース ..... 28	
アクリアGPACマット ..... 30	
グラスロン間仕切エース ..... 31	

## 技術資料

## ◆ グラスウールについて

素材の断熱性能 .....	44
吸音性能 .....	49
緩衝性能・長的性能 .....	52
不燃性・安全性 .....	53
取扱い上の注意 .....	54
JISについて .....	55
トップランナー・EI制度 .....	56

## ◆ 高断熱住宅について

住宅の断熱講座 .....	57
住宅の断熱性能レベル .....	59
HEAT20 について .....	60
省エネ性能表示制度 .....	62
高断熱住宅のメリット .....	63
外皮性能基準別推奨仕様例 .....	66
結露について .....	74
施工マニュアル .....	78
GWS工法 .....	83
FEIS工法 .....	84
断熱リフォーム .....	85

## ◆ 法令・制度

省エネ基準 .....	87
省エネ基準 共同住宅の評価方法 .....	95
住宅トップランナー制度 .....	99
省エネルギー基準の地域区分 .....	100
住宅性能表示制度 .....	106
防耐火関連について .....	108

## ◆ 補助金・税制など

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH) .....	111
長期優良住宅の認定基準 .....	113
低炭素建築物認定制度 .....	114
性能向上計画認定制度 .....	115
フラット35 .....	116
住宅防音工事(民防工事)概要 .....	117
断熱改修補助金 .....	118

住まいは、長く快適に暮らしたいものです。

快適な住まい、安全な住まいづくりには、グラスウールをおすすめします。

## 安全

住む人にも施工する人にも安全な断熱材です。

旭ファイバーガラスのグラスウール製品には、過去から現在に至るまでアスベストを一切使用しておりません。グラスウールはアスベストとは異なり、リサイクルガラスを主原料とした人体に安全な人造鉱物繊維です。世界保健機関（WHO）の下部組織であり、最も権威がある国際がん研究機関（IARC）はグラスウールを「ヒトに対して発がん性に分類されない」区分であるグループ3に分類しています。

【IARCによる発がん性分類】

※ 2016年 6月現在

グループ1	ヒトに対して発がん性がある	アスベスト、たばこなど
グループ2A	ヒトに対して発がん性でありうる	とても熱い飲み物、レッドミート（ほ乳類の肉）など
グループ2B	ヒトに対して発がん性の可能性がある	ガソリン、ビクルスなど
グループ3	ヒトに対して発がん性に分類されない	グラスウール（短繊維）、コーヒー、紅茶など
グループ4	ヒトに対しておそらく発がん性がない	カプロラクタム1品種のみ

グラスウールは、欧米をはじめ日本でも半世紀以上にわたりさまざまな分野で使用され、安全な製品として認められておりますので、今後も安心してお使いいただけます。

ホルムアルデヒド放散特性の基準のあるJIS※に該当する旭ファイバーガラスのグラスウール製品は

最高等級の **F★★★★★** です

ホルムアルデヒド放散による区分

F☆☆☆☆の製品は、使用される材料としての制限が一切ありませんので、あらゆる部位や部分に安心してご使用になれます。製品梱包や製品ラベルにはホルム等級表示をしております。

JIS非該当品については、個別に国土交通省の大臣認定を取得しているものがあります。詳しくはカスタマーセンターにお問合せください。認定番号：MFN-2685他

※該当JISは、JIS A 9521：建築用断熱材、JIS A 9523：吹込み用繊維質断熱材、JIS A 9504：人造鉱物繊維保温材

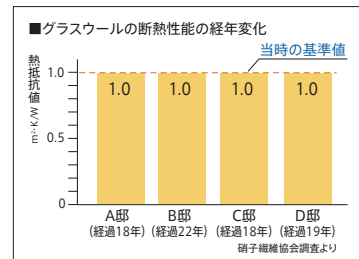
## 耐久性

断熱性能が長持ちします。

長期にわたって劣化の少ない断熱材です。

グラスウールは経年変化の少ないガラスからつくられています。長期にわたって劣化の少ない断熱材です。断熱性能が長持ちします。

建築後約18年～22年経った木造住宅の壁の中のグラスウール※を調べたところ、寸法、断熱性能とも変化なく、変わらない性能を保っていることがわかりました。（※当時の製品）



## 火に強い

高温に強く、燃えにくい不燃材です。



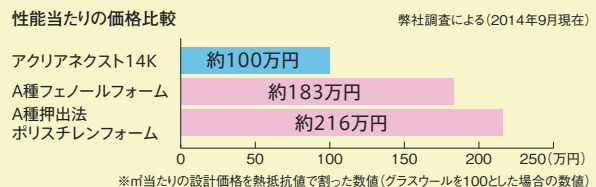
【比較方法】150mm角の試料をセットし、下から炎を当てた後の状態を撮影。

都市部の住宅地で火災が発生すると、わずか30分で隣家の外壁は800℃を超える高温にさらされます。使用している断熱材が可燃性か不燃性かによってその被害も違います。ガラスを原料としたグラスウールは、高温に強く、燃えにくい不燃材ですから、延焼や類焼防止に効果があります。

## 経済的

コストパフォーマンスに優れています

同じ断熱性能になる住まいで、断熱材施工のコストを比べてみました。



## 快適

快適な空間をつくれます。

グラスウールは、断熱性能、吸音性能に優れています。建物の省エネルギー化、快適性には欠かせない材料です。







## INDEX [製品一覧]

天井用Rシリーズ ..... 6 アクリアαR71/アクリアR57/アクリアR45	建築用真空断熱材 ..... 9 ビップビルド (VIP-Build)
アクリアα ..... 6-7 アクリアネクストα/アクリアマットα/アクリアウールα/ アクリアTSα/アクリアUボードピンレスα/ アクリアUボードNTα	グラスロンウール ..... 10 グラスロンウール(ロール) グラスロンウール(ボード)
アクリア ..... 7-8 アクリアマット/アクリアネクスト/アクリアウール/ アクリアジオス/アクリアUボードピンレス/ アクリアUボードピンレスS/アクリアUボードNT/ エースピン/アクリアブローS	遮熱材 ..... 11 風通し銀次郎/遮熱エース
マットエース / 他 ..... 9 マットエース/アクリアGPACマット/ グラスロン間仕切エース	副資材 ..... 11 防湿気密シート/調湿気密シート アクリアHCシートα/ 気密テープ/気密コンセントボックスカバー/ALGCシート
リフォーム ..... 9 リフォーム用アクリアUボードピンレス	屋根材(ファイバーグラスシングル) ..... 12 リッジウェイ 【専用部材】 ヒップアンドリッジ(棟部材)/スターターシングル/ リッジロール(換気部材)/シングル釘/シングル用接着剤

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアαR71 (防湿フィルム付 18ミクロン厚)												(天井用)		
 ACMアルファ	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載ページ
				厚さ	幅	長さ								
	GWHG 20-35	00610033	高性能 20	250	455	1370	5枚	約0.9坪分	天井	7.1	0.035	NM-5796-1(4)		p15

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアR57 (防湿フィルム付 18ミクロン厚)													(天井用)	
 ACM	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
				厚さ	幅	長さ								
	GWHG 20-35	00610032	高性能 20	200	455	1370	6枚	約1.1坪分	天井	5.7	0.035	NM-5796 -1(4)		p15

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアR45 (防湿フィルム付 18ミクロン厚)												(天井用)		
 ACM	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
	GWHG 14-38	00114937	高性能 14	厚さ	幅	長さ								
				170	455	1370								
							10枚	約1.88坪分	天井	4.5	0.038	NM-5796 -1(4)		p15

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアネクストα (高性能防湿フィルム付 50ミクロン厚 JIS A 6930同等品)													(壁用)										
 ACNアルファ	JISによる 表記	品番	密度 (kg/ m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ									
		厚さ		幅	長さ																		
		GWHG 20-34	00113403	高性能 20	105	395									2880	6枚	約2.3坪分	壁	3.1	0.034	NM-5796 -1(4)		p16
			00113404			430																	
00113806	470																						

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアマットα (防湿フィルム付 18ミクロン厚)												(天井用)		
 ACMアルファ	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
				厚さ	幅	長さ								
	GWHG 20-34	00113405	高性能 20	155	455	1370	8枚	約1.5坪分	天井	4.6	0.034	NM-5796 -1(4)		p17

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアウールα（防湿フィルム無）												（壁用）			
 ACWアルファ	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載ページ	
	厚さ	幅	長さ												
	GWHG 20-34	00114167	高性能 20	105	89	425	1370	12枚	約2.2坪分	壁	2.6	0.034	NM-3469		p18
		00113401			395	1370	12枚	約2.2坪分							
		00113402			430	1370	12枚	約2.2坪分							
		00114198		140	420	1190	8枚	約1.3坪分	約1.4坪分						
		00114202			420	1330	8枚	約1.4坪分							
	GWHG 28-33	00114935	高性能 28	89	380	1330	8枚	約1.4坪分	約1.4坪分	2.7	0.033				
		00114934			420	1330	8枚								
	GWHG 36-32	00114031	高性能 36	105	390	1370	6枚	約1.1坪分	約1.1坪分	3.3	0.032	NM-3582			
00114032		425			1370	6枚									

※別途防湿層の施工が必要です。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアTSα													(壁用)		
 ACTSアルファ	JISによる表記	品番	密度 (kg/㎡)	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[㎡・K/W]	熱伝導率 [W/(㎡・K)]	不燃認定	備考	掲載ページ	
	GWHG 28-32	00115215 00115216	高性能 28	105	厚さ	幅									長さ
					390 425	2740									4枚 4枚

※別途防湿層の施工が必要です。

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。



下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアUボードピンレスα (留め付け用不織布付) (剛床用)													
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ								
ACUPLアルファ	GWHG 36-32	00115168	高性能 36	105	805	805	6枚	約1.5坪分	床	3.3	0.032	—	p19

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアUボードNTα (根太床用) (外気に接する床用)													
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ								
ACUNTアルファ	GWHG 20-35	00114955	高性能 20	120	805	805	6枚	約1.5坪分	床	3.4	0.035	NM-3469	p19
		00114956			820	820	6枚						

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアマット (防湿フィルム付 18ミクロン厚)												(壁・天井用)		
 ACM	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載ページ
	厚さ	幅	長さ											
	GWHG 10-43	00111143	高性能 10	50	430	2880 <sup>[9.5尺]</sup>	24枚	約9.5坪分	壁・天井	1.2	0.043			
		00111235		395		12枚	約4.7坪分	 壁・天井	2.3					
		00111236		430	2880 <sup>[9.5尺]</sup>	12枚		 壁・天井						
		00111237		470		11枚		 壁・天井						
	GWHG 14-38	00110572	高性能 14	155	455	1370 <sup>[4.5尺]</sup>	11枚	約2.0坪分	  天井(等級4向)	4.1	0.038			
GWHG 16-37	00114220	高性能 16	100	430	2880 <sup>[9.5尺]</sup>	8枚	約3.1坪分	 壁・天井	2.7	0.037				

※アクリアマット14Kは、通常繊維のグラスウール24Kまたは高性能グラスウール16Kと同等の断熱性能をもつグラスウールです。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアネクスト (高性能防湿フィルム付 50ミクロン厚 JIS A 6930同等品)										(壁・天井・屋根用)			
 ACN	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>2</sup> )	寸法(mm)		入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載ページ
	厚さ	幅	長さ										
	GWHG 14-38	高性能 14	00113675	89	420	2360 [8尺]	10枚	約3.2坪分	2× 壁・屋根	2.3	0.038	NM-5796 -1 (4)	p21
			00113684	90	395	2880 [9.5尺]	10枚	約3.9坪分	R 柱・間柱				
			00113685		10枚		約4.3坪分	R 間柱・間柱					
			00113686		10枚		約4.3坪分	M 間柱・間柱・屋根					
			00109080	105	395	9枚	約3.5坪分	R 柱・間柱					
			00113269		7枚	約2.7坪分	R 間柱・間柱・屋根						
00114308			7枚		約3.0坪分	M 間柱・間柱・屋根							

※アクリアネクスト14Kは、通常繊維のグラスウール24Kまたは高性能グラスウール16Kと同等の断熱性能をもつグラスウールです。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

アクリアウール (防湿フィルム無)										(壁・天井・屋根・床用)				
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m)	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃 認定	備考	掲載 ページ	
			厚さ	幅	長さ									
 ACW	GWHG 16-38	高性能 16	89	375	2350 [8尺]	9枚	約2.9坪分	2×壁・屋根・天井	2.3	0.038	NM- 3469			
				425		9枚	約2.9坪分							
				375	2740 [9尺]	8枚	約3.0坪分							
				425		8枚	約3.0坪分							
			00110020	105	395	2740 [9尺]	8枚	約3.0坪分	⌘柱・間柱				2.8	
			00110019		430		8枚	約3.0坪分	⌘間柱・間柱					
			00114170	120	380	2880 [9.5尺]	6枚	約2.3坪分	⌘柱・間柱				3.2	
			00114171		425		6枚	約2.3坪分	⌘間柱・間柱					
			00114765	140	375	2350 [8尺]	5枚	約1.5坪分	2×壁・屋根				3.7	
			00114513		425		5枚	約1.5坪分						
			00114335	105	810	11000	1ロール	約3.0坪分	⌘床(大引間:810幅)				2.8	
			00114793	50	910	22000	1ロール	約6.0坪分	汎用				1.3	
			00114794	105	910	11000	1ロール	約3.0坪分					2.8	
GWHG 24-36	00114172	高性能 24	105	395	2880 [9.5尺]	4枚	約1.5坪分	⌘柱・間柱	2.9	0.036				
	00114173			430		4枚	約1.5坪分	⌘間柱・間柱						
	00112013		120	390	2770 [9.1尺]	4枚	約1.5坪分	⌘柱・間柱	3.3					
	00112014			430		4枚	約1.5坪分	⌘間柱・間柱						

※別途防湿層の施工が必要です。

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

## アクリアジオス (付加断熱・外張り断熱壁用)

 ACHW	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	熱抵抗値 R[m²・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
				厚さ	幅	長さ							
	GWHG 32-35	00114025	高性能 32	45	410	1820	10枚	約2.5坪分	1.3	0.035	NM-3469	<span>受注</span>	p23

・ 受注 は受注生産品です。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

## アクリアUボードピンレス/アクリアUボードピンレスS (留め付け用不織布付) (剛床用)

 ACUPL	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	用途		熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃 認定	備考	掲載 ページ
				厚さ	幅	長さ			工法	大引サイズ					
	GWHG 24-36	00113701	高性能 24	105	805	805	6枚	約1.5坪分		105	2.9	0.036	—	p24	
		1820			4枚	約2.0坪分	105								
		00110310			※120	790	1820	3枚	約1.5坪分		120	3.3			
 ACUPLS	GWHG 20-36	00115046	高性能 20	90	805	805	8枚	約2.0坪分		105	2.5	0.036	—		
		00115062			820	820	8枚	約2.0坪分		90					
		00115145			888	888	8枚	約2.0坪分		90					
		00115142			1820	4枚	約2.0坪分	90							
		00115045			910	2000	4枚	約2.4坪分		90					

※施工箇所に合わせて適切な寸法の製品をお選びください。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

## アクリアUボードNT (根太床用) (外気に接する床用) (床用)

 ACUNT	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ
	厚さ	幅	長さ											
	GWHG 24-36		00111762	高性能 24	42	263	1820	18枚	約3.0坪分	 洋室:根太間	1.2	0.036	NM-3469	
415						12枚	 和室:根太間							
00111764			80		263	910	18枚	約1.5坪分	 洋室:根太間	2.2				
00111766					415	910	14枚	約1.75坪分	 和室:根太間					

## エースピン (床専用受けピン) 2×4、高根太、間くずれした部分には、受けピンをご使用ください。

品番	製品名	寸法(mm)					入数	剛床の場合のピンの使用本数 (長さ1820~2000 1枚につき)	掲載 ページ
		A	B	C	D	厚			
00103475	AP-42Z 42mm用	42	30	23	75	0.4	200本	片側4本、両側で 8本	p25
00110222	AP-80Z 80mm用	80	30	20	75	0.5	40本	片側4本、両側で 8本	
00800957	AP-90Z 90mm用	90	30	25	75	0.5	20本	片側4本、両側で 8本	
00110916	AP-107ZA 105mm用	107	30	23	77	0.5	20本	片側6本、両側で12本	
00110641	AP-120Z 120mm用	120	30	20	75	0.5	48本	片側6本、両側で12本	

## アクリアブローS

JISによる 表記	品番	用途	施工密度 (kg/m <sup>3</sup> )	熱伝導率*1 [W/(m·K)]	入数	掲載 ページ
LFGW 1352 LFGW 3238	00114976	天井	13以上	0.052	14kg	p26
ABS		屋根・壁・床	32以上	0.038		

\*アクリアブローSはJIS A 9523:吹込み用繊維質断熱材の認証製品です。 ※1 密度の下限值における熱伝導率(測定条件: 23℃)

### 吹込み用グラスウールの設計・施工上のご注意

- ・弊社指定業者による責任施工を実施しています。
- ・別途、防湿層の施工が必要です。
- ・ダウンライトはJIL 5002に適合するSB形をご使用ください。  
(なお、SB形でも吹込み断熱厚に制限が設けられている場合があります。詳細については、機器の説明書をご参照ください。)
- ・天井断熱時は住宅金融支援機構の仕様書に準じた小屋裏換気口を設置してください。
- ・施工する前に施工マニュアルをご確認ください

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。



下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

マットエース10 (壁・天井用)													
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃 認定	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ								
MA	GW 10-50	00004916	10	100	430	14枚	約5.0坪分	R 壁・天井 M 壁・天井	2.0	0.050	NM- 5796 -1(4)	室外側フィルム 色:ピンク	p29
		00007538			2740 [9尺]								

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。厚さ100mm品はJIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

マットエースHG16/マットエースHG24 (壁・天井用)													
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃 認定	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ								
MAHG	GWHG 16-38	高性能 16	50	430	2740 [9尺]	15枚	約5.6坪分	R 壁・天井	1.3	0.038	NM- 5796 -1(4)	室外側フィルム 色:グレー	p29
					395	8枚	約3.0坪分		2.6			室外側フィルム 色:ピンク	
					430	8枚	約3.0坪分		2.6			室外側フィルム 色:ピンク	
MAHG	GWHG 24-35	高性能 24	50	430	1370	22枚	約4.0坪分	R 壁・天井	1.4	0.035	NM- 5796 -1(4)	室外側フィルム 色:グレー	
						11枚	約2.0坪分		2.9			室外側フィルム 色:ピンク	

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

アクリアGPACマット (壁・天井用)													
JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃 認定	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ								
AGPM24	GWHG 24-34	高性能 24	50	430	1370	20枚(12m <sup>2</sup> )	約3.7坪分	壁・天井	1.5	0.034	NM-5796 -1(4)		p30
						10枚(6m <sup>2</sup> )	約1.8坪分		2.9				


下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

グラスロン間仕切エース										(間仕切壁用)	
 PE10	JISによる 表記	品番	密度 (kg/㎡)	寸法(mm)			入数	主な用途	熱伝導率 [W/(m・K)]	備考	掲載 ページ
				厚さ	幅	長さ					
	GW10-50	00000862	10	75	395	430	20枚	気流止め用	0.050		p31

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

リフォーム用アクリアUボードピンレス													
	JISによる 表記	品番	密度 (kg / m <sup>3</sup> )	商品名	寸法(mm)			入数	施工坪数	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	備考	掲載 ページ
					厚さ	幅	長さ						
 ACUPL	GWHG 24-36	00113876	高性能 24	80X820X450 REFORM	80	820	450	14枚	約1.75坪分	2.2	0.036	短辺耳付き	p32
		00113658		80X870X450 REFORM		870		14枚					
		00113392		80X910X450 REFORM		910		14枚					
		00113918		80X940X450 REFORM		940		14枚					
		00112149		80X420X910 REFORM		420	910	16枚	約2.0坪分			長辺耳付き	
		00113498		80X450X910 REFORM		450		14枚	約1.75坪分				

下表に記載の製品はJIS A 9529:建築用真空断熱材の認証製品です。

ビップビルドVIP-Build (建築用真空断熱材)											
 VIP-BD	JISによる 表記	品番	寸法(mm)			入数	熱抵抗値 R[m・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	認証規格	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ						
	グラスウール 芯材VIP	10103558 10103557	16	370 405	910	10枚	4.0	0.004	JIS A 9529	<div>受注</div>	p33

- ・ 受注 は受注生産品です。
- ・ 熱伝導率はJIS A 9529にて定められている23℃における値です。

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

下表に記載の製品はJIS A 9504:人造鉱物繊維保温材(F☆☆☆☆)、JIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

## グラスロンウール (ロール)

 グラスロンウール GW16 GW24 GW32	品番	密度 (kg/㎡)	寸法(mm)			入数	認証規格	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ	
			厚さ	幅	長さ							
	00354160	16	100	910	11000	1ロール	JIS A 9521 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.045 (JIS A 9521)	NM-3847		p34	
	00358190	24	25	910	22000	1ロール	JIS A 9504 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.038 (JIS A 9521)				
	00302369		40	910	22000	1ロール						
	00800863		50	303*	16000	3ロール	JIS A 9504 JIS A 9521 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.049 (JIS A 9504)				
	00800864			455*		2ロール						
	00800862			910		1ロール						
	00358882		75	910	11000	1ロール						
	00359030		100	910	11000	1ロール						
00113854	32	25	910	16000	1ロール	JIS A 9504 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.036 (JIS A 9521)					
00800860		50	303*	11000	3ロール	JIS A 9504 JIS A 9521 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.046 (JIS A 9504)					
00800861			455*		2ロール							
00800859			910		1ロール							


\*パーティションウールです。

・ JIS A 9521における熱伝導率の規定値は(at 23℃)です。

・ JIS A 9504における熱伝導率の規定値は(at 70℃)です。

下表に記載の製品はJIS A 9504:人造鉱物繊維保温材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

## グラスロンウール (ボード)

	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	認証規格	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	備考	掲載 ページ		
			厚さ	幅	長さ								
 グラスロンウール GW32 GW40 GW48 GW64 GW80 GW96	00060232	32	25	605	910	20枚	JIS A 9504 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.046	NM-8605		p35		
	00042200			910	1820	10枚							
	00042367		40	265*	1820	18枚							
	00060216			605	910	12枚							
	00060003			910	1820	6枚							
	00060224			605	910	10枚							
	00042188		50	910	1820	5枚							
	00012828		100	910	1820	3枚							
	00061221	40	25	605	910	20枚		0.044					
	00049026			910	1820	10枚				受注			
	00060976		40	605	910	12枚				受注			
	00049018			910	1820	6枚				受注			
	00060887			50	605	910				10枚			
	00049000				910	1820				5枚		受注	
	00061832		48	25	910	1820				10枚		0.043	受注
	00061841			50	910	1820				5枚			受注
	00054895	64	25	910	1820	8枚	0.042						
	00054879	80	25	910	1820	8枚		受注					
	00003085	96	25	910	1820	6枚							

・ **受注** は受注生産品です。お問い合わせください。 \* パーティションウールです。

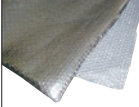
・ 熱伝導率はJIS A 9504 の規定値(at 70℃)です。

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

## 風通し銀次郎

	品番	種類	寸法(mm)			対応垂木ピッチ (mm)	入数	施工坪数	主な用途	備考	掲載 ページ
			厚さ	幅	長さ						
風通し銀次郎	00106048	風通し銀次郎	3	560	850	455	50枚	約5.8坪分	屋根の遮熱 通気層確保		p36

## 遮熱エース

	品番	寸法(mm)			入数	施工坪数	主な用途	備考	掲載 ページ
		厚さ	幅	長さ					
遮熱エース	00101056	4	910	50m	1本	約13.7坪分	屋根の遮熱 (天井断熱用)		p37

## 防湿気密シート

販売終了予定

	品番	寸法(mm)			入数	主な用途	備考	掲載 ページ
		厚さ	幅	長さ				
防湿気密シート	00800990	0.1	1050	100m	1本	別張り防湿シート	JIS A 6930 準拠品	p38
	00800729	0.2	2000*	50m				

※ 2つ折りの為、梱包形状は1000mm幅のロール形状になります。

## 防湿気密シート

後継品

	品番	寸法(mm)			入数	主な用途	備考	掲載 ページ
		厚さ	幅	長さ				
防湿気密シート	00801243	0.1	1050	100m	1本	別張り防湿シート	JIS A 6930 準拠品	p38
	00801244	0.2	2000*	50m				

※ 2つ折りの為、梱包形状は1000mm幅のロール形状になります。

## 調湿気密シート アクリアHCシートα

	品番	寸法(mm)			入数	主な用途	備考	掲載 ページ
		厚さ	幅	長さ				
調湿気密シート	00801131	0.3	1500	50m	1本	別張り用調湿シート		p38

## 気密テープ

	品番	種類	寸法(mm)		入数	剥離紙	備考	掲載 ページ
			幅	長さ				
気密テープ	00106327	気密テープ	50	20m	30巻	なし	防湿層の補修テープとしても使えます	p39

## 気密コンセントボックスカバー

	品番	種類	寸法(mm)			入数	備考	掲載 ページ
			縦	横	奥行			
気密コンセント ボックスカバー	00110630	気密コンセントボックスカバー-S	205	112	50	50個	シングルボックス用	p39
	00110629	気密コンセントボックスカバー-W	208	154	50	25個	ダブルボックス用	

## ALGCシート

	品番	寸法(mm)			入数	主な用途	備考	掲載 ページ
		厚さ	幅	長さ				
ALGCシート	00110218	0.15	1000	30m	1本	木住協® 耐火認定用	木住協指定品	p39

※ (一社)日本木造住宅産業協会

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

## 屋根材:ファイバーグラスシングル

## リッジウェイ

用途	色	寸法(mm)			入数	施工面積	掲載ページ
			幅	長さ			
屋根材	デュアルブラック ハーバードスレート デュアルブラウン アーストンシーダー* ウィンテージグリーン*	本体形状寸法	349	1038	16枚/ケース	2.47㎡/ケース	p40
		働き寸法	149	1038			

\*アーストンシーダー及びウィンテージグリーンは在庫なくなり次第、販売を終了とさせていただきます。

## 屋根材:専用部材

## ヒップアンドリッジ (リッジウェイ専用棟部材)

用途	色	寸法(mm)			入数	1梱包当たり 葺き長さ	掲載ページ
			幅	長さ			
棟部材	5色* (リッジウェイ本体) に対応	本体形状寸法	305	337	78枚/ケース (26シート入り)	11.1m	p42
		働き寸法	305	143			
		1シート寸法(カット前)	915	337			

\*アーストンシーダー及びエメラルドグリーンは在庫なくなり次第、販売を終了とさせていただきます。

## スターターシングル (リッジウェイ専用部材)

用途	寸法(mm)			入数	1梱包当たり 葺き長さ	掲載ページ
		幅	長さ			
軒先用部材	本体形状寸法	200	1038	36枚/ケース (18シート入り)	37.3m	p42
	1シート寸法(カット前)	400	1038			

## リッジロール (換気部材)

用途	寸法		長さ当たり換気面積	材質	掲載ページ
	幅	長さ			
換気部材	286mm	6.096m	268.8cm <sup>2</sup> /m	高耐久プラスチック+通風撥水シート	p42

## シングル釘

用途	寸法	入数	使用量	正味量	掲載ページ
シングル本体用釘	HDリング25mm	約550本/箱	4本/枚(標準仕様) 6本/枚(強風仕様)	1kg/箱	p42
シングル棟用釘	HDリング50mm	約330本/箱			

## シングル用接着剤

商品名	正味量	入数	使用量	掲載ページ
RW2000(カートリッジタイプ)	320ml/本	10本/箱	約2坪/本	p42
RW2000(チューブタイプ)	700ml/本	10本/箱	約4.2坪/本	

施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。





## 住宅用製品 目次

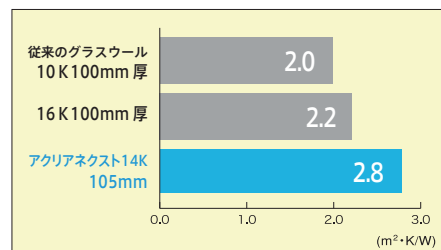
アクリアの製品特長 .....	14	マットエース .....	28
天井用Rシリーズ .....	15	マットエース10/マットエースHG16/マットエースHG24	
アクリアαR71/アクリアR57/アクリアR45		アクリアGPACマット .....	30
アクリアネクストα .....	16	グラスロン間仕切エース .....	31
アクリアマットα .....	17	リフォーム .....	32
アクリアウールα/アクリアTSα .....	18	リフォーム用アクリアUボードピンレス	
アクリアUボードピンレスα/		ビップビルド(建築用真空断熱材) .....	33
アクリアUボードNTα .....	19	グラスロンウール(ロール) .....	34
アクリアマット .....	20	グラスロンウール(ボード) .....	35
アクリアネクスト .....	21	遮熱材 .....	36
アクリアウール .....	22	風通し銀次郎/遮熱エース	
アクリアジオス .....	23	副資材 .....	38
アクリアUボードピンレス/		防湿気密シート/調湿気密シート/気密テープ/	
アクリアUボードピンレスS .....	24	気密コンセントボックスカバー/ALGCシート	
アクリアUボードNT .....	25	屋根材(ファイバーグラスシングル) .....	40
アクリアブローS .....	26	リッジウェイ	
		【専用部材】	
		ヒップアンドリッジ(棟部材)/スターターシングル/	
		リッジロール(換気部材)/シングル釘/シングル用接着剤	

## 優れた断熱性能

### 最新の細繊維技術により断熱性能UP

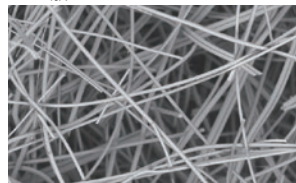
グラスウールは、細いガラス繊維が絡み合っている空間によって、熱を伝えにくくしている断熱材です。アクリアは一般のグラスウールに比べて繊維径が細く、本数が多いので断熱性能が向上します。また、アクリア $\alpha$ は従来のアクリアの繊維をさらに細繊維化することにより、高い熱伝導率を実現しました。

#### ●断熱性能「熱抵抗値」の比較



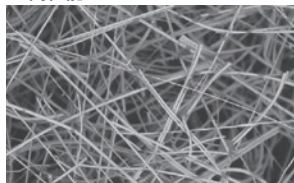
アクリアは、一般のグラスウールに比べて細い繊維で構成された高性能グラスウールです。

#### ■ 一般のグラスウール



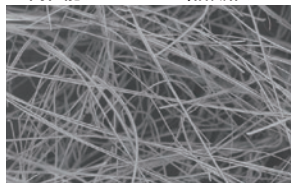
平均繊維径約7～8ミクロン  
グラスウール 10kg/m³ (0.050)※

#### ■ 高性能グラスウール



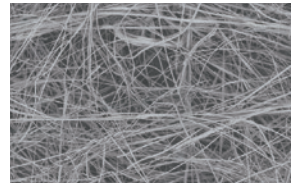
平均繊維径約5～6ミクロン  
アクリアウール 16kg/m³ (0.038)※

#### ■ 高性能グラスウール(細繊維タイプ)



平均繊維径約4～5ミクロン  
アクリアネクスト 14kg/m³ (0.038)※

#### ■ 高性能グラスウール(超細繊維タイプ)



平均繊維径約3～4ミクロン  
アクリア $\alpha$ (アルファ) 36kg/m³ (0.032)※  
20kg/m³ (0.034)※

※ 参考値: 23°Cの時の熱伝導率[W/(m・K)]

## ノン・ホルムアルデヒド

### 家族の健康・安心に配慮

アクリアは、シックハウス症候群の原因の一つといわれるホルムアルデヒドを含まない材料を使用しています。



アクリアは人体への安全性が極めて高いグラスウール断熱材です。グラスウールは物質の発がん性評価機関「IARC」(国際がん研究機関)による評価でも、ヒトに対して発がん性に分類されないグループに属しています。

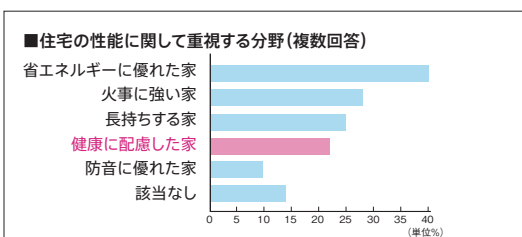
ホルムアルデヒドはシックハウス症候群との関連だけでなく、発がん性を指摘されている有害物質です。アクリアなら、**ノン・ホルムアルデヒド**はもちろんのこと、**ノン・アスベスト**。万一施工時に吸い込んだとしても容易に分解して体外に排出されることが知られています。

グループ 1	ヒトに対して発がん性がある	アスベスト、たばこなど
グループ 2A	ヒトに対して発がん性でありうる	とても熱い飲み物、レッドミート(ほ乳類の肉)など
グループ 2B	ヒトに対して発がん性の可能性がある	ガソリン、ビクスルなど
グループ 3	ヒトに対して発がん性に分類されない	グラスウール(短繊維)、コーヒー、紅茶など
グループ 4	ヒトに対しておそらく発がん性がない	カプロラクタム 1 品種のみ

「IARC」(国際がん研究機関)2016年6月現在

「健康に配慮した家」への関心の高まりに対応！

戸建て住宅を検討中の方の間でもシックハウス症候群の心配のない、健康・安全な住宅へのニーズはさらに高まっていくと考えられます。



平成19年12月国土交通省実施調査資料より住宅の断熱に関する項目を抜粋して作成



天井用断熱としてRシリーズに生まれ変わりました。

## アクリアαR71 (アール ナイチ)

製品記号  
ACMアルファ

シリーズ最高厚み・最高熱抵抗値を更新！  
高断熱住宅の天井用におすすめ



熱抵抗値  
**7.1**  
[m<sup>2</sup>・K/W]

熱伝導率  
**20K:0.035**  
[W/(m・K)]

18ミクロン厚の防湿フィルム付

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材 (F☆☆☆☆) の認証製品です。

＜防湿ポリエチレンフィルム＞ 厚さ18ミクロン、透湿抵抗値0.032[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng] 測定条件:温度25℃、相対湿度90%(参考値であり、保証値ではありません)  
＜孔あきポリエチレンフィルム＞ 厚さ10ミクロン、透湿抵抗値0.003[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng]

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	EIマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACMアルファ	GWHG 20-35	00610033	高性能20	250	455	1370	5枚	約0.9坪分	天井	7.1	0.035	NM-5796-1(4)	26,700		

## アクリアR57 (アールゴナナ)

製品記号  
ACM

厚さ200mmの1層で、熱抵抗値5.7m<sup>2</sup>・K/Wを実現。  
ZEH+やHEAT20などの高断熱住宅に最適です。



熱抵抗値  
**5.7**  
[m<sup>2</sup>・K/W]

18ミクロン厚の防湿フィルム付

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材 (F☆☆☆☆) の認証製品です。

＜防湿ポリエチレンフィルム＞ 厚さ18ミクロン、透湿抵抗値0.032[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng] 測定条件:温度25℃、相対湿度90%(参考値であり、保証値ではありません)  
＜孔あきポリエチレンフィルム＞ 厚さ10ミクロン、透湿抵抗値0.003[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng]

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	EIマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACM	GWHG 20-35	00610032	高性能20	200	455	1370	6枚	約1.1坪分	天井	5.7	0.035	NM-5796-1(4)	21,360		

## アクリアR45 (アールヨンゴ)

製品記号  
ACM

断熱等性能等級5  
3～7地域の天井の熱抵抗の基準:R4.4に対応



熱抵抗値  
**4.5**  
[m<sup>2</sup>・K/W]

18ミクロン厚の防湿フィルム付

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材 (F☆☆☆☆) の認証製品です。

＜防湿ポリエチレンフィルム＞ 厚さ18ミクロン、透湿抵抗値0.032[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng] 測定条件:温度25℃、相対湿度90%(参考値であり、保証値ではありません)  
＜孔あきポリエチレンフィルム＞ 厚さ10ミクロン、透湿抵抗値0.003[m<sup>2</sup>・S・Pa/ng]

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	EIマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACM	GWHG 14-38	00114937	高性能14	170	455	1370	10枚	約1.88坪分	天井	4.5	0.038	NM-5796-1(4)	12,450		

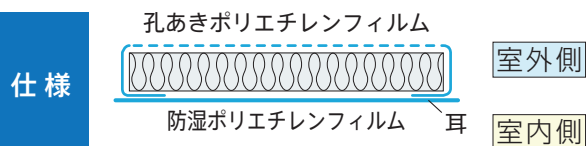
断熱等性能等級5以上 誘導基準(ZEH水準)対応(3地域以南:壁)  
JIS A 6930 同等の防湿気密フィルム(50ミクロン厚)付属の製品



高性能防湿フィルム付  
アクリア



用途 壁・屋根の断熱



アクリアは全て高性能グラスウールです。

- 高性能グラスウールです。
- 高い防湿性能を有しています。

特長

＜防湿ポリエチレンフィルム＞  
防湿性能 JIS A 6930 同等品  
フィルム厚さ: 50ミクロン  
透湿抵抗値: 0.123 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)  
測定条件: 温度 25℃、相対湿度 90%  
※参考値。保証値ではありません。

＜孔あきポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ: 10ミクロン  
透湿抵抗値: 0.003 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

- 従来のグラスウールに比べてフィルム耳幅が広くなっており、施工性に優れています。
- 省エネルギー基準の施工で推奨されている防湿フィルムの重ね幅(概ね30mm以上)に対応しています。
- 6面パックの“フルパック仕様”です。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	Eiマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACNアルファ	GWHG 20-34	00113403	高性能 20	105	395	2880	6枚	約2.3坪分	壁	3.1	0.034	NM-5796-1(4)	12,240	Ei	
		00113404			430								12,240		
		00113806			470		5枚	約2.1坪分					12,240		

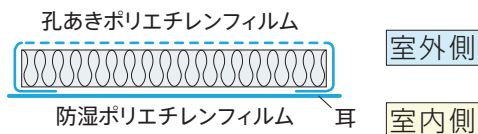


## 18ミクロン厚の防湿フィルム付の製品



**用途** 天井の断熱

**仕様**



**特長**

- 高性能グラスウールです。
- 従来のグラスウールに比べてフィルム耳幅が広くなっており、施工性に優れています。
- 6面パックの“フルパック仕様”です。

<防湿ポリエチレンフィルム> フィルム厚さ：18ミクロン 透湿抵抗値：0.032 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)  
 <孔あきポリエチレンフィルム> フィルム厚さ：10ミクロン 透湿抵抗値：0.003 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

測定条件：温度 25℃、相対湿度 90%  
※参考値。保証値ではありません。

下表に記載の製品はJIS A 9521：建築用断熱材 (F☆☆☆☆) の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	EI マーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACM アルファ	GWHG 20-34	00113405	高性能 20	155	455	1370	8枚	約1.5坪分	天井	4.6	0.034	NM-5796 -1 (4)	16,560		

# アクリアウルα

製品記号  
ACWアルファ

## 防湿フィルム別張タイプの製品



熱伝導率  
20K:0.034  
[W/(m·K)]  
28K:0.033  
[W/(m·K)]  
36K:0.032  
[W/(m·K)]

用途 壁・天井・床の断熱

仕様 ポリエチレンフィルムに包まれていない  
グラスウールです。

※別途防湿シートを施工してください。

特長

- 高性能グラスウールです。
- 手触りもソフト、従来のグラスウール特有のチクチク感が大幅に改善されています。



下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m²·K/W]	熱伝導率[W/(m·K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	Eマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACWアルファ	GWHG 20-34	00114167	高性能20	89	425		12枚		壁	2.6	0.034	NM-3469	8,900		
		00113401			395	1370	12枚	約2.2坪分		3.1			10,500	Ⓔ	
		00113402		105	430		12枚						10,500	Ⓔ	
		00114198			1190		8枚	約1.3坪分		4.1			14,000	Ⓔ	
		00114202		140	420	1330	8枚	約1.4坪分					14,000	Ⓔ	
	GWHG 28-33	00114935	高性能28	89	380		8枚			2.7	0.033		9,390	Ⓔ	
		00114934			420	1330	8枚	約1.4坪分					9,390	Ⓔ	
	GWHG 36-32	00114031	高性能36		390	1370	6枚			3.3	0.032	NM-3582	11,640	Ⓔ	
		00114032		105	425		6枚	約1.1坪分					11,640	Ⓔ	

※別途防湿層の施工が必要です。

# アクリアTSα

製品記号  
ACTSアルファ



熱抵抗値  
3.3  
[m²·K/W]

用途 壁の断熱

特長

- 約2.9ミクロンの超細繊維により、熱伝導率0.032W/(m·K)を実現した高性能グラスウールです。
- シックハウスの原因となるホルムアルデヒドを含む材料を使用していない高性能グラスウールです。
- 片面透湿フィルム付きで、裸品よりも外観・施工性が向上しています。

※別途防湿シートを施工してください。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m²·K/W]	熱伝導率[W/(m·K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	Eマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACTSアルファ	GWHG 28-32	00115215	高性能28		390	2740	4枚		壁	3.3	0.032	NM-5796-1(3)	11,640	Ⓔ	
		00115216		105	425			約1.5坪分							

※別途防湿層の施工が必要です。

# アクリアUボードピンレスα

製品記号  
ACUPLアルファ

不織布のついた透湿性床用断熱材 受け金具は基本的に不要、剛床タイプ

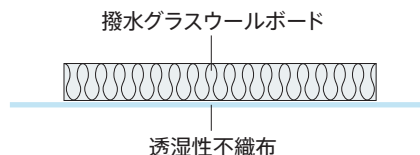


熱伝導率  
**0.032**  
[W/(m・K)]

用途 床の断熱

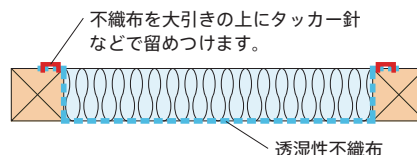
仕様

不織布のついた透湿性床用断熱材です。



特長

- 高性能グラスウールです。
- 施工性に優れています。付属の不織布を大引き・土台にタッカー針などで留めます。専用の受け金具などは基本的に不要です。(2×4、間くずれした部分でご使用になる場合には、受け金具(P25 エースピン)を使うことができます。)
- 適度な弾力性があり、隙間のない断熱施工が可能です。
- 透湿性があります。アクリアUボードピンレスは、水蒸気を通しやすい素材ですので、床合板の湿気を逃します。  
**必ず不織布を下に向けて施工してください。**



下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m²・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	Eマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACUPLアルファ	GWHG 36-32	00115168	高性能36	105	805	805	6枚	約1.5坪分	床	3.3	0.032	—	17,520		

# アクリアUボードNTα

製品記号  
ACUNTアルファ

断熱等性能等級5

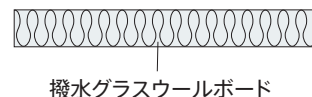
4～7地域の「外気に接する床」の熱抵抗値の基準(R3.4)に対応



熱抵抗値  
**3.4**  
[m²・K/W]

用途 床の断熱

仕様



特長

- 高性能グラスウールです。
- 施工性に優れています。適度な弾力性があり、隙間のない施工が可能です。
- 透湿性に優れています。水蒸気を通しやすい素材ですので、床合板の湿気を逃がします。

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	施工部位	熱抵抗値R[m²・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	Eマーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACUNTアルファ	GWHG 20-35	00114955 00114956	高性能20	120	805 820	805 820	6枚	約1.5坪分	床	3.4	0.035	NM-3469	11,970		

・施工時に使用する受け金具は120mm用のご用意があります。(P.25エースピン規格参照)

新築からリフォームまで幅広い用途に対応



防湿フィルム付  
(18ミクロン厚)  
アクリア



10K-50mm



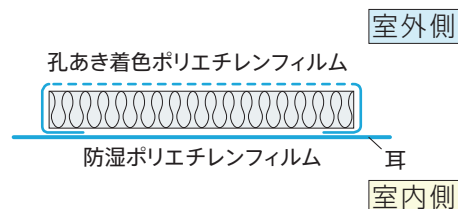
16K-100mm



14K-155mm

用途 壁・天井の断熱

仕様



特長

○高性能グラスウールです。

＜防湿ポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ：18ミクロン  
透湿抵抗値：0.032 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

＜孔あきポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ：10ミクロン  
透湿抵抗値：0.003 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

測定条件：温度 25℃、相対湿度 90%  
※参考値。保証値ではありません。

- 従来のグラスウールに比べてフィルム耳幅が広くっており、施工性に優れています。
- 10K50mmは、上下面切り放しの4面パックです。その他の物は6面パックの“フルパック仕様”です。

## ■アクリアマット(防湿フィルム付)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	E マーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACM	GWHG 10-43	00111143	高性能 10	50	430	2880 <span>95R</span>	24枚	約9.5坪分	壁・天井	1.2	0.043	NM-5796 -1(4)	2,450		
		00111235		100	395		12枚	約4.7坪分	<span>R</span> 壁・天井	2.3			5,420		
		00111236			430	2880 <span>95R</span>	12枚		<span>R</span> 壁・天井				5,420		
		00111237			470		11枚		<span>M</span> 壁・天井				5,420		
	GWHG 14-38	00110572	高性能 14	155	455	1370 <span>45R</span>	11枚	約2.0坪分	<span>R</span> <span>M</span> 天井(等級4向)	4.1	0.038		11,350		
	GWHG 16-37	00114220	高性能 16	100	430	2880 <span>95R</span>	8枚	約3.1坪分	<span>R</span> 壁・天井	2.7	0.037		7,100		

※アクリアマット14Kは、通常繊維のグラスウール24Kまたは高性能グラスウール16Kと同等の断熱性能をもつグラスウールです。

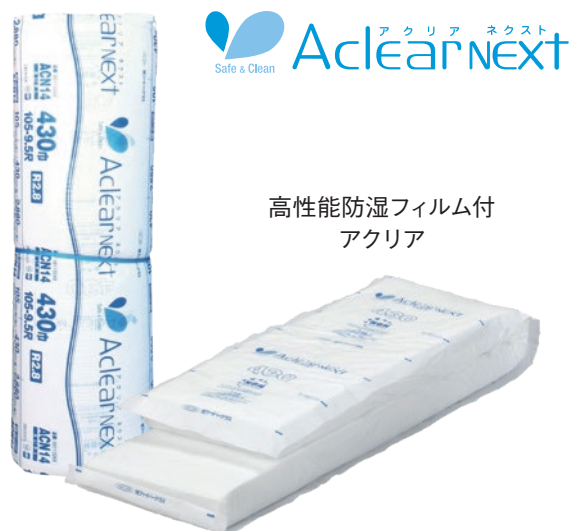
※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

※10K-100mm及び14K-155mmの室外フィルムの色は乳白色、10K-50mmはグレー、16K-100mmはピンクです。

R 軸組尺モジュール M 軸組メーターモジュール 2x 枠組尺モジュール



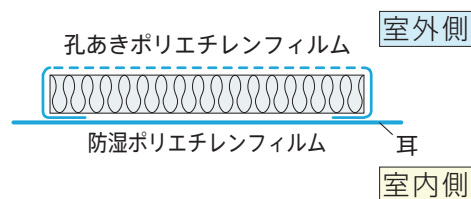
## JIS A 6930 同等の防湿フィルム(50ミクロン厚)付属



アクリアは全て高性能グラスウールです。

用途 壁・屋根の断熱

仕様



特長

- 高性能グラスウールです。
- 高い防湿性能を有しています。

＜防湿ポリエチレンフィルム＞  
防湿性能 JIS A 6930 同等品

フィルム厚さ：50 ミクロン  
透湿抵抗値：0.123 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

＜孔あきポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ：10ミクロン  
透湿抵抗値：0.003 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

測定条件：温度 25℃、相対湿度 90%  
※参考値。保証値ではありません。

- 従来のグラスウールに比べてフィルム耳幅が広がっており、施工性に優れています。
- 省エネルギー基準の施工で推奨されている防湿フィルムの重ね幅(概ね30mm以上)に対応しています。
- 6面パックの“フルパック仕様”です。

### ■アクリアネクスト(高性能防湿フィルム付)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃 認定	設計価格 (円/坪)	E マーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACN	GWHG 14-38	00113675	高性能 14	89	420	2360 [8尺]	10枚	約3.2坪分	2× 壁・屋根	2.3	0.038	NM- 5796 -1 (4)	7,390		
		00113684			395		10枚	約3.9坪分	柱・間柱				7,550		
		00113685		90	430	2880 [9.5尺]	10枚	約3.9坪分	間柱・間柱	2.4			7,550		
		00113686			470		10枚	約4.3坪分	間柱・間柱・屋根				7,550		
		00109080	105		395		9枚	約3.5坪分	柱・間柱	2.8			8,180	E1	
		00113269			430	2880 [9.5尺]	7枚	約2.7坪分	間柱・間柱・屋根				8,180	E1	
		00114308			470		7枚	約3.0坪分	間柱・間柱・屋根				8,180	E1	

※アクリアネクスト14Kは、通常繊維のグラスウール24Kまたは高性能グラスウール16Kと同等の断熱性能をもつグラスウールです。

※上記の使用箇所以外に天井でもご利用いただけます。 ※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

※厚さ90mm品の室外側フィルムの色はグリーン、その他の厚さの品種は乳白色です。

Ⓔ 軸組尺モジュール M 軸組メーターモジュール 2× 枠組尺モジュール

## 防湿フィルム別張りタイプのアクリア



**用途** 壁・天井・床の断熱

**仕様**

ポリエチレンフィルムに包まれていない  
グラスウールです。



アクリアウル施工例

※別途防湿シートを施工してください。

**特長**

- 高性能グラスウールです。
- 手触りもソフト、従来のグラスウール特有のチクチク感が大幅に改善されています。



## ■アクリアウールの規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m)	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃 認定	設計価格 (円/坪)	EI マーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
ACW	GWHG 16-38	00113677	高性能 16	89	375	2350 [8尺]	9枚	約2.9坪分	2× 壁・屋根・天井	2.3	0.038	NM- 3469	7,790		
		00113676			425		9枚						7,790		
		00113682			375	2740 [9尺]	8枚	約3.0坪分					7,790		
		00113683			425		8枚						7,790		
		00110020		105	395	2740 [9尺]	8枚	約3.0坪分	尺 柱・間柱	9,020			尺		
		00110019			430		8枚		尺 間柱・間柱	9,020			尺		
		00114170		120	380	2880 [9.5尺]	6枚	約2.3坪分	尺 柱・間柱	10,300			尺		
		00114171			425		6枚		尺 間柱・間柱	10,300			尺		
		00114765		140	375	2350 [8尺]	5枚	約1.5坪分	2× 壁・屋根	12,010			尺		
		00114513			425		5枚			12,010			尺		
		00114335		105	810	11000	1ロール	約3.0坪分	尺 床(大引間:810幅)	2.8			9,020	尺	
		00114793		50	910	22000	1ロール	約6.0坪分	汎用	1.3			4,300		
		00114794	105	910	11000	1ロール	約3.0坪分	2.8		9,020	尺				
	GWHG 24-36	00114172	高性能 24	105	395	2880 [9.5尺]	4枚	約1.5坪分	尺 柱・間柱	2.9	0.036		14,390	尺	
		00114173			430		4枚		尺 間柱・間柱				14,390	尺	
		00112013		120	390	2770 [9.1尺]	4枚	約1.5坪分	尺 柱・間柱	3.3			16,440	尺	
		00112014			430		4枚		尺 間柱・間柱				16,440	尺	

※別途防湿層の施工が必要です。

※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

尺 軸組尺モジュール 2× 枠組尺モジュール

○保管時および施工後は養生をし、雨にぬらさないようにご注意ください。 ○床でのご使用の際は、床下換気量を十分確保ください。

## 高性能グラスウールのアクリアによる外張用断熱材

**用途** 付加断熱・外張り断熱

**仕様** 高性能・撥水グラスウールボード

**特長** グラスウールなので耐熱性に優れます。



### ■アクリアジオスの規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材 (F☆☆☆☆) の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	備考
				厚さ	幅	長さ							
ACHW	GWHG 32-35	00114025	高性能 32	45	410	1820	10枚	約2.5坪分	1.3	0.035	NM-3469	8,690	受注

・ **受注** は受注生産品です。

# アクリアUボードピンレス/アクリアUボードピンレスS

製品記号  
ACUPL/ACUPLS

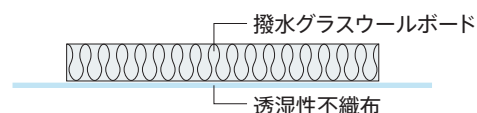
施工性に優れ、透湿性を備えた床用アクリア。受け金具は基本的に不要、剛床タイプ



用途 床の断熱

仕様

不織布のついた透湿性床用断熱材です。



断熱等性能等級5  
対応仕様例

床(その他の床)  
[剛床タイプ]

1、2、3 地域

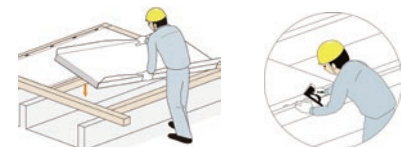
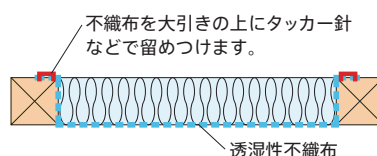
アクリア Uボードピンレス  
24K120mm

4 地域以南

アクリア UボードピンレスS  
20K90mm

特長

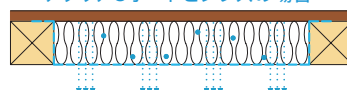
- 高性能グラスウールです。
- 施工性に優れています。付属の不織布を大引き・土台にタッカー針などで留めます。専用の受け金具などは基本的に不要です。  
(2×4、間くずれした部分でご使用になる場合には、受け金具(P.25 エースピン)を使うことができます。)



- 適度な弾力性があり、隙間のない断熱施工が可能です。

- 透湿性があります。  
アクリアUボードピンレスは、水蒸気を通しやすい素材ですので、床合板の湿気を逃します。必ず不織布を下に向けて施工してください。

アクリアUボードピンレスの場合



発泡系断熱材の場合



## ■アクリアUボードピンレスの規格 (剛床用)

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

R 軸組尺モジュール M 軸組メーターモジュール

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	用途		熱抵抗値 R[m²K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	E1マーク	備考
				厚さ	幅	長さ			工法	大引サイズ						
ACUPL	GWHG 24-36	00113701	高性能 24	105	805	805	6枚	約1.5坪分	R	105	2.9	0.036		12,140	E1	
		00112651				1820	4枚	約2.0坪分		105				12,140		
		00110310				※120 790 1820	3枚	約1.5坪分		120				13,860		
ACUPLS	GWHG 20-36	00115046	高性能 20	90	820	805	8枚	約2.0坪分	R	105	2.5	0.036	—	10,320	E1	
		00115062				820	8枚	約2.0坪分		90				10,320		
		00115145				888	8枚	約2.0坪分		90				10,320		
		00115142				1820	4枚	約2.0坪分		90				10,320		
		00115045				910 2000	4枚	約2.4坪分		90				10,320		
									M	90				10,320		

基礎パッキンからの通気経路をふさぎ床下換気を阻害しないよう、120mm品は120mm以上、105mm品は105mm以上の大引をご使用ください。

※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。



- 保管時および施工後は養生をし、雨にぬらさないようにご注意ください。○床下換気量を十分確保ください。
- 不織布は強風などで剥がされる可能性があります。不織布面を下にして保管願います。



## 施工性に優れ、透湿性を備えた床用アクリア。根太床、外気に接する床タイプ



**用途** 床の断熱

**仕様**



撥水グラスウールボード

**特長**

- 高性能グラスウールです。
- 施工性に優れています。適度な弾力性があり、隙間のない施工が可能です。
- 透湿性に優れています。水蒸気を通しやすい素材ですので、床合板の湿気を逃がします。

### 断熱等性能等級5対応仕様例

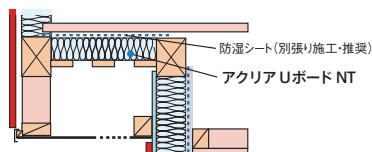
#### 床 (その他の床) [根太床タイプ]

- 1、2、3 地域 (根太間に) アクリアUボードNT24K42mm  
+ (大引間に) アクリアUボードピンレスS20K90mm
- 4 地域以南 アクリアUボードNT24K80mm

### 断熱等性能等級5対応仕様例

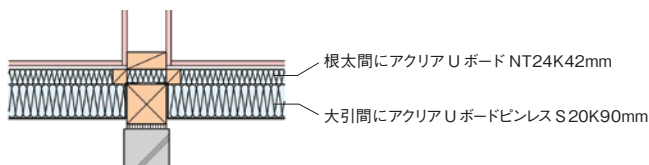
#### 外気に接する床

- 4 地域以南 アクリアUボードNTα20K120mm (P.19)

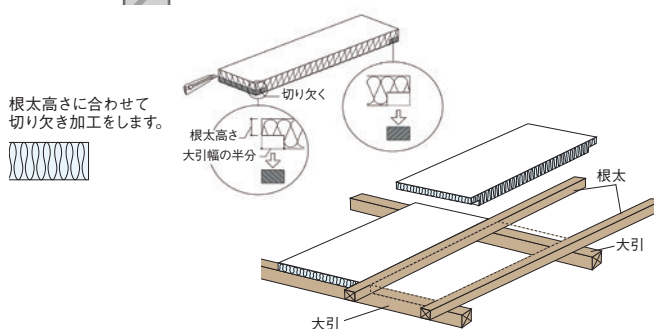


外気に接する床の場合

1、2、3地域



4 地域以南



## アクリアUボードNTの規格 (根太床用) (外気に接する床用)

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

軸組尺モジュール 2× 枠組尺モジュール

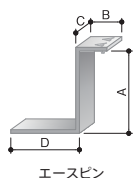
製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/㎡)	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[㎡・K/W]	熱伝導率 [W/(㎡・K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	EI マーク	備考		
				厚さ	幅	長さ											
ACUNT	GWHG 24-36	00111762	高性能 24	42	263	1820	18枚	約3.0坪分	洋室:根太間	1.2	0.036	NM- 3469	4,010				
		00111763			415		12枚		和室:根太間				4,010				
		00111764		80	263	910	18枚	約1.5坪分	洋室:根太間	2.2			7,580				
		00111766			415	910	14枚	約1.75坪分	和室:根太間				7,580				

※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

○保管時および施工後は養生をし、雨にぬらさないようにご注意ください。 ○床下換気量を十分確保ください。

## エースピン (床専用受けピン) の規格 2×4、高根太、間くずれした部分には、受けピンを使用ください。

品番	製品名	寸法(mm)					入数	設計価格 (円/本)	剛床の場合のピンの使用本数 (長さ1820~2000 1枚につき)
		A	B	C	D	厚			
00103475	AP-42Z 42mm用	42	30	23	75	0.4	200本	60	片側4本、両側で 8本
00110222	AP-80Z 80mm用	80	30	20	75	0.5	40本	77	片側4本、両側で 8本
00800957	AP-90Z 90mm用	90	30	25	75	0.5	20本	110	片側4本、両側で 8本
00110916	AP-107ZA 105mm用	107	30	23	77	0.5	20本	200	片側6本、両側で 12本
00110641	AP-120Z 120mm用	120	30	20	75	0.5	48本	120	片側6本、両側で 12本



## 吹込みタイプのアクリア。専門工事業者による安心施工



アクリアは、ノン・ホルムアルデヒドの健康住宅用断熱材です。

**用途** 天井、屋根、壁、床用吹込み用断熱材

**仕様** グラスウールを小塊状に加工した吹込み（ブローイング）工法専用の断熱材です。

### 特長

- 専門工事業者による安心の断熱工事です。
- 隙間なく、すみずみまで断熱材が施工できます。  
天井の吊木や配線まわりにも確実に施工できます。
- 断熱材を厚く吹込んででも軽量ですので、天井への負担が少なくすみます。
- 既存住宅への断熱改修工事に最適です。

### ■アクリアブローSの規格

天井、屋根、壁、床とも同一材料で施工できます。

製品記号	JISによる表記	品番	用途	施工密度 (kg/m <sup>3</sup> )	密度の下限值における熱伝導率 [W/(m・K)]	入数	不燃認定
ABS	LFGW1352	00114976	天井	13以上	0.052	14kg	—
	LFGW3238		屋根・壁・床	32以上	0.038		

※アクリアブローSはJIS A 9523:吹込み用繊維質断熱材の認証製品です。

### 天井に施工の場合

標準施工密度 (kg/m <sup>3</sup> )	熱伝導率 [W/(m・K)] (at23℃)	施工条件	
		熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	設計厚さ (mm)
13	0.052	4.0	210
		4.4	230
		5.7	300
		6.7	350
		7.6	400

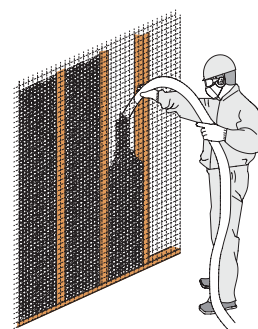
※熱抵抗値は「設計厚さ÷熱伝導率」で算出し、小数点以下第2位を切り捨てた値です。



### 屋根・壁・床に施工の場合

標準施工密度 (kg/m <sup>3</sup> )	熱伝導率 [W/(m・K)] (at23℃)	施工条件	
		熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	設計厚さ (mm)
32	0.038	2.3	89
		2.7	105
		3.1	120
		3.6	140
		4.8	184
		6.1	235
		6.5	250

※熱抵抗値は「設計厚さ÷熱伝導率」で算出し、小数点以下第2位を切り捨てた値です。



### 設計・施工上 の注意

- ・弊社指定業者による責任施工を実施しています。
- ・別途、防湿層の施工が必要です。
- ・ダウンライトはJIL5002に適合するSB形をご使用ください。  
(なお、SB形でも吹込み断熱厚に制限が設けられている場合があります。詳細については、機器の説明書をご参照ください。)
- ・天井断熱時は住宅金融支援機構の仕様書に準じた小屋裏換気口を設置してください。
- ・施工する前に施工マニュアルをご確認ください

## 外皮性能基準別の吹込み用グラスウールの設計厚さ対応表

吹込み用グラスウールの必要厚さを外皮性能基準(省エネ基準及び誘導基準・ZEH水準)の各熱抵抗値から換算しました。

### [ 戸建・木造・充填断熱の場合 ]

#### ■ 省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

断熱部位		標準施工密度 [kg/m <sup>3</sup> ]	1・2 地域		3地域		4～7地域	
			基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]	基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]	基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]
屋 根		32	6.6	251	4.6	175	4.6	175
天 井		13	5.7	297	4.0	208	4.0	208
壁		32	3.3	126	2.2	84	2.2	84
床	外気に接する床	32	5.2	198	5.2	198	3.3	126
	その他の部分	32	3.3	126	3.3	126	2.2	84

#### ■ 誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

断熱部位	標準施工密度 [kg/m <sup>3</sup> ]	1・2 地域		3地域		4～7地域	
		基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]	基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]	基準熱抵抗値 (R値)	最低設計厚さ [mm]
屋 根	32	6.9	263	5.7	217	5.7	217
天 井	13	5.7	297	4.4	229	4.4	229
壁	32	4.0	152	2.7	103	2.7	103
床	外気に接する床	32	5.0	190	5.0	3.4	130
	その他の部分	32	3.3	126	3.3	2.2	84

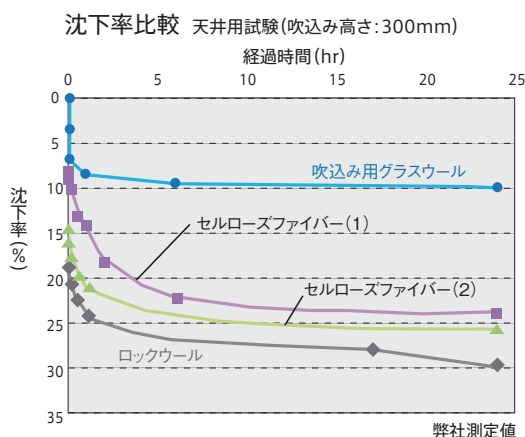
- 熱抵抗値は「設計厚さ÷熱伝導率」で算出し、小数点以下第2位を切り捨てした値です。
- 標準施工密度13kg/m<sup>3</sup>の熱伝導率は0.052W/m・K、32kg/m<sup>3</sup>の熱伝導率は0.038W/m・Kにて算出しています。
- 外皮性能基準につきましては、本書P66～P73をご参照ください。

## 吹込み用グラスウールの製品特長

### 天井施工後の沈下を比べてみると

**吹込み用グラスウールは10%程度。  
セルローズファイバーは20%以上も  
沈下します。**

吹込み式の断熱材は施工後ある程度沈下することが予想されるため、グラスウールもセルローズファイバーも10%吹き増しが施工条件になっています。しかし、施工後の沈下状況を想定する振動試験\*によると、セルローズファイバーは、将来的に20%以上も沈下する結果となり、10%の吹き増しでは基準の断熱性能を確保できません。



#### \* 試験方法

(一財)住宅・建築SDGs推進センター(IBECS)により定められた方法を採用。以下IBEC 法。

尚IBEC 法による24 時間の振動は、以下に示すように実際の交通振動等を20年弱受けるのに相当すると推定している。

『東京都環境白書2004』によれば都内393ヶ所での自動車等による交通振動やその他の原因による振動レベル測定結果は、昼夜を通してその98%が55dB 以下である。

このため、計算ではこの振動を1 日のうち12 時間受けると仮定し、この時の交通振動の加速度レベルを55dB とした。

# マットエース



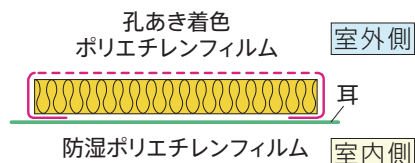
**F★★★★**

ホルム等級を表示しています



**用途** 壁・天井の断熱

**仕様**



**特長**

- 防湿フィルムは施工に便利な耳つきです。
- 6面パックの“フルパック”仕様です。
- 防湿フィルムはグラスウールから簡単に剥がすことができるので、幅詰めも容易で隙間のない正しい断熱施工ができます。
- 室外側フィルムの色で厚さを区別できます。

50mm	100mm
グレー	ピンク

**防湿フィルム表示**



＜防湿ポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ: 18ミクロン  
透湿抵抗値: 0.032 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

＜孔あきポリエチレンフィルム＞  
フィルム厚さ: 10ミクロン  
透湿抵抗値: 0.003 (m<sup>2</sup>・s・Pa/ng)

測定条件: 温度25℃、相対湿度90%  
※参考値。保証値ではありません。



## マットエースご使用の際のお願いとご注意

- 火災防止上、マットエースの表皮材(ポリエチレンフィルム)に裸火、溶接・溶断の火花、その他の火源を近づけないでください。
- 天井に使用する場合、ダウンライトはSB形あるいはSG形をご使用ください。M形は使用しないでください。(なお、SB形、SG形でも断熱厚に制限が設けられている場合があります。詳細については、機器の説明書をご参照ください。)
- 天井に使用する場合、住宅金融支援機構の仕様書に準じた小屋裏換気口を設置してください。
- 防湿フィルムは室内側にし、内装仕上材との隙間が生じないように施工してください。
- 施工の際には、適切な通気措置を施してください。
- 保管時および施工後は雨にぬらさないようにご注意ください。

防耐火構造  
について

グラスウールを使用した住宅の床、屋根など各部位の構造が国土交通省より、「**準耐火構造**」などの例示仕様として告示されています。

【国土交通省例示仕様】

	構造	グラスウール	ロックウール
準耐火構造	(告 平12建告第1358号)	24K以上ー50mm以上	24K以上ー50mm以上



## マットエース10

 製品記号  
MA10

壁・天井用 密度10Kの断熱材、  
尺モジュール・メーターモジュール用

マットエース10



### ■マットエース(尺モジュール、メーターモジュール)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m²·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	備考
				厚さ	幅	長さ								
MA	GW 10-50	00004916	10	100	430	2740[9尺]	14枚	約5.0坪分	R 壁・天井 M 壁・天井	2.0	0.050	NM- 5796 -1(4)	3,830	室外側フィルム 色:ピンク
		00007538			470	2740[9尺]	12枚						3,830	

※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

R 軸組尺モジュール M 軸組メーターモジュール

## マットエースHG16

 製品記号  
MAHG16

壁・天井用 密度16Kの断熱材

厚さ100mm品はJIS A 6301取得  
住宅防音工事対応 ※P117参照

マットエースHG16



### ■マットエースHG16の規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。厚さ100mm品はJIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg / m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	備考
				厚さ	幅	長さ								
MA HG	GWHG 16-38	00113875	高性能 16	50	430	2740 <sup>9</sup> 尺	15枚	約5.6坪分	Ⓔ 壁・天井	1.3	0.038	NM- 5796 -1(4)	2,900	室外側フィルム色：グレー
		100		395	2740 <sup>9</sup> 尺	8枚	約3.0坪分	Ⓔ 壁・天井	2.6	5,340			室外側フィルム色：ピンク	
				430		8枚	約3.0坪分	Ⓔ 壁・天井		5,340			室外側フィルム色：ピンク	

R 軸組尺モジュール

## マットエースHG24

 製品記号  
MAHG24

壁・天井用 密度24Kの断熱材

厚さ100mm品はJIS A 6301取得  
「準耐火構造」などの例示仕様に対応しています。

マットエースHG24



### ■マットエースHG24の規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

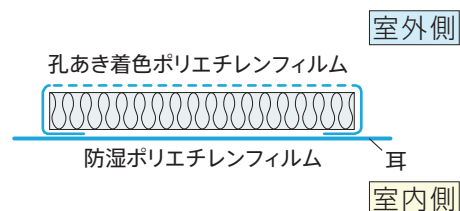
製品 記号	JISによる 表記	品番	密度 (kg/m³)	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・使用箇所	熱抵抗値 R[m²·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃認定	設計価格 (円/坪)	備考
				厚さ	幅	長さ								
MA HG	GWHG 24-35	00115300	高性能 24	50	430	1370	22枚(13㎡)	約4.0坪分	R 壁・天井	1.4	0.035	NM- 5796 -1(4)	5,300	室外側フィルム色:グレー
		00115301		100			11枚(6.5㎡)	約2.0坪分	R 壁・天井	2.9			10,600	室外側フィルム色:ピンク

R 軸組尺モジュール



**用途** 壁・天井の断熱

**仕様**



**特長**

- 高性能グラスウールです。
- 6面パックのフルパック仕様です。
- 防湿フィルムにつきましてはアクリアマット、マットエースと同じ性能となります。  
(防湿フィルムの仕様につきましてはP20・P28を参照ください。)
- 「準耐火構造」例示仕様に対応しています。

## ■アクリアGPACマットの規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	施工坪数	工法・ 使用箇所	熱抵抗値 R[m <sup>2</sup> ·K/W]	熱伝導率 [W/(m·K)]	不燃 認定	設計価格 (円/坪)	EI マーク	備考
				厚さ	幅	長さ									
AGPM 24	GWHG 24-34	00111562	高性能 24	50	430	1370	20枚(12m <sup>2</sup> )	約3.7坪分	壁・天井	1.5	0.034	NM- 5796 -1(4)	5,350	E1	室外側フィルム色: グレー
		00111563		100			10枚(6m <sup>2</sup> )	約1.8坪分	壁・天井	2.9			11,000		室外側フィルム色: ピンク

・全面がポリエチレンフィルムに包まれたフルパック品です。・熱伝導率はJIS A 9521の規定値です。(測定温度 23℃)

# グラスロン間仕切エース

製品記号  
PE10

## 間仕切用 気流どめグラスウール



**用途** 住宅の間仕切壁気流どめ

**仕様**

孔あきポリエチレンフィルム  
(ピンク)



孔なしポリエチレンフィルム  
(透明)

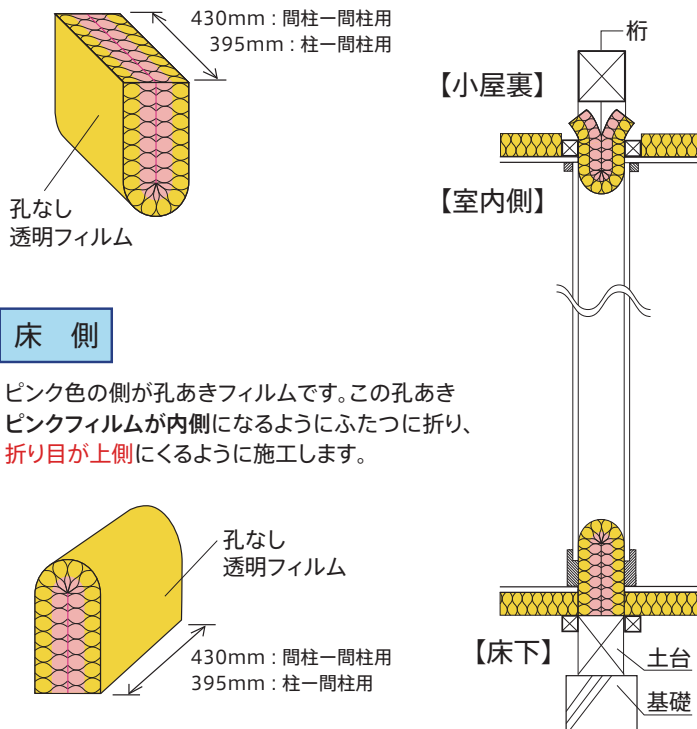
**特長**

- 省エネルギー基準地域区分4地域以南の気流止めに使用できます。
- 天井側、床側のどちらにも施工できます。内側は「孔あきポリエチレンフィルム」外側は「孔なしポリエチレンフィルム」です。
- 間柱一間柱、柱一間柱のどちらにも施工できます。
- 筋交いがある部分には適用できません。

## ■施工方法

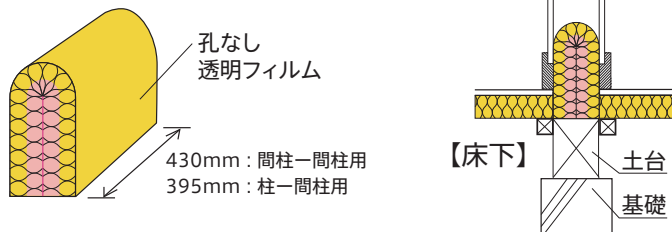
### 天井側

ピンク色の側が孔あきフィルムです。この孔あきピンクフィルムが内側になるようにふたつに折り、**折り目が下側**になるように施工します。



### 床側

ピンク色の側が孔あきフィルムです。この孔あきピンクフィルムが内側になるようにふたつに折り、**折り目が上側**になるように施工します。



## ■グラスロン間仕切エースの規格

下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	寸法(mm)			入数	主な用途	熱伝導率 [W/(m・K)]	設計価格 (円/枚)	備考
				厚さ	幅	長さ					
PE10	GW 10-50	00000862	10	75	395	430	20枚	気流止め用	0.050	396	

# リフォーム用アクリアUボードピンレス

製品記号  
ACUPL

施工性に優れ、透湿性を備えた床用アクリア。

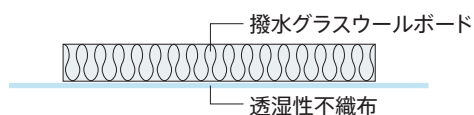
Safe & Clean  
アクリア  
AcClearUボードピンレス



**用途** 床の断熱

**仕様**

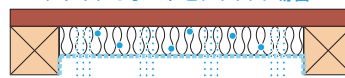
不織布のついた透湿性床用断熱材です。



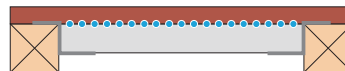
**特長**

- 高性能グラスウールです。
- 適度な弾力性があり、隙間のない断熱施工が可能です。
- 透湿性があります。  
アクリアUボードピンレスは、水蒸気を通しやすい素材ですので、床合板の湿気を逃します。  
**必ず不織布を下に向けて施工してください。**

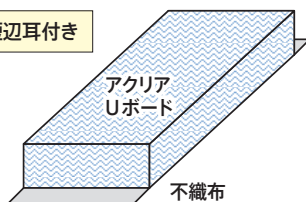
アクリアUボードピンレスの場合



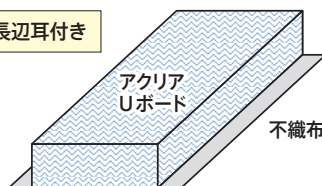
発泡系断熱材の場合



短辺耳付き



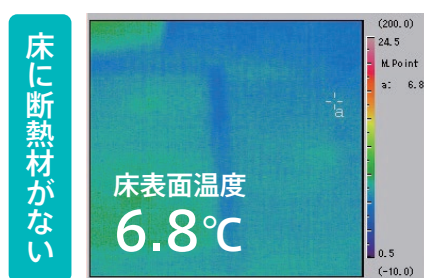
長辺耳付き



## ■リフォーム用アクリアUボードピンレスの規格

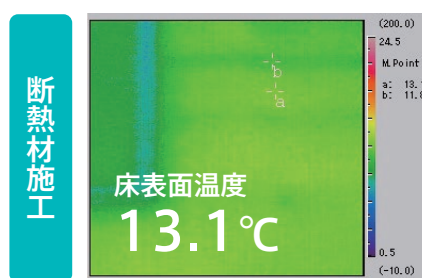
下表に記載の製品はJIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	密度(kg/m <sup>3</sup> )	商品名	寸法(mm)			入数	施工坪数	熱抵抗値R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率[W/(m・K)]	不燃認定	設計価格(円/坪)	備考
					厚さ	幅	長さ							
ACUPL	GWHG 24-36	00113876	高性能 24	80X820X450 REFORM	80	820	450	14枚	約1.75坪分	2.2	0.036	—	12,940	短辺耳付き
		00113658		80X870X450 REFORM		870		14枚						
		00113392		80X910X450 REFORM		910		14枚						
		00113918		80X940X450 REFORM		940		14枚						
		00112149		80X420X910 REFORM		420	910	16枚	約2.0坪分					長辺耳付き
		00113498		80X450X910 REFORM		450		14枚	約1.75坪分					



外気温度 0.3℃  
室内温度 18.3℃

6.3℃上昇



外気温度 1.3℃  
室内温度 18.4℃

※ リフォームの一例です。建物条件などで温度は異なります。



## 真空断熱パネル(VIP)とは

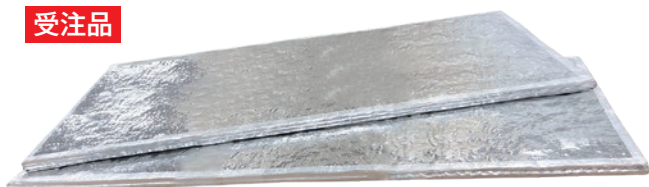
真空断熱パネル(Vacuum Insulation Panel)とは、断熱材の周囲を真空状態にして、気体による熱伝導を限りなくゼロに近づけることにより断熱性能を高めるという真空技術を利用した断熱材です。

当社はグラスウールメーカーという強みを最大限に活かし、グラスウール芯材から真空包装技術まで一貫した生産体制を敷き、産業用途の真空断熱パネルVIP-A(ビップエース)を開発し、既に多くの産業製品にお使いいただいております。このVIP-Aを通じて当社が培ってきた真空断熱材に関するノウハウを駆使し、長期的な性能を担保するフィルム及び吸着剤技術を組み合わせた特殊構成を有する、建材用途の真空断熱材VIP-Build(ビップビルド)を開発しました。

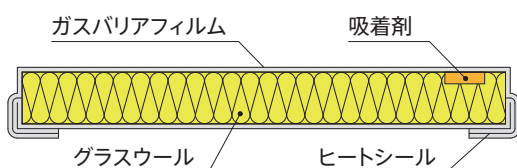


**国内初!**  
建築用真空断熱材JIS認証を取得  
【JIS A 9529】

受注品



断面図



仕様

- 外装フィルム  
優れたガスバリア性、かつ周辺の熱橋が少ないフィルムを使用しています。
- 芯材  
細繊維で断熱性能が高いグラスウール、及び真空度維持のための高性能なガス・水分吸着剤により構成されています。

### ○断熱性能<sup>※1</sup>

初期熱伝導率 <sup>※2</sup> (W/m・K)	0.004
長期熱伝導率 <sup>※3</sup> (W/m・K)	0.004

初期の断熱性能が、JIS A 9529で規定される「温度23℃、相対湿度50%、25年継続使用」を想定した長期での断熱性能値においても、ほとんど低下しないことを確認しています。

## ■ VIP-Build(ビップビルド)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9529:建築用真空断熱材の認証製品です。

製品記号	JISによる表記	品番	寸法(mm)			入数	熱抵抗値 <sup>※4</sup> R[m <sup>2</sup> ・K/W]	熱伝導率 [W/(m・K)]	認証規格	設計価格 (円/枚)	備考
			厚さ	幅	長さ						
VIP-BD	グラスウール 芯材VIP	10103558	16	370	910	10枚	4.0	0.004	JIS A 9529	8,040	受注
		10103557		405						8,980	

※1 JIS A 9529では、真空断熱材の断熱性能を表す指標として、COP(真空断熱材の中央部分)の見掛けの熱伝導率と熱抵抗値が示されています。

見掛けの熱伝導率及び熱抵抗値共に、“初期性能”と“長期性能”が定められています。

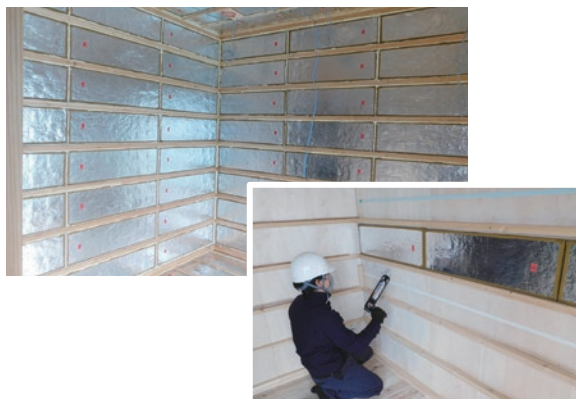
※2 初期熱伝導率は、JIS A 9529では「工場出荷時における、製造業者による熱性能(この場合は熱伝導率)の期待値(宣言値)」とされています。

※3 長期熱伝導率は、JIS A 9529では「VIPが建築部材に組み込まれ、所定の外的・内的条件下に継続的に設置された場合における熱性能(この場合は熱伝導率)の予測値(設計値)」とされています。

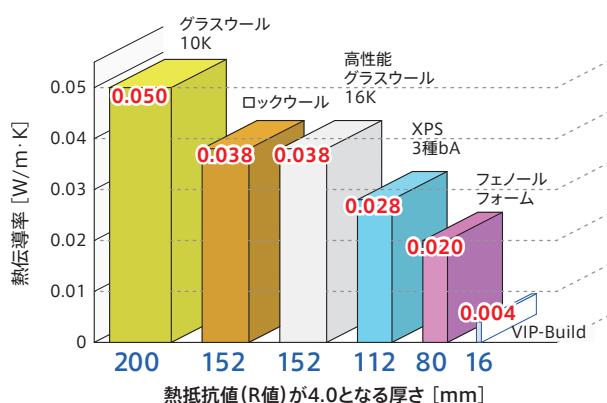
※4 熱伝導率 $\lambda=0.004$  [W/m・K]、及び厚さ16 [mm]における熱抵抗値(R値)を示しています。

・ **受注** は受注生産品です。お問い合わせください。

## ■ VIP-Buildの施工例



## ■ VIP-Buildの熱性能





ロールタイプ

**用 途** 吸音、断熱、遮音補強(汎用)



ロールタイプの荷姿例

## ■グラスロンウール(ロールタイプ)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9504:人造鉱物繊維保温材(F☆☆☆☆)、JIS A 9521:建築用断熱材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301:吸音材料の認証製品です。

製品記号	品番	密度 (kg/㎡)	寸法(mm)			入数	認証規格	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/ケース)	備考
			厚さ	幅	長さ						
GW16	00354160	16	100	910	11000	1ロール	JIS A 9521 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.045 (JIS A 9521)	NM-3847	22,440	
GW24	00358190	24	25	910	22000	1ロール	JIS A 9504 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.038 (JIS A 9521)		18,150	
	00302369		40	910	22000	1ロール	JIS A 6301			29,700	
	00800863			303*		3ロール				24,960	
	00800864		50	455*	16000	2ロール	JIS A 9504 JIS A 9521	0.049 (JIS A 9504)		24,960	
	00800862			910		1ロール	F☆☆☆☆ JIS A 6301			24,960	
	00358882		75	910	11000	1ロール				25,580	
	00359030		100	910	11000	1ロール				33,500	
GW32	00113854	32	25	910	16000	1ロール	JIS A 9504 F☆☆☆☆ JIS A 6301	0.036 (JIS A 9521)		17,650	
	00800860			303*		3ロール	JIS A 9504 JIS A 9521	0.046 (JIS A 9504)		24,120	
	00800861		50	455*	11000	2ロール	F☆☆☆☆ JIS A 6301			24,120	
	00800859			910		1ロール				24,120	

※パーティションウールです。

- ・ JIS A 9521における熱伝導率の規定値は(at 23℃)です。
- ・ JIS A 9504における熱伝導率の規定値は(at 70℃)です。
- ・ GW16-100mmは住宅防音工事標準仕方書に対応しています。

グラスロンウールの 熱伝導率	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	16K	24K						32K	
	熱伝導率 W/(m·K)	0.045	0.038						0.036	
グラスロンウールの 熱抵抗値	厚さ (mm)	100	25	40	50	75	100	25	50	
	熱抵抗値 (m <sup>2</sup> ·K)/W	2.2	0.7	1.1	1.3	2.0	2.6	0.7	1.4	

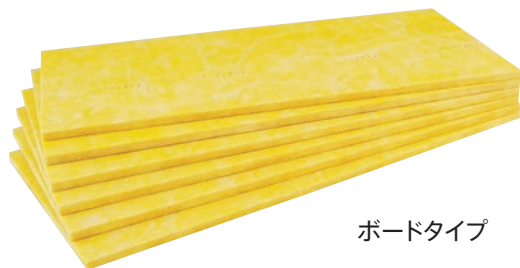
※測定条件23℃

・施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

# グラスロンウール (ボード)

製品記号  
GW32~GW96

用途 吸音、断熱、遮音補強(汎用)



ボードタイプ



ボードタイプの荷姿例

## ■グラスロンウール(ボードタイプ)の規格

下表に記載の製品はJIS A 9504: 人造鉱物繊維保温材(F☆☆☆☆)、JIS A 6301: 吸音材料の認証製品です。

製品記号	品番	密度 (kg/ m)	寸法(mm)			入数	認証規格	熱伝導率 [W/(m・K)]	不燃認定	設計価格 (円/ケース)	備考	
			厚さ	幅	長さ							
GW32	00060232	32	25	605	910	20枚	JIS A 9504 F☆☆☆☆  JIS A 6301	0.046	NM-8605	14,650		
	00042200			910	1820	10枚				19,870		
	00042367		40	265*	1820	18枚				16,020		
	00060216			605	910	12枚				13,030		
	00060003			910	1820	6枚				18,940		
	00060224			605	910	10枚				14,450		
	00042188		50	910	1820	5枚				19,670		
	00012828			910	1820	3枚				23,090		
GW40	00061221	40	25	605	910	20枚		0.044		17,760		
	00049026			910	1820	10枚				24,830	受注	
	00060976		40	605	910	12枚				16,370	受注	
	00049018			910	1820	6枚				23,180	受注	
	00060887		50	605	910	10枚				16,660		
	00049000			910	1820	5枚				24,180	受注	
GW48	00061832	48	25	910	1820	10枚				0.043	28,900	受注
	00061841		50	910	1820	5枚					29,900	受注
GW64	00054895	64	25	910	1820	8枚	0.042		32,180			
GW80	00054879	80	25	910	1820	8枚			40,930	受注		
GW96	00003085	96	25	910	1820	6枚			37,140			

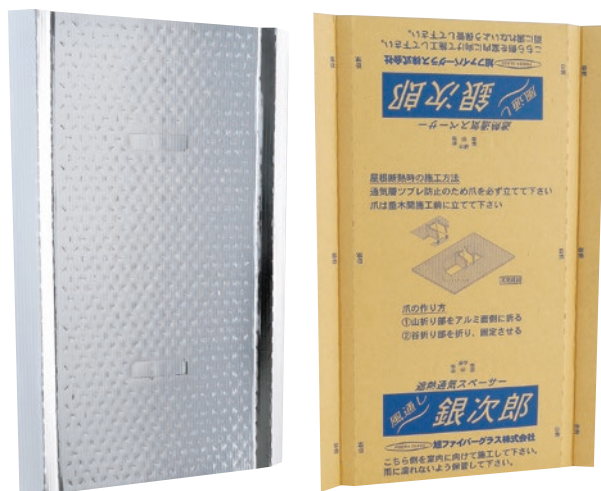
・ **受注** は受注生産品です。お問い合わせください。 ※パーティションウールです。  
・ 熱伝導率はJIS A 9504 の規定値(at 70℃)です。

グラスロンウールの 設計熱伝導率	密度 (kg/m <sup>3</sup> )	32K				40K				48K		64K	80K	96K
	熱伝導率 W/(m·K) *	0.036				0.036				0.035		0.035	0.033	0.033
グラスロンウールの 設計熱抵抗値	厚さ (mm)	25	40	50	100	25	40	50	25	50	25	25	25	25
	熱抵抗値 (m <sup>2</sup> ·K)/W*	0.7	1.1	1.4	2.8	0.7	1.1	1.4	0.7	1.4	0.7	0.8	0.8	0.8

※参考値・測定条件23℃

・施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

## 垂木間に簡単施工、遮熱効果＋屋根断熱時の通気層確保が可能

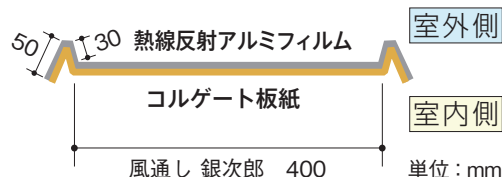


室外側 風通し銀次郎 室内側

### 用途

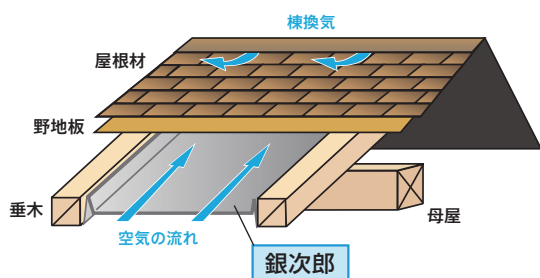
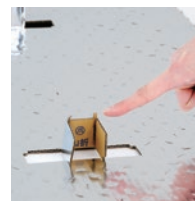
- 屋根の遮熱（屋根・天井断熱用）
- 屋根断熱の通気層確保（熱気・湿気の排出、結露防止）

### 仕様



### 特長

- 垂木間にタッカー針で簡単に留め付けることができます。
- 屋根断熱施工時の通気層（30mm）確保のため、平面部二ヶ所に突起加工ができるように切れ込みがあります。

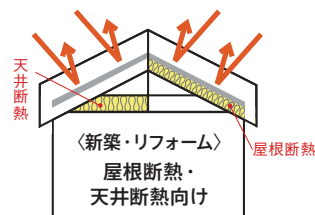


高い  
遮熱効果

屋根施工後  
対応可能

屋根断熱の  
通気層確保

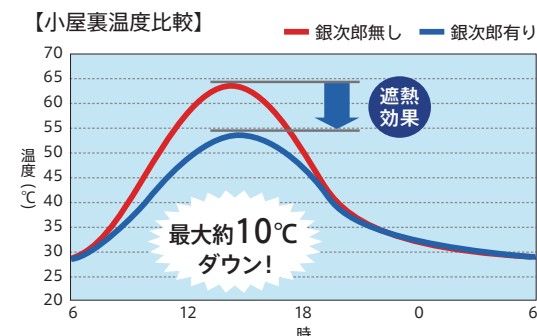
除湿スリット加工で  
結露防止



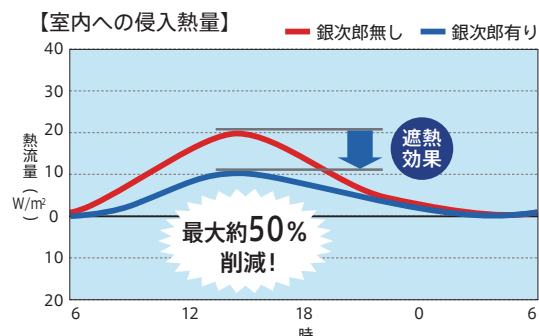
## 風通し銀次郎の規格

品番	商品名	寸法(mm)			対応垂木ピッチ(mm)	入数	施工坪数	主な用途	設計価格(円/ケース)	備考
		厚さ	幅	長さ						
00106048	風通し銀次郎	3	560	850	455	50枚	約5.8坪分	屋根の遮熱 通気層確保	29,180	

## 遮熱性能(天井断熱がある場合)



＜銀次郎による遮熱効果＞  
ピーク時で小屋裏温度が 最大 約10℃ ダウン!



＜銀次郎による遮熱効果＞  
室内への熱侵入量を最大約50%削減!

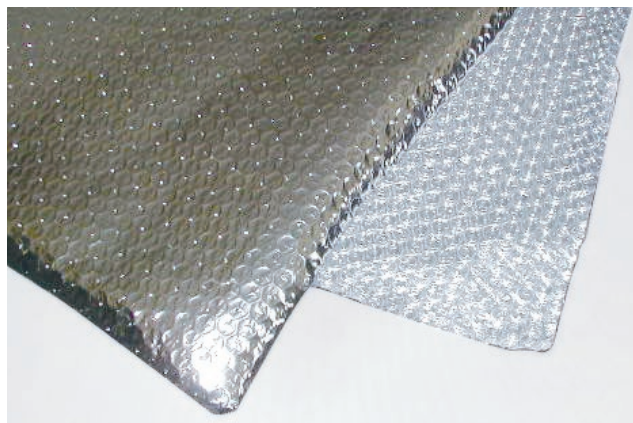
※上記の値は一定条件下での実験結果であり、施工後の値を保証するものではありません。

### 設計・施工上 の注意

- ・アルミ面を屋根側に向けて施工してください。
- ・両端をV字型に折り垂木の側面にタッカー針などで取り付けください。
- ・軒先の換気口をつぶさないように軒部分には施工しないでください。
- ・棟換気を設置してください。
- ・透湿抵抗値は0.0018[ $(\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa}) / \text{ng}$ ]です。  
(測定条件:温度25℃、相対湿度90%)
- ・防風層としてご使用の場合は、突起を立てずに施工し、つなぎ目はテープ処理をしてください。



## リフォームにも対応の遮熱シート



**用途** 屋根の遮熱(天井断熱用)

**仕様**

熱線反射孔あきアルミフィルム

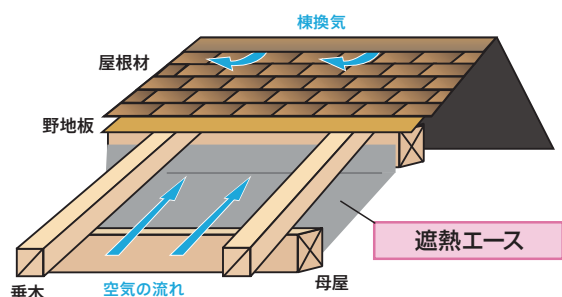
室外側

エアキャップ(断熱層)

室内側

**特長**

- 結露防止のため孔あけ加工を施し、透湿性を確保しています。
- タッカー針留めによる簡単施工が可能です。
- 商品が軽く(約100g/m<sup>2</sup>) ハンドリングも容易です。
- リフォームにも適しています。

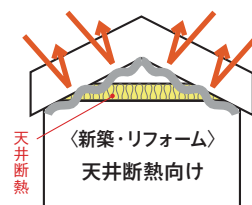


高い  
遮熱効果

タッカー針留めで  
簡単施工

リフォーム  
DIY対応

孔あけ加工で  
結露防止

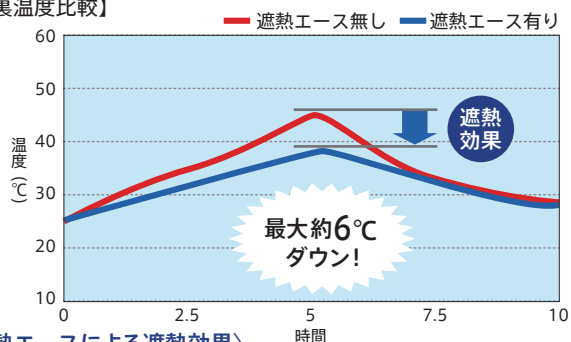


## 遮熱エースの規格

品番	寸法(mm)			入数	施工坪数	主な用途	設計価格 (円/本)	備考
	厚さ	幅	長さ					
00101056	4	910	50m	1本	約13.7坪分	屋根の遮熱 (天井断熱用)	30,360	

## 遮熱性能

【小屋裏温度比較】



〈遮熱エースによる遮熱効果〉

**小屋裏温度が最大6℃ダウン!**

※上記の値は一定条件下での実測測定結果の比較であり、施工後の値を保証するものではありません。



**設計・施工上  
のご注意**

- ・棟木や母屋の下端にタッカー針などで取り付けてください。
- ・軒先の換気口をつぶさないように軒部分には施工しないでください。
- ・棟換気を設置してください。
- ・透湿抵抗値は0.0065[(m<sup>2</sup>・s・Pa)/ng]です。(測定条件:温度25℃、相対湿度90%)

# 防湿気密シート

製品記号  
ボウシツキミツシート

販売終了予定



用途 別張り用防湿材

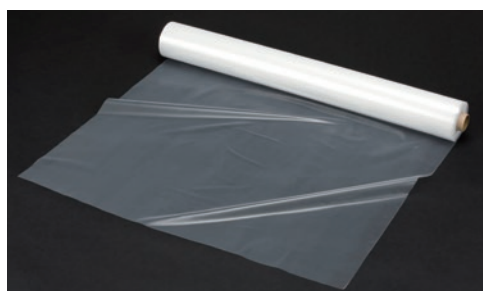
仕様  
ポリエチレンフィルム  
JIS A 6930 準拠品  
JIS 規格値 透湿抵抗  
A種 : 0.082  $\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa} / \text{ng}$  以上  
B種 : 0.144  $\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa} / \text{ng}$  以上

## 防湿気密シートの規格

品番	寸法(mm)			入数	主な用途	設計価格 (円/本)	備考
	厚さ	幅	長さ				
00800990	0.1	1050	100m	1本	別張り防湿シート	12,140	JIS A 6930 A種 準拠品 色:茶色
00800729	0.2	2000*	50m			24,240	JIS A 6930 B種 準拠品 色:茶色

※2つ折りの為、梱包形状は1000mm幅のロール形状になります。

後継品



用途 別張り用防湿材

仕様  
ポリエチレンフィルム  
JIS A 6930 準拠品  
JIS 規格値 透湿抵抗  
A種 : 0.082  $\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa} / \text{ng}$  以上  
B種 : 0.144  $\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa} / \text{ng}$  以上

## 防湿気密シートの規格

品番	寸法(mm)			入数	主な用途	設計価格 (円/本)	備考
	厚さ	幅	長さ				
00801243	0.1	1050	100m	1本	別張り防湿シート	12,140	JIS A 6930 A種 準拠品
00801244	0.2	2000*	50m			24,240	JIS A 6930 B種 準拠品

※2つ折りの為、梱包形状は1000mm幅のロール形状になります。

# 調湿気密シート アクリアHCシートα

製品記号  
チョウシツキミツシート



用途 別張り用調湿シート

特長 低湿度時には防湿機能、高湿度時には透湿機能が働きます。

## アクリアHCシートαの製品規格

品番	寸法(mm)			入数	主な用途	設計価格 (円/本)	備考
	厚さ	幅	長さ				
00801131	0.3	1500	50m	1本	別張り用調湿シート	35,700	

# 気密テープ

製品記号  
キミツテープ



**用途** 断熱材施工時の気密補助材

**仕様** 片面粘着アクリルテープ

**特長** 気密テープはグラスウールの付属防湿フィルムの破れなどの補修にも使えます。

## ■ 気密テープの規格

品番	種類	寸法(mm)		入数	剥離紙	設計価格 (円/ケース)	備考
		幅	長さ				
00106327	気密テープ	50	20m	30巻	なし	29,570	防湿層の補修テープとしても使えます

# 気密コンセントボックスカバー

製品記号  
キミツコンセントボックスカバー



**用途** コンセントまわりの気密

**仕様** ポリプロピレン

**特長**



断熱材を充填後、  
気密テープで  
処理してください。

## ■ 気密コンセントボックスカバーの規格

品番	種類	寸法(mm)			入数	設計価格 (円/ケース)	備考
		縦	横	奥行			
00110630	気密コンセントボックスカバーS	205	112	50	50個	12,140	シングルボックス用
00110629	気密コンセントボックスカバーW	208	154	50	25個	9,110	ダブルボックス用

※施工箇所に合わせて、適切な寸法の製品をお選びください。

# ALGCシート

製品記号  
ALGCシート



**用途** (一社)木造住宅産業協会 耐火認定用

**仕様** アルミガラスクロスシート

## ■ ALGCシートの規格

品番	寸法(mm)			入数	主な用途	設計価格 (円/本)	備考
	厚さ	幅	長さ				
00110218	0.15	1000	30m	1本	木住協耐火認定用	21,800	木住協指定品



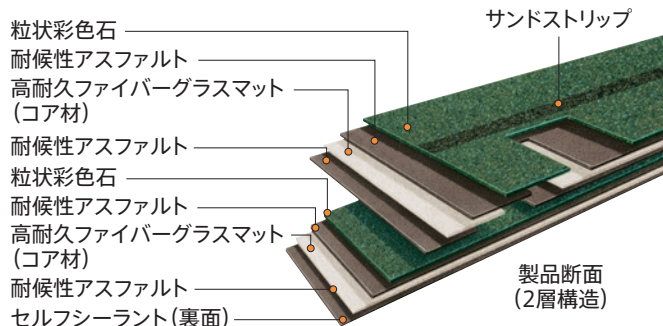
# ファイバーグラスシングル リッジウェイ (屋根材)

Ridgeway AR



用途 住宅屋根

仕様



※サンドストリップについて  
サンドストリップは釘打ちラインの上部を、約3cmの幅で帯状に通常の彩色石ではなく細かい砂に変更しております。これによって、梱包時に重なり部分の段差が少なくなり、パレットに積んだ際に製品がより平滑になります。とくに冬場の製品の波打ち現象が改善され、施工性が向上します。

## ■標準カラー(5色)



デュアルブラック Dual Black



ハーバードスレート Harvard Slate



デュアルブラウン Dual Brown



アーストーンシーダー Earthtone Cedar \*



ヴィンテージグリーン Vintage Green \*

\*アーストーンシーダー及びヴィンテージグリーンは在庫なくなり次第、販売を終了させていただきます。

ファイバーグラスシングル  
**リッジウェイ**  
Ridgeway AR

※写真やイラストは印刷色のため実際と色合いが多少異なります。





※写真やイラストは印刷色のため実際と色合いが多少異なります。

デュアルブラウン

## 特長 ○ 美しい

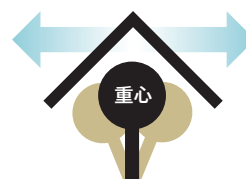
リッジウェイ独特の2層構造とランダムな粒状彩色石のグラデーションカラーが、立体感ある陰影を演出し、個性豊かで深みのある表情を屋根に与えます。

## ○ 軽い

リッジウェイの重量は瓦の約1/4、化粧スレートの約1/2と軽量のため、建物への負担が少なく耐震性に優れています。

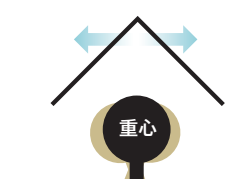
### 重さ比較

屋根材	重量 (㎡当たり)	一軒分 (100㎡)
一般的な陶器瓦	約50kg	5.0 t
化粧スレート	約20kg	2.0 t
リッジウェイ	約12kg	1.2 t



重い屋根

重心位置が高くなるため地震の揺れを増幅。



軽い屋根

家屋の重心位置が下がり、建物自体のバランスが良くなる。

## ○ 屋根飛び火試験認定品 (DR-2041 (1))

※この認定番号はこれまでの認定も全て包含しています。2021年8月以降はこちらの認定番号をご利用ください。

## ○ 防水性

アスファルト基材とファイバーガラスマットで構成されており、水分を含まず釘穴シール性にも優れています。

## ○ 耐風性

標準仕様実験 (風速38m/s)、強風仕様実験 (風速46m/s) でも浮き剥がれの現象は起きず、高い耐風性能が実証されています。 ※強風地域・場所では強風仕様での施工をおすすめしております。

## ○ 耐衝撃性能

リッジウェイは柔らかく割れにくい素材ですので、踏み歩きや落下物等によって屋根材が割れるという心配は無用です。

## ■ リッジウェイの規格

長さ	1038mm
幅	349mm
働き	149mm
施工面積	0.154㎡/枚
入り数	16枚/ケース (2.47㎡/ケース)
重量	25.0kg/ケース
設計価格	18,720円/ケース (1,170円/枚)

●リッジウェイは以下の主要なシングル材の規格に準拠しています。  
ASTM D 3462: 表面砕石ガラス繊維マットアスファルトシングル材の規格  
ASTM D 3018: 防火ClassAを取得しているアスファルトシングル材の規格  
ASTM E 108: 防火性能規格 ClassA該当

●重なり部 (施工で隠れる部分) の色は本体の色と異なることがあります。

≫ 詳しくはホームページをご覧ください。

[https://www.afgc.co.jp/product/roofing\\_material/](https://www.afgc.co.jp/product/roofing_material/)

※屋根材リッジウェイは「ルーフィング葺き」に該当します。

※ARについて ARとは、Algae Resistance の略で耐藻性を表しています。  
リッジウェイARは、特殊な処理をした彩色石を通常の彩色石に混ぜて耐藻性を上げております。

# ファイバーグラスシングル リッジウェイ(屋根材)

製品記号  
FGS

## 専用部材

### ■ヒップアンドリッジ(棟部材)

リッジウェイ本体と同質素材で統一感ある仕上がりに。

本体形状寸法	幅305mm x 長さ337mm
働き寸法	幅305mm x 長さ143mm
1シート寸法(カット前)	幅915mm x 長さ337mm (1シートから3枚が取れます)
入り数	78枚/ケース(26シート入り)
1梱包当たり葺き長さ	11.1m
色	5色*(リッジウェイ本体に対応)
設計価格	38,220円/ケース(490円/枚)

・重なり部(施工で隠れる部分)の色は本体の色と異なることがあります。  
※アーストーンシーダー及びエメラルドグリーンは在庫なくなり次第、販売を終了とさせていただきます。



### ■スターターシングル

本体形状寸法	幅 200mm × 長さ 1038mm
1シート寸法(カット前)	幅 400mm × 長さ 1038mm
入り数	36枚/ケース(18シート入り)
施工長さ	37.3m
設計価格	22,140円/ケース(施工長さ当たり約600円/m)

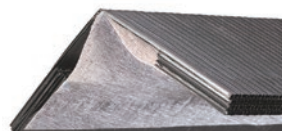


### ■リッジロール(換気部材)

ヒップアンドリッジと併せて利用してスマートな外観を演出。

寸法	幅286mm x 長さ6.096m
長さ当り換気面積	268.8cm <sup>2</sup> /m
材質	高耐久プラスチック+通気防水シート
設計価格	51,800円/ケース(施工長さ当たり約8,500円/m)

・暴風雨試験:8.8inch降雨110mph合格  
・35及び70mph風雪シミュレーション合格(侵入なし)



### ■シングル釘

リッジウェイ専用釘

寸法	シングル本体用釘 (HDリング25mm)	シングル棟用釘 (HDリング50mm)
入り数	約550本/箱	約330本/箱
使用量	4本/枚(標準施工)	4本/枚(標準施工)
正味量	1kg/箱	1kg/箱
設計価格*	2,040円/箱	2,040円/箱



### ■シングル用接着剤

商品名	RW2000 カートリッジ	RW2000 チューブ
正味量	320ml/本	700ml/本
使用量	約2坪/本	約4.2坪/本
入り数	10本/箱	10本/箱
設計価格*	20,810円/箱	25,850円/箱

・作業前にSDSをご確認ください。  
・他製品もご使用可能です。詳細はお問い合わせください。  
※表示されている価格はすべて税抜き価格です。

詳しくは  
リッジウェイ  
カタログを  
ご覧ください。







## 技術資料 目次

### ◆ グラスウールについて

素材の断熱性能 .....	44
吸音性能 .....	49
緩衝性能・長期性能 .....	52
不燃性・安全性 .....	53
取扱い上の注意 .....	54
JISについて .....	55
トップランナー・EI制度 .....	56

### ◆ 高断熱住宅について

住宅の断熱講座 .....	57
住宅の断熱性能レベル .....	59
HEAT20 について .....	60
省エネ性能表示制度 .....	62
高断熱住宅のメリット .....	63
外皮性能基準別推奨仕様例 .....	66
結露について .....	74
施工マニュアル .....	78
GWS工法 .....	83
FEIS工法 .....	84
断熱リフォーム .....	85

### ◆ 法令・制度

省エネ基準 .....	87
省エネ基準 共同住宅の評価方法 .....	95
住宅トップランナー制度 .....	99
省エネルギー基準の地域区分 .....	100
住宅性能表示制度 .....	106
防耐火関連について .....	108

### ◆ 補助金・税制など

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH) .....	111
長期優良住宅の認定基準 .....	113
低炭素建築物認定制度 .....	114
性能向上計画認定制度 .....	115
フラット35 .....	116
住宅防音工事(民防工事)概要 .....	117
断熱改修補助金 .....	118

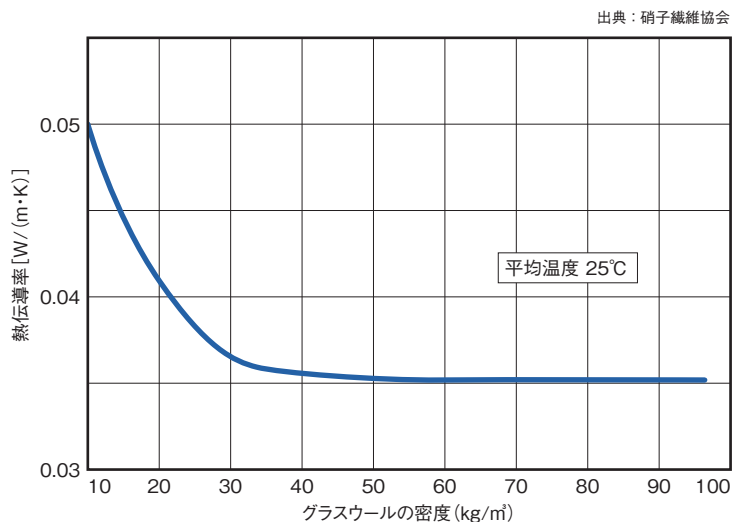
# グラスウールの断熱性能

## グラスウールの断熱効果

空気は熱を伝えにくい性質を持っています。特に静止空気(対流を起こさない空気)は、非常に熱を伝えにくいです。グラスウールはガラス繊維の間にこの静止空気を多量に含んでいる優れた断熱材です。

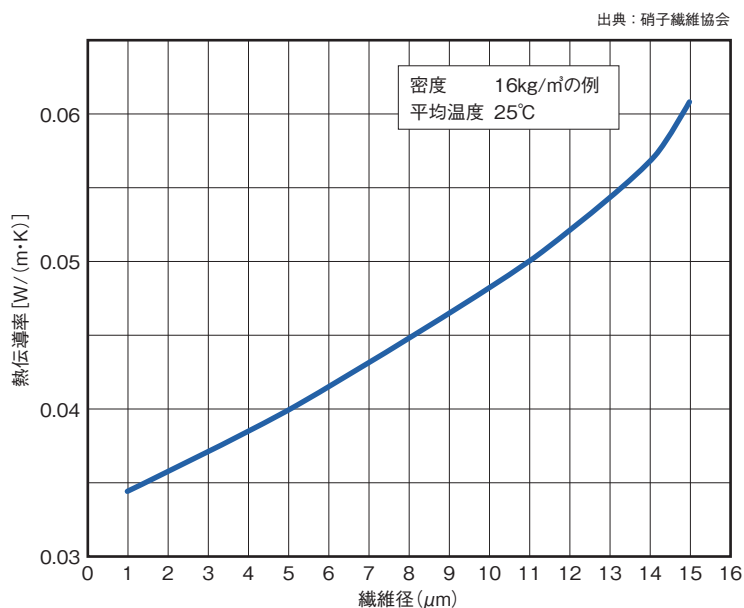
### ① グラスウールの密度と熱伝導率

グラスウールは同じ繊維径であれば、密度が大きいほどグラスウール中の連続気泡室が細分化されるため断熱性能が向上します。ただし、64K以上になると熱伝導率はあまり変わりません。



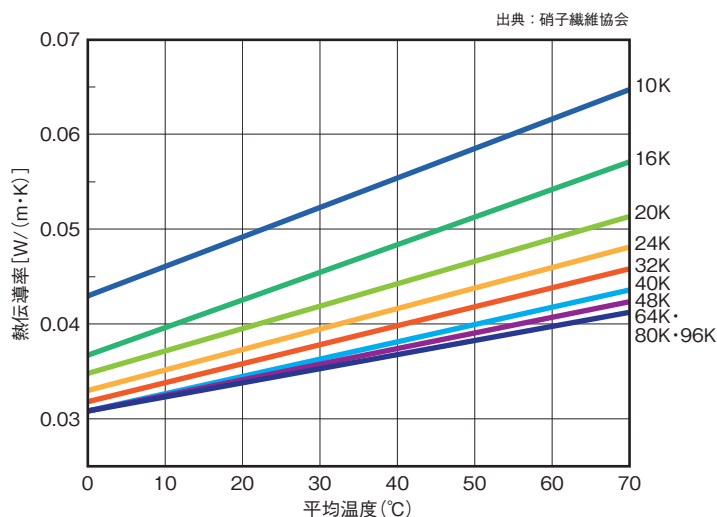
### ② グラスウールの繊維径と熱伝導率

グラスウールは同じ密度でも、ガラス繊維が細く数量が多いほど、グラスウール中の連続気泡室が細分化されるため断熱性能が向上します。



### ③ グラスウールの使用温度と熱伝導率

グラスウールの使用温度が高いと熱伝導率は大きくなります。





# 他材料の断熱性能

種 類				密度 (kg/m <sup>3</sup> )	熱伝導率 W/(m・K)
ロックウール断熱材	LA			24以上	0.045以下
	LB				0.043以下
	LC				0.041以下
	LD				0.039以下
	MA			30以上	0.038以下
	MB				0.037以下
	MC				0.036以下
	HA			60以上	0.036以下
	HB				0.035以下
HC			0.034以下		
インシュレーション ファイバー断熱材	ファイバーマット			30以上	0.040以下
	ファイバーボード			150以上	0.052以下
ビーズ法ポリスチレン フォーム断熱材	1号			30以上	0.034以下
	2号			25以上	0.036以下
	3号			20以上	0.038以下
	4号			15以上	0.041以下
押出法ポリスチレン フォーム断熱材	1種	b	A	20以上	0.040以下
			B		0.038以下
			C		0.036以下
	2種	b	A	25以上	0.034以下
			B		0.032以下
			C		0.030以下
	3種	a	A	25以上	0.028以下
			B		0.026以下
			C		0.024以下
			D		0.022以下
		b	A		0.028以下
			B		0.026以下
			C		0.024以下
			D		0.022以下
硬質ウレタンフォーム 断熱材	2種	1号	A(Ⅰ、Ⅱ)	35以上	0.023以下
			B(Ⅰ、Ⅱ)		0.022以下
			C(Ⅰ、Ⅱ)		0.021以下
			D(Ⅰ、Ⅱ)		0.020以下
			E(Ⅰ、Ⅱ)		0.019以下
		2号	A(Ⅰ、Ⅱ)	25以上	0.024以下
			B(Ⅰ、Ⅱ)		0.023以下
			C(Ⅰ、Ⅱ)		0.022以下
			D(Ⅰ、Ⅱ)		0.021以下
			E(Ⅰ、Ⅱ)		0.020以下
			F(Ⅰ、Ⅱ)		0.019以下
吹付け 硬質ウレタンフォーム	A種	1H		—	0.026以下
		2H			0.026以下
		3			0.04以下

種 類				密度 (kg/m <sup>3</sup> )	熱伝導率 W/(m・K)
フェノールフォーム 断熱材	1種	2号	C (Ⅰ、Ⅱ)	25以上	0.020以下
			D (Ⅰ、Ⅱ)		0.019以下
			E (Ⅰ、Ⅱ)		0.018以下
		3号	C (Ⅰ、Ⅱ)	15以上	0.020以下
			D (Ⅰ、Ⅱ)		0.019以下
			E (Ⅰ、Ⅱ)		0.018以下

種 類		密度 (kg/m <sup>3</sup> )	密度の 下限値における 熱伝導率 W/(m・K)
吹込み用 ロックウール断熱材	LFRW2547	25以上	0.047以下
	LFRW6038	60以上	0.038以下
吹込み用 セルローズファイバー 断熱材	LFCF2540	25以上	0.040以下
	LFCF5040	50以上	0.040以下
	LFCF6040	60以上	0.040以下

種 類		熱伝導率 W/(m・K)
コンクリート		1.6
軽量コンクリート(軽量1種)		0.8
軽量コンクリート(軽量2種)		0.5
軽量気泡コンクリートパネル(ALCパネル)		0.19
セメント・モルタル		1.5
せっこうプaster		0.6
せっこうボード	GB-R、GB-D、GB-L、GB-NC	0.22
	GB-S、GB-F	0.24
	GB-R-H、GB-S-H、GB-D-H	0.36
れんが		0.64
ロックウール化粧吸音板		0.06
0.8ケイ酸カルシウム板		0.18
1.0ケイ酸カルシウム板		0.24
天然木材		0.12
合板		0.16
タタミボード		0.05
A級インシュレーションボード		0.05
シーリングボード		0.06
パーティクルボード		0.16
木毛セメント板		0.13
木片セメント板		0.15
畳床		0.15
建材畳床(K、N、Ⅱ、Ⅲ形)		0.05

※ 独立行政法人 住宅金融支援機構のデータを元に作成しています。

# 開口部の熱貫流率

## 窓の熱貫流率(抜粋)

建具の仕様	ガラスの仕様		中空層の仕様		開口部の熱貫流率[W/(㎡K)] ※2			
			ガスの封入※1	中空層の厚さ	付属部材無し	シャッター・雨戸付	和障子付	風除室あり
樹脂製建具 又は 木製建具	三層複層ガラス	Low-Eガラス 2枚	されている	13mm以上	1.60	1.49	1.43	1.38
		Low-Eガラス 1枚	されている	10mm以上	1.90	1.75	1.66	1.60
	複層ガラス	Low-Eガラス	されている	8mm以上10mm未満	2.33	2.11	1.99	1.89
樹脂(又は木)と金属の複合 材料製建具	三層複層ガラス	Low-Eガラス 2枚	されている	8mm未満	2.33	2.11	1.99	1.89
		Low-Eガラス 1枚	されている	9mm以上12mm未満	2.33	2.11	1.99	1.89
				9mm未満	2.91	2.59	2.41	2.26
	複層ガラス	Low-Eガラス	されている	14mm以上	2.33	2.11	1.99	1.89
			されていない	9mm以上	2.91	2.59	2.41	2.26
		Low-Eガラス	されていない	7mm以上14mm未満	3.49	3.04	2.82	2.59
その他 ・金属製建具 ・金属製熱遮断 構造建具 等	複層ガラス	一般ガラス	されていない	8mm以上	4.07	3.49	3.21	2.90
				8mm未満	4.65	3.92	3.60	3.18
		Low-Eガラス	されている	14mm以上	2.33	2.11	1.99	1.89

表中の用語の定義については、国立研究開発法人建築研究所が公表する「平成28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」の「2.エネルギー消費性能の算定方法 2.1 算定方法 1.概要と用語の定義」を参照(<http://www.kenken.go.jp/becc/house.html>)

※1「ガス」とは、アルゴンガス又は熱伝導率がこれと同等以下のものをいいます。 ※2 国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報」の熱貫流率及び線熱貫流率(窓等の大部分がガラスで構成される開口部)の熱貫流率の表及び付属部材が付与される場合、風除室に面する場合の計算式によります。

## ドアの熱貫流率(抜粋)

枠の仕様	戸の仕様			ガラスの仕様	中空層の仕様		開口部の熱貫流率[W/(㎡K)] ※2	
					ガスの封入※1	中空層の厚さ	付属部材無し	風除室あり
金属製 熱遮断構造	金属製高断熱 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	1.60	1.38
			ドア内ガラスあり	Low-E複層ガラス	されている	7mm以上	1.90	1.60
	金属製断熱 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	1.90	1.60
			ドア内ガラスあり	Low-E複層ガラス	されていない	14mm以上	2.33	1.89
	金属製 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	1.90	1.60
			ドア内ガラスあり	複層ガラス	されていない	中空層厚問わない	2.91	2.26
複合材料製	金属製高断熱 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	1.60	1.38
			ドア内ガラスあり	Low-E複層ガラス	されている	8mm以上	1.90	1.60
	金属製断熱 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	1.90	1.60
			ドア内ガラスあり	Low-E複層ガラス	されていない	15mm以上	2.33	1.89
金属製 またはその他	金属製 フラッシュ構造	ポストなし	ドア内ガラスなし	—	—	—	2.33	1.89
			ドア内ガラスあり	複層ガラス	されていない	中空層厚問わない	2.91	2.26

表中の用語の定義については、国立研究開発法人建築研究所が公表する「平成28 年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」の「2.エネルギー消費性能の算定方法 2.1 算定方法 1.概要と用語の定義」を参照(<http://www.kenken.go.jp/becc/house.html>)

※1「ガス」とは、アルゴンガス又は熱伝導率がこれと同等以下のものをいいます。 ※2 国立研究開発法人建築研究所ホームページ内「平成28年省エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報」の熱貫流率及び線熱貫流率(ドア等の大部分がガラスで構成されない開口部)の熱貫流率の表及び風除室に面する場合の計算式によります。

# 熱抵抗値を得るための断熱材の厚さ早見表

熱抵抗値を得るための断熱材の厚さを示しています。

断熱材の厚さは、この表において、熱抵抗値(縦軸)と各断熱材の熱伝導率(横軸)より求めてください。  
尚、必要な断熱材の厚さは、熱抵抗値と断熱材の熱伝導率を乗じることにより求めることもできます。

※ここで掲載されております値は参考値ですので、弊社製品の熱抵抗値については該当製品の規格表でご確認ください。

厚み d : mm  
 $d = \lambda \times R \times 1000$

		熱伝導率 λ [ W / ( m ・ K ) ]																															
		.052	.051	.050	.047	.046	.045	.043	.042	.041	.040	.039	.038	.037	.036	.035	.034	.033	.032	.029	.028	.027	.026	.025	.024	.023	.022	.020					
熱抵抗値 R [ m <sup>2</sup> ・K/W ]	0.9	47	46	45	43	42	41	39	38	37	36	36	35	34	33	32	31	30	29	27	26	25	24	23	22	21	20	18					
	1.0	52	51	50	47	46	45	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	29	28	27	26	25	24	23	22	20					
	1.1	58	57	55	52	51	50	48	47	46	44	43	42	41	40	39	38	37	36	32	31	30	29	28	27	26	25	22					
	1.2	63	62	60	57	56	54	52	51	50	48	47	46	45	44	42	41	40	39	35	34	33	32	30	29	28	27	24					
	1.3	68	67	65	62	60	59	56	55	54	52	51	50	49	47	46	45	43	42	38	37	36	34	33	32	30	29	26					
	1.4	73	72	70	66	65	63	61	59	58	56	55	54	52	51	49	48	47	45	41	40	38	37	35	34	33	31	28					
	1.5	78	77	75	71	69	68	65	63	62	60	59	57	56	54	53	51	50	48	44	42	41	39	38	36	35	33	30					
	1.6	84	82	80	76	74	72	69	68	66	64	63	61	60	58	56	55	53	52	47	45	44	42	40	39	37	36	32					
	1.7	89	87	85	80	79	77	74	72	70	68	67	65	63	62	60	58	57	55	50	48	46	45	43	41	40	38	34					
	1.8	94	92	90	85	83	81	78	76	74	72	71	69	67	65	63	62	60	58	53	51	49	47	45	44	42	40	36					
	1.9	99	97	95	90	88	86	82	80	78	76	75	73	71	69	67	65	63	61	56	54	52	50	48	46	44	42	38					
	2.0	104	102	100	94	92	90	86	84	82	80	78	76	74	72	70	68	66	64	58	56	54	52	50	48	46	44	40					
	2.1	110	108	105	99	97	95	91	89	87	84	82	80	78	76	74	72	70	68	61	59	57	55	53	51	49	47	42					
	2.2	115	113	110	104	102	99	95	93	91	88	86	84	82	80	77	75	73	71	64	62	60	58	55	53	51	49	44					
	2.3	120	118	115	109	106	104	99	97	95	92	90	88	86	83	81	79	76	74	67	65	63	60	58	56	53	51	46					
	2.4	125	123	120	113	111	108	104	101	99	96	94	92	89	87	84	82	80	77	70	68	65	63	60	58	56	53	48					
	2.5	130	128	125	118	115	113	108	105	103	100	98	95	93	90	88	85	83	80	73	70	68	65	63	60	58	55	50					
	2.6	136	133	130	123	120	117	112	110	107	104	102	99	97	94	91	89	86	84	76	73	71	68	65	63	60	58	52					
	2.7	141	138	135	127	125	122	117	114	111	108	106	103	100	98	95	92	90	87	79	76	73	71	68	65	63	60	54					
	2.8	146	143	140	132	129	126	121	118	115	112	110	107	104	101	98	96	93	90	82	79	76	73	70	68	65	62	56					
2.9	151	148	145	137	134	131	125	122	119	116	114	111	108	105	102	99	96	93	85	82	79	76	73	70	67	64	58						
3.0	156	153	150	141	138	135	129	126	123	120	117	114	111	108	105	102	99	96	87	84	81	78	75	72	69	66	60						
3.1	162	159	155	146	143	140	134	131	128	124	121	118	115	112	109	106	103	100	90	87	84	81	78	75	72	69	62						
3.2	167	164	160	151	148	144	138	135	132	128	125	122	119	116	112	109	106	103	93	90	87	84	80	77	74	71	64						
3.3	172	169	165	156	152	149	142	139	136	132	129	126	123	119	116	113	109	106	96	93	90	86	83	80	76	73	66						
3.4	177	174	170	160	157	153	147	143	140	136	133	130	126	123	119	116	113	109	99	96	92	89	85	82	79	75	68						
3.5	182	179	175	165	161	158	151	147	144	140	137	133	130	126	123	119	116	112	102	98	95	91	88	84	81	77	70						
3.6	188	184	180	170	166	162	155	152	148	144	141	137	134	130	126	123	119	116	105	101	98	94	90	87	83	80	72						
3.7	193	189	185	174	171	167	160	156	152	148	145	141	137	134	130	126	123	119	108	104	100	97	93	89	86	82	74						
3.8	198	194	190	179	175	171	164	160	156	152	149	145	141	137	133	130	126	122	111	107	103	99	95	92	88	84	76						
3.9	203	199	195	184	180	176	168	164	160	156	153	149	145	141	137	133	129	125	114	110	106	102	98	94	90	86	78						
4.0	208	204	200	188	184	180	172	168	164	160	156	152	148	144	140	136	132	128	116	112	108	104	100	96	92	88	80						
4.1	214	210	205	193	189	185	177	173	169	164	160	156	152	148	144	140	136	132	119	115	111	107	103	99	95	91	82						
4.2	219	215	210	198	194	189	181	177	173	168	164	160	156	152	147	143	139	135	122	118	114	110	105	101	97	93	84						
4.3	224	220	215	203	198	194	185	181	177	172	168	164	160	155	151	147	142	138	125	121	117	112	108	104	99	95	86						
4.4	229	225	220	207	203	198	190	185	181	176	172	168	163	159	154	150	146	141	128	124	119	115	110	106	102	97	88						
4.5	234	230	225	212	207	203	194	189	185	180	176	171	167	162	158	153	149	144	131	126	122	117	113	108	104	99	90						
4.6	240	235	230	217	212	207	198	194	189	184	180	175	171	166	161	157	152	148	134	129	125	120	115	111	106	102	92						
4.7	245	240	235	221	217	212	203	198	193	188	184	179	174	170	165	160	156	151	137	132	127	123	118	113	109	104	94						
4.8	250	245	240	226	221	216	207	202	197	192	188	183	178	173	168	164	159	154	140	135	130	125	120	116	111	106	96						
4.9	255	250	245	231	226	221	211	206	201	196	192	187	182	177	172	167	162	157	143	138	133	128	123	118	113	108	98						
5.0	260	255	250	235	230	225	215	210	205	200	195	190	185	180	175	170	165	160	145	140	135	130	125	120	115	110	100						
5.1	266	261	255	240	235	230	220	215	210	204	199	194	189	184	179	174	169	164	148	143	138	133	128	123	118	113	102						
5.2	271	266	260	245	240	234	224	219	214	208	203	198	193	188	182	177	172	167	151	146	141	136	130	125	120	115	104						
5.3	276	271	265	250	244	239	228	223	218	212	207	202	197	191	186	181	175	170	154	149	144	138	133	128	122	117	106						
5.4	281	276	270	254	249	243	233	227	222	216	211	206	200	195	189	184	179	173	157	152	146	141	135	130	125	119	108						
5.5	286	281	275	259	253	248	237	231	226	220	215	209	204	198	193	187	182	176	160	154	149	143	138	132	127	121	110						
5.6	292	286	280	264	258	252	241	236	230	224	219	213	208	202	196	191	185	180	163	157	152	146	140	135	129	124	112						
5.7	297	291	285	268	263	257	246	240	234	228	223	217	211	206	200	194	189	183	166	160	154	149	143	137	132	126	114						
5.8	302																																

## λ値：熱伝導率 W/(m・K)

熱の通しやすさを表す素材の特性値で、  
小さい値ほど「断熱性能が高い素材」と  
いうことができます。

■材料の熱伝導率表

分類	建材名称	熱伝導率 [W/(m・K)]	対応JIS
木質系壁材・ 下地材	タタミボード	0.056	JIS A 5905
	A級インシュレーションボード	0.058	
	シーリングボード	0.067	
	パーティクルボード	0.16	
	天然木材	0.12	
	合板	0.16	
	木毛セメント板	0.13	
	木片セメント板	0.15	
	ハードファイバーボード(ハードボード)	0.17	
	ミディアムデンシティファイバーボード(MDF)	0.12	
非木質系壁材・ 下地材	せっこうボード:GB-R, GB-D, GB-L, GB-NC	0.22	JIS A 6901
	せっこうプラスター	0.6	
	漆喰	0.74	
	畳	0.08	
	ガラス	1.0	
コンクリート系材料	セメント・モルタル	1.5	JIS A 5416
	コンクリート	1.6	
	軽量気泡コンクリートパネル(ALC/パネル)	0.19	
金属類	銅	55	
	アルミニウム	210	
	鋼	370	

〔住宅の平成25年省エネルギー基準の解説〕((一財)建築環境・省エネルギー機構)より抜粋

## R値：熱抵抗値 m<sup>2</sup>・K/W

熱の伝わり難さを表す数値で、数字が大きいほど熱を伝えにくい。

$$R(\text{熱抵抗値}) = d \div \lambda$$

R：材料の熱抵抗値 m<sup>2</sup>・K/W  
d：材料の厚さ m  
λ：材料の熱伝導率 W/(m・K)

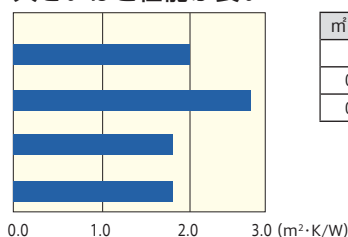
※計算に用いる材料の厚さの単位は、メートル[m]であることに注意すること

したがって、数値が大きいほど、その材料の断熱性能は  
高いことになります。同じ性能の断熱材を用いる場合、  
厚くしたほうが「熱抵抗値」は大きくなります。また、同じ  
厚さでも性能の高い断熱材(「熱伝導率」が低い断熱材)  
を用いたほうが、「熱抵抗値」は大きな値となります。

## 木造住宅に使われる、主な断熱材の代表的な厚さの熱抵抗値(R値)

断熱材種類 (旭ファイバーグラス 該当商品)	熱伝導率 W/(m・K)	熱抵抗値 (m <sup>2</sup> ・K/W)
グラスウール 10K100mm (マットエース)	0.050	2.0
高性能グラスウール 16K105mm (アクリアウール)	0.038	2.8
フェノールフォーム断熱材 1種2号CII 35mm	0.022	1.8
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA 50mm	0.028	1.8

大きいほど性能が良い



■単位の換算(熱抵抗)

m <sup>2</sup> ・K/W	m <sup>2</sup> ・h・°C/kcal	ft <sup>2</sup> ・h・F/Btu
1	1.163	5.678
0.8598	1	4.883
0.1761	0.2048	1

## 比熱(J/(g・K))

物質の温めやすさを表す数値です。圧力や体積一定の条件下で、1gの物質を1℃上げるのに必要な熱量を指します。

## 熱容量(J/K)

比熱Cと質量Mの積により与えられ、ある物の温度を1℃上昇させるのに要する熱量を指します。建築において用いられる場合には、  
熱的特性の一要素として温度変化の緩やかさ、すなわち暖まりにくさ冷めにくさの度合いを示す指標として用いられます。一般に、  
コンクリート造・組積造建物(重構造と呼ばれる)の熱容量は大きく、木造・鉄骨造(軽構造)では小さくなります。



# グラスウールの吸音性能

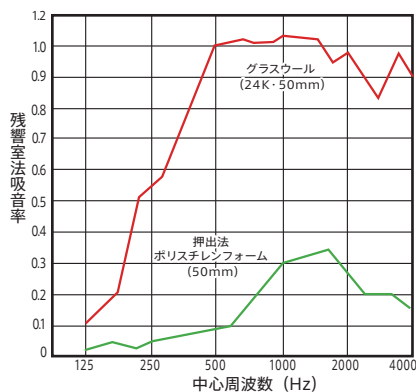
グラスウールは繊維系断熱材ですので、グラスウールに入射した音のエネルギーは繊維や内部の空気を振動させて熱エネルギーに変換されるため、優れた吸音性能を発揮します。

## ■グラスウールの吸音性能

吸音率とは、材料における入射する音エネルギーに対する内部吸収・透過する音エネルギーの割合です。大きいほど、良い吸音材といえます。

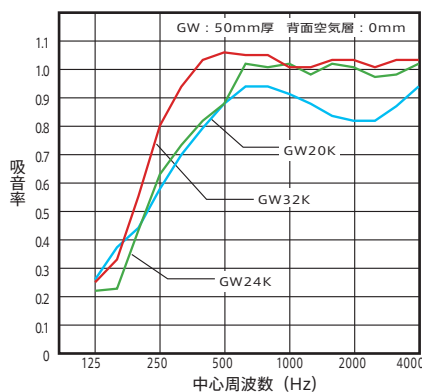
### ①発泡系断熱材との吸音比較

発泡系断熱材は繊維状ではないため吸音性能は低い。



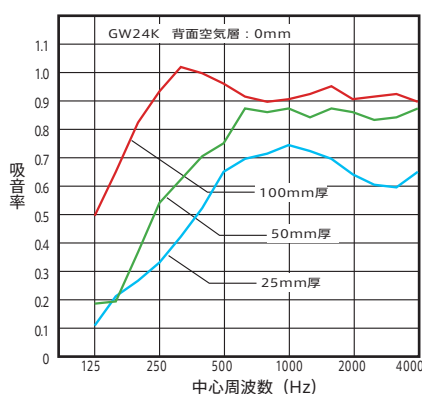
### ②グラスウールの密度と吸音率の関係

密度が高いほうが吸音率が高い傾向にある。



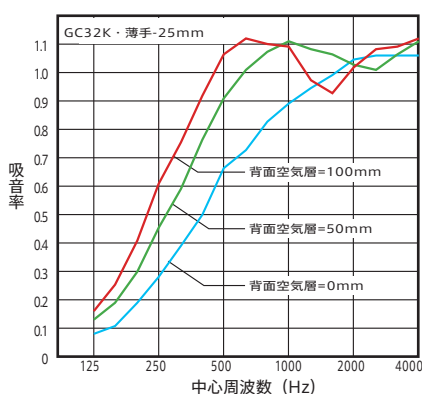
### ③グラスウールの厚さと吸音率の関係

厚さが厚いほうが低い周波数の吸音率が高い。



### ④グラスウールの背面空気層と吸音率の関係

背面空気層が大きいほうが低い周波数の吸音率が高い。



①出典：硝子繊維協会、②③④出典：都立工業技術センター、小林理学研究所測定値

## ■防音の考え方

騒音となる音を小さくしたり(吸音)、外部にももらさないようにしたりすること(遮音)が基本です。

### 吸音：音を吸い込む

その部屋で発生した音の反響を小さくするように吸音材(音を吸い込む材料)を、壁や天井の表面に貼ります。

### 遮音：音を通さない

外部からの音を遮断したり、内部の音を外にももらさないように壁、ドア等に遮音材を用います。

快適な環境を実現するためには、音の持つ3つの性質を知る必要があります

#### 音は空気振動

音は空気を振動して伝わります。そして、わずかな隙間からでも伝わっていきます。

#### 重い材料ほど遮音する

鉛やコンクリートのような質量の重たい材料ほど、空気振動で伝わる音をよく遮断します。

#### 吸音はフワフワ材料

グラスウール・ロックウールなどの繊維系材料が、音の伝わりようとするエネルギーをしっかりと吸収します。

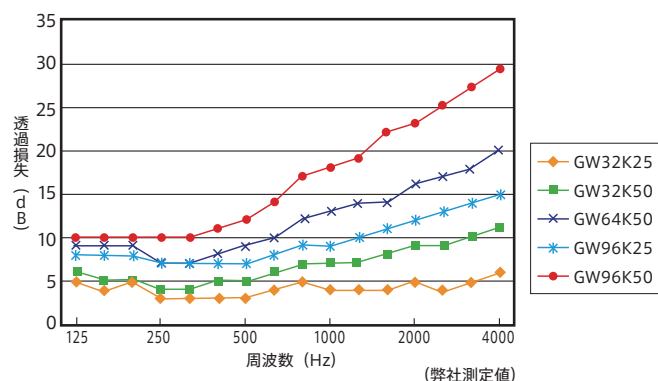
# グラスウールの遮音効果

## ■グラスウールの遮音効果

遮音性を表す数値を透過損失といいます。材料や建築部位などに入射した音エネルギーに対して透過したエネルギーが小さいほど、遮音性能が良いということになります。一般的には、密度が高く重い材料のほうが透過損失は大きくなります。

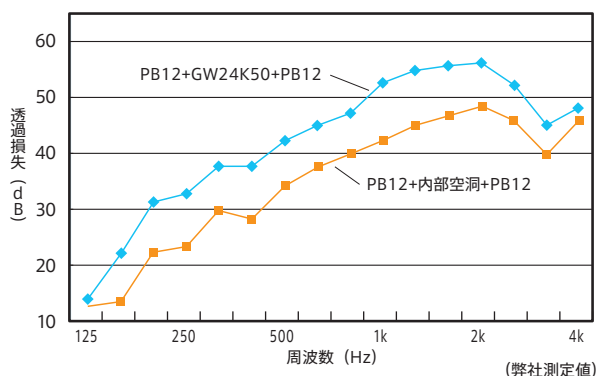
### ① グラスウール単体の透過損失

面密度(密度×厚さ)が大きいほど透過損失は大きくなります。



### ② 中空壁にグラスウールを充填した場合の透過損失

間仕切り壁の内部にグラスウールを充填すると透過損失が大きくなります。



## 日本建築学会による遮音性能基準

### ■ 空間音圧レベル差に関する適用等級

出典: 日本建築学会編「建築物の遮音性能基準と設計指針」(第二版)

建築物	室用途	部位	適用等級			
			特級	1級	2級	3級
集合住宅	居室	隣戸間界壁	D-55	D-50	D-45	D-40
ホテル	客室	客室間界壁	D-55	D-50	D-45	D-40
事務所	業務上プライバシーを要求される室	室間仕切壁/テナント間界壁	D-50	D-45	D-40	D-35
学校	普通教室	室間仕切壁	D-45	D-40	D-35	D-30
病院	病室(個室)	室間仕切壁	D-50	D-45	D-40	D-35

※適用等級の「D値」は、実際の現場での2室間の遮音性能を表したものです。(現場測定値)

### ■ 遮音性能の表し方 (D値とTLD値およびRr値について)

建築物の遮音性能は、D値を尺度として表され、日本建築学会では室用途別に性能基準を定めています。

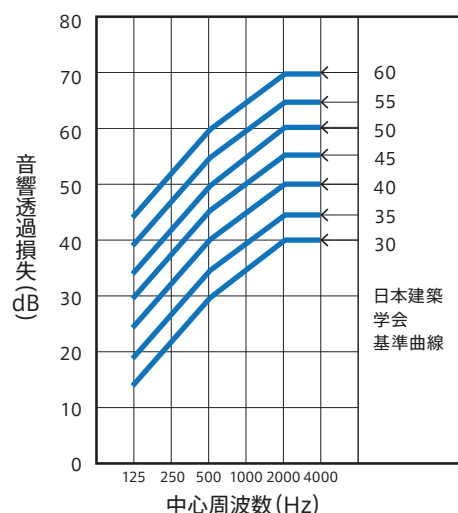
「D値」は中心周波数、125、250、500、1000、2000、4000Hzの6帯域測定し、日本建築学会の遮音基準曲線を上回るとき、その上回る基準曲線の内の最大の基準曲線の数値を「D値」と呼びます。

「D値」は遮音壁以外の窓やドアなどの開口部や躯体などの異種部位からの「音の回り込み」を含みます。

「TLD値」は音響試験室で測定された遮音壁単体の遮音性能(音響透過損失)を表します。

「TLD値」は「D値」と同様に日本建築学会基準曲線に当てはめて求めますが、単位が「D値」が40、45、50などの5単位に対し、41、42、43などの1単位で評価します。

品確法で規定されている「Rr値」も、「TLD値」と同じく音響試験室で測定された遮音壁単体の遮音性能です。両者は高音域での評価方法などが若干異なりますが、ほぼ同じ値と考えてさしつかえありません。



# 音の基礎

## ■ 音はどのように伝わるのか。

音は空気を振動させることで発生します。例えばスピーカーから音を出すと、スピーカーが空気を振動させて空気が波のように振動して遠くまで伝わっていきます。



## ■ 生活における音

私たちの生活の場では様々な音が発生し不快な音も多くあります。音が反響すると講堂では話し声が聴きにくくなりますし、スタジオでは反響音が発生すると雑音となってしまいます。また、大きな道路や線路の側では室内に騒音が入り落ち着きません。このような状態の時に音をコントロールすることで快適な室内環境を作ることができます。

まず、音がどの位の高さ(周波数)が人間に聞こえるのかと、音のうるさはどのように表すかを見てみます。

### 人間が聴こえる音の高さ

音があまりに高過ぎたり低すぎる周波数は人の耳には聞こえません。人の聴覚は16Hz~20,000Hzと幅広い範囲で聴こえます。



### 音のうるささ(音の強さ)

音のうるささ(強さ)は音のエネルギー量で決まります。音の強さは音圧レベルとしてデシベル値「dB」で表します。

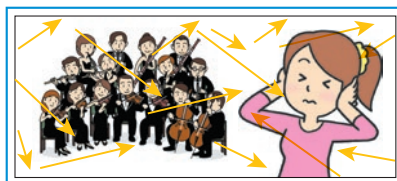
音圧レベルL <sub>p</sub> (dB)	音の強さI (W/m <sup>2</sup> )	相当する環境	うるささの程度
140	10 <sup>2</sup>	ジェットエンジンの近く	聴覚機能障害
120	1	自動車のホーン(2m)	極めてうるさい
100	10 <sup>-2</sup>	プレス機	うるさい
80	10 <sup>-4</sup>	モーターバイク	普通(日常生活)
60	10 <sup>-6</sup>	ゲームセンター内	普通(日常生活)
40	10 <sup>-8</sup>	図書館内	静か
30	10 <sup>-9</sup>	ささやき声	静か
20	10 <sup>-10</sup>	木葉の舞の舞合音	極めて静か
0	10 <sup>-12</sup>	聴覚の限界	極めて静か

## ■ 音をコントロールする

### 反響してうるさい部屋を静かにする

室内で音が発生すると、天井・壁・床に反響して音の跳ね返りが多いと、いつまでも音が残ります。部屋内の天井・壁・床に吸音性能を持たせることで音を吸収させて用途に応じた室内環境を作ることができます。

吸音効果



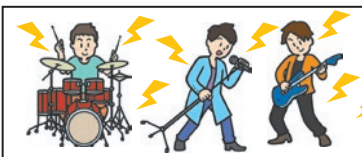
音が反響すると聞き取り難い



### 外部の騒音を伝えるにくくする

室外で発生した騒音が室内に入ってくると、室内もうるさくなります。室内に音を入れるくくするためには、コンクリートなど質量が大きなものが有効です。また、壁の中の空間に吸音材を入れることで室内への騒音の侵入を低減することができます。

遮音効果



遮音壁

遮音構造の壁(壁内に吸音材)  
質量が大きい壁(コンクリートなど)



吸音効果、遮音効果を上手く使うことで部屋の騒音レベルをコントロールして、快適な室内空間を作ることができます。

## ■ 音に関する用語

### ● 周波数

音が1秒間に振動する回数。単位はHz(ヘルツ)を使用します。周波数が大きいと高い音、周波数が小さいと低い音になります。

### ● 残響室法吸音率

残響室を用い、実際に使用するときと同じ構造の材料について測定した吸音率で、残響室内に試料を配置したときと空室の場合の吸音力の差から算出します。垂直入射吸音率が垂直に当たった音に対する吸音率であるのに対し、残響室法吸音率では、あらゆる方向からの音に対する総合的な吸音率をいいます。

### ● N.R.C (Noise Reduction Coefficient)

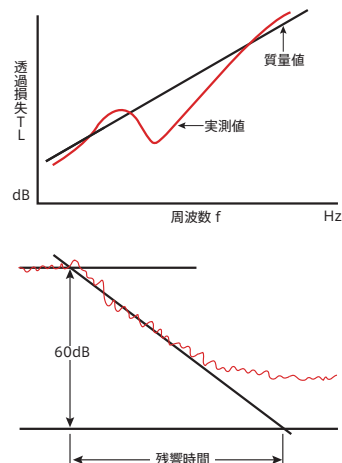
250、500、1 K、2 KHzの各周波数の吸音率の算術平均値です。JIS A 6031(吸音材料)においては、この値にて「吸音性能による区分」を求めます。

### ● コインシデンス効果

材料の透過損失は、コインシデンス効果により遮音性能の低下がなければ、周波数が高いほど又、単位面積あたりの質量が大きいほど大きくなり、これを質量則といいます。コインシデンス効果とは、下図のようにある特定の周波数で共振などにより音波が透過しやすくなる(遮音性能が低下)現象をいいます。

### ● 残響時間

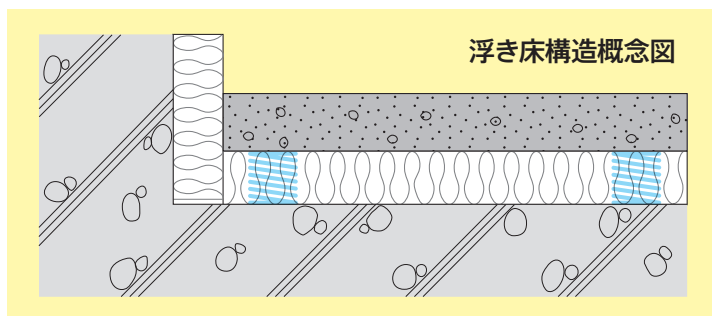
建築音響では、響き具合を残響時間で表します。残響時間とは、室内において音を出して定常状態になったときの任意の点でのエネルギー密度E<sub>0</sub>から、音を切断した後の音のエネルギー密度が10<sup>-6</sup>・E<sub>0</sub>(60dB)低下するまでの時間をいいます。(60dB減衰するまでの時間)



# グラスウールの緩衝性能・長期性能

## 緩衝性能

グラスウールは適度な弾力性があるため緩衝材としてもすぐれた性能があります。  
緩衝材としてグラスウールを使うと固体伝播音の低減に効果がありますので、  
建築物の床衝撃音の防止及び建築設備等の機械振動の防止を目的として使用されています。



浮き床構造の原理は、左図のようにコンクリート床をバネ効果のある素材で支えると考えると分かりやすいかと思います。このバネ効果のある素材が、浮き床層の振動を吸収し、構造への振動の伝搬を低減させます。

浮き床工法については『建築内装・設備産業向け断熱・吸音材カタログ』を参照してください。

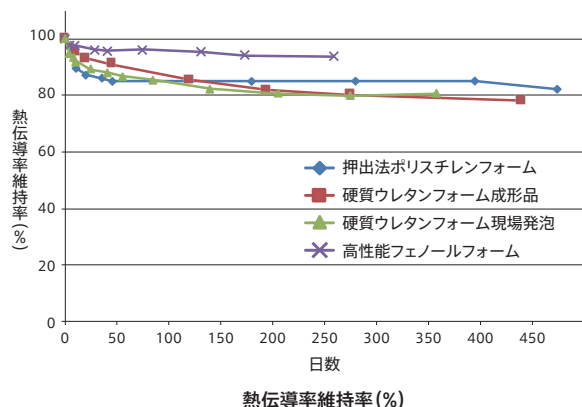
## 長期性能

断熱材の断熱性能は熱抵抗値(大きいほど良い)で表されます。  $\text{熱抵抗値}[\text{m}^2 \cdot \text{K}/\text{W}] = \frac{\text{厚さ}[\text{m}]}{\text{熱伝導率}[\text{W}/(\text{m} \cdot \text{K})]}$

熱抵抗値の低下は、

- ①熱伝導率が大きくなる ②厚さが薄くなる  
ことによって起こります。

- ① 空気より断熱性能の高いガスを封入している  
発泡プラスチック系断熱材は、  
徐々に内部のガスが空気と置換することにより  
熱伝導率が大きくなり性能が低下します。  
(下記、長期性能のグラフ参照)
- ② グラスウールの繊維はガラスで無機物のため安定した材料です。  
圧縮包装している製品は開梱後に呼び厚さを確保できるよう  
製造時には呼び厚さ以上で製造しています。  
また、天井の吹込みグラスウールは、経年で厚さが2~5%程度  
沈下しますので、施工時に呼び厚さの10%を吹き増ししています。



出典:  
「平成19年度 断熱材の長期断熱性能評価に関する標準化調査 成果報告書」を元に作成

### CASE1 A邸 山形県酒田市 築17年目



住宅施工 昭和63年

検証日 平成17年1月19日

断熱材仕様

天井 グラスウール16K 100mm

壁 グラスウール16K 100mm

床 グラスウール16K 100mm+50mm



黒ずんだ透湿防水シートを切り開いてグラスウールの状態を見る  
▶グラスウールは驚くほどきれいな状態



グラスウールをめくり防湿フィルム側もチェック  
▶カビの発生は見られず、結晶の形跡もない



土台部分も乾燥している



グラスウールを割ってみる ▶内部も外側同様の美しさで、完全な乾燥状態

#### 検証報告

築17年目という長期間経過後の検証でしたが、取り出したグラスウールは製造時のそのままを思わせるほどきれいな状態で、フワフワとした綿状を保っていました。

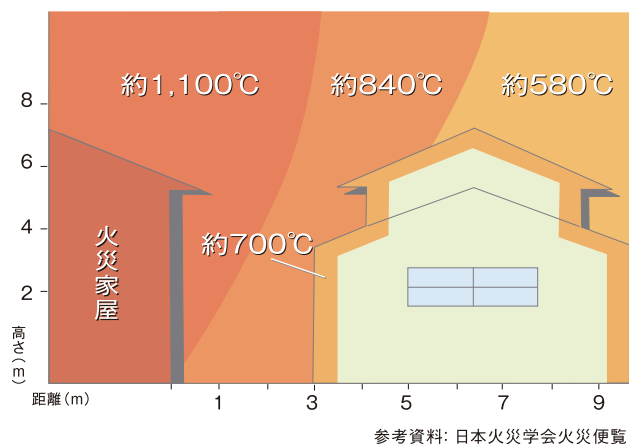


# グラスウールの不燃性・安全性

## 不燃性

都市部の住宅地で火災が発生すると、わずか30分で隣家の外壁は800℃を超える高温にさらされます。使用している断熱材が可燃性か不燃性かによってその被害も違います。ガラスを原料としたグラスウールは、高温に強く、燃えにくい不燃材なので、延焼や類焼防止に効果があります。有毒ガスもほとんど発生しません。

### ■火災家屋からの距離と温度



### ■燃焼実験



[比較方法]  
150mm角の試料をセットし、下から炎を当てた後の状態を撮影。

## 安全性

旭ファイバーガラスのグラスウール製品には、過去から現在に至るまでアスベストを一切使用しておりません。グラスウールはアスベストとは異なり、リサイクルガラスを主原料とした人体に安全な人造鉱物繊維です。世界保健機関(WHO)の下部組織であり、最も権威がある国際がん研究機関(IARC)はグラスウールを「ヒトに対して発がん性に分類されない」区分であるグループ3に分類しています。

### 【IARCによる発がん性分類】

※ 2016年 6月現在

グループ1	ヒトに対して発がん性がある	アスベスト、たばこなど
グループ2A	ヒトに対して発がん性でありうる	とても熱い飲み物、レッドミート(ほ乳類の肉)など
グループ2B	ヒトに対して発がん性の可能性がある	ガソリン、ピクルスなど
グループ3	ヒトに対して発がん性に分類されない	グラスウール(短繊維)、コーヒー、紅茶など
グループ4	ヒトに対しておそらく発がん性がない	カプロラクタム1品種のみ

グラスウールは、欧米をはじめ日本でも半世紀以上にわたりさまざまな分野で使用され、安全な製品として認められておりますので、今後も安心してお使いいただけます。

ホルムアルデヒド放散特性の基準のある  
JIS※に該当する旭ファイバーガラスの  
グラスウール製品は

最高等級の **F★★★★** です

ホルムアルデヒド放散による区分

※該当JISは、JIS A 9521:建築用断熱材、JIS A 9523:吹込み用繊維質断熱材、JIS A 9504:人造鉱物繊維保温材

F☆☆☆☆の製品は、使用される材料としての制限が一切ありませんので、あらゆる部位や部分に安心してご使用になれます。製品梱包や製品ラベルにはホルム等級表示をしております。

JIS非該当品については、個別に国土交通省の大臣認定を取得しているものがあります。詳しくはカスタマーセンターにお問合せください。認定番号:MFN-2685



アクリアは、シックハウス症候群の原因物質の1つといわれ、発がん性も指摘されるホルムアルデヒドを含む材料を一切使っていません。

# グラスウール製品の取扱い上の注意事項

## <ハンドリング、加工、施工について>



- 1) 長袖で袖口がしまり、かつ、ゆったりとした衣服、防じんマスク、帽子、保護手袋、保護眼鏡等を着用し、繊維との接触を避けてください。
- 2) 切断する場合は、カッターナイフ等の手動工具を用い、粉じんが飛散しないように注意してください。
- 3) グラスウールの廃材は、速やかに袋に入れる等、粉じんが飛散しないように注意してください。
- 4) 火災防止上、裸火、溶接・溶断の火花、その他の火源を近づけないでください。
- 5) 製品への上乗れ作業は危険です。
- 6) 水濡れは厳禁です。水濡れした製品は金属を腐食させる原因にもなります。
- 7) カタログに掲載している用途以外で使用する場合は、弊社へご相談ください。
- 8) グラスウール製品を初めて使用する前に安全データシートをご確認ください。

## <保管について>



- 1) 野積みせず、パレットなど敷板を用い、水平に置いてください。また、重量物の下積みにはしないでください。
- 2) 高湿度、直射日光の影響を受ける場所を避け、平らな場所に水平に置いて下さい。
- 3) 水濡れは厳禁です。雨に濡れないようご注意ください。

## <ホルムアルデヒドについて>



- 1) グラスウールの製造に使用されるフェノール樹脂はホルムアルデヒドを放散しますが、JIS A 9521建築用断熱材、JIS A 9504人造鉱物繊維保温材及びJIS A 9523吹込み用繊維質断熱材を取得している製品は、使用規制を受けない F ☆☆☆等級の製品です。
- 2) 微量でも気になる方には弊社の「アクリア」のご使用をお勧めします。アクリアはホルムアルデヒドを含まない原材料を使用しています。

## <製品固有のニオイについて>



- 1) フェノール樹脂を使用するグラスウールには固有のニオイがあります。閉め切った場所に保管する場合等、気になる場合は換気をお願いします。
- 2) 高温、多湿な環境や結露等により製品が濡れた場合にはニオイが強くなる場合があります。その場合でも、ニオイは気温の低下や乾燥、時間の経過とともに減少します。
- 3) わずかなニオイでも気になる可能性がある環境や、換気が十分取れない場所等にはフェノール樹脂を使用していない「アクリア」をお勧めします。

## <用途別注意点について>



- 1) 建築用断熱材  
イ. S形以外の天井埋込形照明器具は、グラスウール断熱材との間に所定の距離を設けてください。  
ロ. 防湿層を室内側に設けてください。  
ハ. 空気層は室外側に設けてください。
- 2) 吹込み用断熱材  
イ. 所定の熱抵抗に対応した施工厚さと、施工質量を必ず確保してください。  
ロ. 天井用埋込形照明器具は、JIL5002に適合するSB形を使用してください。  
ハ. 室内側に別途、防湿層を設けてください。  
ニ. 防湿層の継ぎ目は、下地材のある部分で30mm以上重ね合わせてください。  
ホ. 施工前に施工マニュアルを読んでください。
- 3) 保温材  
イ. 濡れた保温材は金属を腐食させる原因になります。使用する部位は水濡れしないよう注意してください。
- 4) 外張り用断熱材  
イ. 製品を幅詰めをする場合は、5mm程度大きめに切断してください。  
ロ. グラスウールの突き付け部は、すき間のないように施工してください。

	断熱用	保温用	吸音用	緩衝用
無機繊維断熱材 (GW・RW)	JIS A 9521 建築用断熱材	JIS A 9504 人造鉱物繊維保温材	JIS A 6301 吸音材料	JIS A 6322 (GW) 浮き床用グラスウール緩衝材  JIS A 6321 (RW) 浮き床用ロックウール緩衝材
発泡プラスチック系 断熱材 (XPS・EPS・PUF・PE・PF)		JIS A 9511 発泡プラスチック保温材		
有機繊維系断熱材 (インシュレーションファイバー)				
吹込み用繊維系断熱材 (GW・RW・CF)	JIS A 9523 吹込み用繊維質断熱材			
現場発泡 ウレタンフォーム	JIS A 9526 建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム			

GW:グラスウール

XPS:押出法ポリスチレンフォーム

PF:フェノールフォーム

RW:ロックウール

EPS:ビーズ法ポリスチレンフォーム

CF:セルローズファイバー

PUF:硬質ウレタンフォーム

PE:ポリエチレンフォーム

## JIS A 9521 (建築用断熱材)

23℃での熱伝導率が0.065W/(m・K)以下のもの。熱伝導率で規格化されており、熱抵抗は表示義務となります。

グラスウールは密度10K～96Kが対象です。

## JIS A 9504 (人造鉱物繊維保温材)

70℃での熱伝導率で規格化されており、グラスウールは密度24K以上が対象で、保温筒のような円筒形状のものも含まれます。

## JIS A 6301 (吸音材料)

グラスウールは密度10K～96Kが対象で、吸音性能で区分されています。

## JIS A 6322 (浮き床用グラスウール緩衝材)

振動防止用材。ばね定数で規格化されており、グラスウールは密度80K以上が対象です。当社品でのJIS取得品種はありません。

各JISの取得品種は各品種のページを参照してください。

## ● 表示例 (アクリアネクスト14K-105mmの場合)

**GWHG14-38**

種類又は製品記号

**F☆☆☆☆**

ホルムアルデヒド放散特性

**λ38**

熱伝導率

**R2.8**

熱抵抗

**105×395×2880**

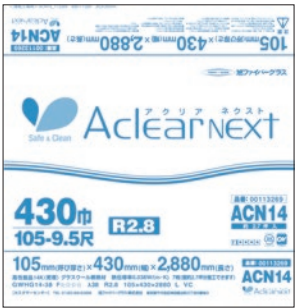
呼び寸法(厚さ×幅×長さ)

**L**

包装による区分

**VC**

外皮材、面材又はスキン層による区分



包装方法	記号
圧縮包装したもの	L
圧縮包装しないもの	H

区分	記号	ホルムアルデヒド放散速度
F☆☆☆☆等級	F☆☆☆☆	5μg/(m <sup>3</sup> ・h)以下
F☆☆☆☆等級	F☆☆☆☆	20μg/(m <sup>3</sup> ・h)以下

外被材、面材又はスキン層の種類	記号	外被材の説明
輝面 外被材付き	F	はり合せアルミニウムはく、 金属蒸着プラスチックフィルム 等
防湿 外被材付き	V	ポリエチレンフィルム、 プラスチック系防湿フィルム、 アスファルト防湿紙 等
その他 外被材付き	C	透湿防水シート、クラフト紙、 穴あきポリエチレン、ガラス繊維不織布、 寒冷しゃ(紗) 等
外被材なし	N	—

- ホルムアルデヒド放散特性は、JIS A 9521(2022)の表12から抜粋したものです。
- 包装による区分は、JIS A 9521(2022)の表2の内容を抜粋しています。
- 各外被材の詳細、適用規格等は、JIS A 9521(2022)の表3によります。
- 外被材、面材又はスキン層による区分について、記号が2つ記載されている場合は、室内側、室外側の順に記号が並べられています。

## 建材トップランナー制度

経済産業省資源エネルギー庁が、製品の性能をさらに向上させるように目標値を設定しその達成を求める制度です。住宅・建築物におけるエネルギーの消費効率の向上を資する商品として、グラスウール断熱材が制度の対象となっています。グラスウール断熱材のほかに、ロックウール断熱材、押出法ポリスチレンフォーム断熱材、サッシ、複層ガラスが対象になっています。また吹付け硬質ウレタンフォームが、「準建材トップランナー制度」の対象となっています。

グラスウール断熱材の目標値と目標年度は下記の通りです。

熱伝導率 0.03942 [W/(m・K)]      目標年度 2030年度


## 優良断熱材認証制度（EI制度：Excellent Insulation）

優良断熱材認証制度は、一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会が、優良な断熱材を認証し、「優良断熱材認証マーク」を表示する制度です。製造販売する事業者が認証された製品に性能表示マークを表示し、その中で熱性能を熱抵抗値(R値)等の数字で表現するため、消費者が同じ尺度で異なる種類や事業者の断熱材の性能を比較できます。

## 認証の対象となる断熱材

- 住宅と建築物の主要部位に使用されるもの。
- 熱抵抗値 $1.1(\text{m}^2\cdot\text{K})/\text{W}$ 以上かつ熱伝導率 $0.052\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})$ 以下であること。  
または熱伝導率 $0.036\text{W}/(\text{m}\cdot\text{K})$ 以下であること。
- JIS認証品、或いはISO9001登録工場において安定した熱性能を適切な品質管理のもとに維持し、生産される商品またはそれらと同等の商品であること。
- 健康安全性及び環境への配慮がされていること。

## 優良断熱材認証マーク(EIマーク)

旭ファイバーガラスの住宅用断熱材は、熱抵抗値 $2.7\text{R}[\text{m}^2\cdot\text{K}/\text{W}]$ 以上の製品にEIマークを表示しています。  
旭ファイバーガラスの推奨するEI認証製品は、製品ページをご参照ください。(  マークの製品)


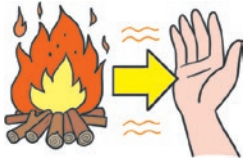



私たちは生活の中で、暑さ・寒さをしのいで快適に暮らしたいと考えています。また、配管などの内部を流れる流体の温度を維持するために保温・保冷を施したりします。これは、熱をどのようにコントロールするかということの意味します。この「熱」とはどのようなものなのか、考えてみましょう。

## ■熱の伝わり方

たき火で暖をとったり、打ち水で涼をとったりと生活の様々なシーンで熱をコントロールしています。

熱の伝わり方は、下記の3つに分類できます。

①「伝導」	②「放射（ふく射）」	③「対流」
 <p>「伝導」は物質内部において高温側から低温側へ熱が伝わる現象です。物質によって熱の伝わり易さが異なります。</p> <p>私たちの身の回りの「伝導」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カップにコーヒーを注いだ後、柄やスプーンが徐々に熱くなる</li> <li>●火にかけたフライパンの柄が徐々に熱くなる</li> </ul>	 <p>直接触らなくても温度の異なるもの間で電磁波によって熱は移動します。これが「放射（ふく射）」です。</p> <p>私たちの身の回りの「放射（ふく射）」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●太陽光を浴びると暖かく感じる</li> <li>●石油ストーブや電気ストーブの前にいると暖かく感じる</li> </ul>	 <p>温度差で密度が変わることによって空気（流体）とともに熱が移動します。これが「対流」です。</p> <p>私たちの身の回りの「対流」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●やかんを火にかけたときの水の動き</li> <li>●ストーブやエアコンをつけたときの部屋の中の空気の動き</li> </ul>

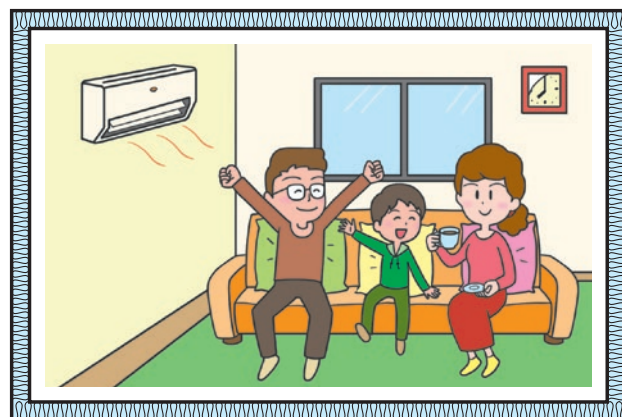
グラスウールは「伝導」による熱の伝わり方をコントロールするのに使います。

## ■熱をコントロールする

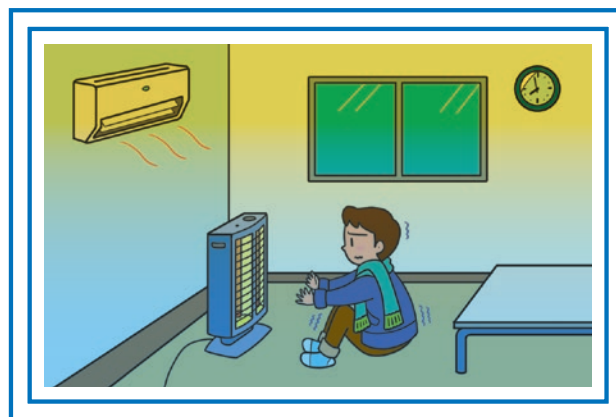
### 断熱

建物の部屋の境界（天井・壁・床）が熱を伝えやすいと、室内が周囲の影響を受けて、暑くなったり寒くなったりします。それを防ぐために、境界部に断熱材を入れると室温を安定させることができます。

断熱性能の高い部屋



断熱性能の低い部屋



## 熱貫流率(U値)

個体の壁を挟んだ両側の空間に温度差があるとき、高温の空間から低温の空間へ熱の貫流が生じます。この場合の貫流熱量は両空間の温度差と伝熱面積に比例し、その比例係数に相当するものが熱貫流率です。単位は $W/(m^2 \cdot K)$ となります。

※2009年4月1日に施行された改正省エネルギー法において熱貫流率を示す記号が「K値」から「U値」に変更されました。これは、熱貫流率を示す記号が国際的に「U」が使用されていることに対応したものです。

## 表面熱伝達率

建物部位表面とそれに接する周辺気体(空気)間の熱の伝わりやすさを示す値であり、面積 $1[m^2]$ 温度差 $1[^\circ C]$ で1時間当たりどれだけの熱量 $Q[W]$ を伝達するかを表す数値です。通常、熱伝達率 $[W/(m^2 \cdot K)]$ は、 $\alpha$ で表し、温度差が一定ならば、 $\alpha$ の値が大きいくほど建物部位に伝達される熱量は大きくなります。建築では、熱伝達率を室内用と外気用に分け、室内用は壁、床、天井に分けられ、外気用では外気風速によって分けて用いられています。熱伝達率の逆数を熱伝達抵抗といい、 $R_i, R_o[m^2 \cdot K/W]$ で表しています。

### 表面熱伝達抵抗

部位	熱的境界内側(室内側)の 表面熱伝達抵抗 [ $m^2 \cdot K/W$ ]	熱的境界外側(外気側)の表面熱伝達抵抗[ $m^2 \cdot K/W$ ]	
		外気に直接接する場合	左記以外の場合
屋根	0.09	0.04	0.09 (通気層等)
天井	0.09	—	0.09 (小屋裏等)
外壁	0.11	0.04	0.11 (通気層等)
床	0.15	0.04	0.15 (床裏等)

### 表面熱伝達抵抗(界壁・界床の場合)

部位	対象住戸の室内側表面熱伝達抵抗 [ $m^2 \cdot K/W$ ]	隣接住戸の室内側表面熱伝達抵抗 [ $m^2 \cdot K/W$ ]
界壁	0.11	0.11
上階側界床	0.09	0.09
下階側界床	0.15	0.15

## 線熱貫流率: $\psi$ (プサイ) [ $W/(m \cdot K)$ ]

基礎の土間床などの外周部における単位長さ(1M)あたりの熱貫流率です。熱損失量を求める際は、線熱貫流率に該当部位の周長を乗じて求めます。

## 温度差係数

隣接する空間と温度差を考慮して部位の熱損失量を補正する係数です。

## 一次エネルギーと二次エネルギー

一次エネルギーとは、天然ガスや石油、石炭などの化石燃料や原子力、水力などの自然からとられたままのエネルギー源のこと。二次エネルギーとは、都市ガスや電気、ガソリンなど一次エネルギーを変換、加工したエネルギーのこと。

# 住宅の断熱性能レベル

## 住宅の断熱性能について

### ■省エネ住宅と断熱住宅の違い

#### 省エネ住宅

住宅で使うエネルギー（暖冷房だけではなく、給湯・照明・換気など）が小さい住宅  
断熱によって小さくなるのは暖冷房エネルギーが中心なので、断熱だけだと省エネ住宅とは言えません。  
逆の言い方をすれば、断熱の悪い住宅でも、大量の太陽光発電設備を設置すると省エネ住宅になります。

#### 断熱住宅

暖冷房費が節約（省エネ）できるだけでなく、住環境が快適になったり、健康的になることが可能になります。  
(P.65参照)

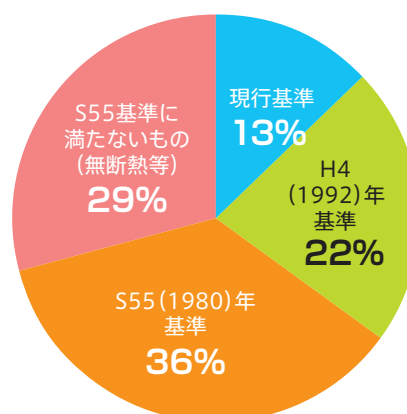
## 住宅の断熱性能レベル

日本における新築住宅の断熱性能レベルの割合をみると、  
現行の省エネ基準レベルに適合している住宅が約62%程度と推定されています。(国土交通省：令和元年度中小工務店向け講習会テキストより)  
一方ストック住宅の断熱性能レベルの割合をみると、現行の省エネ基準レベルに適合している住宅は13%に過ぎません。

現行の省エネ基準のレベルは諸外国の断熱性能基準レベルに比べ低いものですが、ZEHに求められる強化外皮基準、更なる強化外皮基準 (P111参照)、HEAT20 (P60参照) のG1～G3などは同程度以上のものとなっています。

2025年4月からは全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合が義務付けされます。また、2030年までに義務基準がZEH水準まで引き上げられることが予定されています。これに伴い、住宅の高断熱化が加速していくでしょう。

住宅ストック約5,000万戸の断熱性能



出典：国土交通省資料(統計データ、事業者アンケートより推計(2024年))

## 各種断熱性能レベル (U<sub>A</sub>値：外皮平均熱貫流率)

断熱水準	地域区分 外皮平均熱貫流率U <sub>A</sub> 値 [W/(㎡・K)]							
	1	2	3	4	5	6	7	8
省エネ基準 (等級4)	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
住宅性能表示 (等級5)	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	—
住宅性能表示 (等級6)	0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46	—
住宅性能表示 (等級7)	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26	—
HEAT20 G1	0.34	0.34	0.38	0.46	0.48	0.56	0.56	—
HEAT20 G2	0.28	0.28	0.28	0.34	0.34	0.46	0.46	—
HEAT20 G3	0.20	0.20	0.20	0.23	0.23	0.26	0.26	—
・経産省・環境省ZEH 強化外皮基準	0.4		0.5	0.6				—
・経産省ZEH + 選択要件 (更なる強化外皮基準)	0.3		0.4			0.5		—

HEAT20(「20年先を見据えた日本の高断熱住宅研究会」)は長期的視点に立ち、住宅における更なる省エネルギー化をはかるため、断熱などの建築的対応技術に着目し、住宅の熱的シェルターの高性能化と居住者の健康維持と快適性向上のための先進的技術開発、評価手法、そして断熱化された住宅の普及啓蒙を目的として、研究者、住宅・建材生産者団体の有志によって構成された団体です。

## HEAT20が目指すもの

### 現 状

2011.3.11を契機に「節電」、「ピークカット」、「再生エネルギー」、「災害時の安全性(熱環境も含め)」に対する国民意識は向上しているが、個々の対応・施策が個別に展開されている。

### 視 点

- 「建築・設備・創エネ」を最適コストで実現し、
- エネルギーの安全保障
- 「省エネ(EB)」と「室内環境の質の向上(NEB)」が確立する住宅を明確に示す必要がある。

### HEAT20が目指すもの

- 明日の日本の住まいの方向性を示し
- 技術を具現化し
- それを促進するための提言をすること



一次エネルギーの観点から、  
「建築・設備・創エネ」が相互にトレードオフされる



「エネルギー」と「環境の質」と「コスト」の観点から、  
建築・設備・創エネがバランスよく調和した住宅

各地域における代表的な暖房方式の調査検討・設定のうえ、NEB(冬期間の室内温度環境)及びEB(省エネルギー性能)に関して再度検討されました。その結果を踏まえ、以下に「HEAT20 G1・G2 断熱性能推奨水準」と「各断熱性能水準別のNEB及びEB」を提案されました。

### ■ HEAT20 G1・G2・G3 断熱性能推奨水準

外皮性能グレード		1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域	8地域
U <sub>A</sub> 値 [W/(m <sup>2</sup> ・K)]	G1	0.34	0.34	0.38	0.46	0.48	0.56	0.56	—
	G2	0.28	0.28	0.28	0.34	0.34	0.46	0.46	—
	G3	0.20	0.20	0.20	0.23	0.23	0.26	0.26	—

### ■ HEAT20 外皮性能グレード表示ラベル





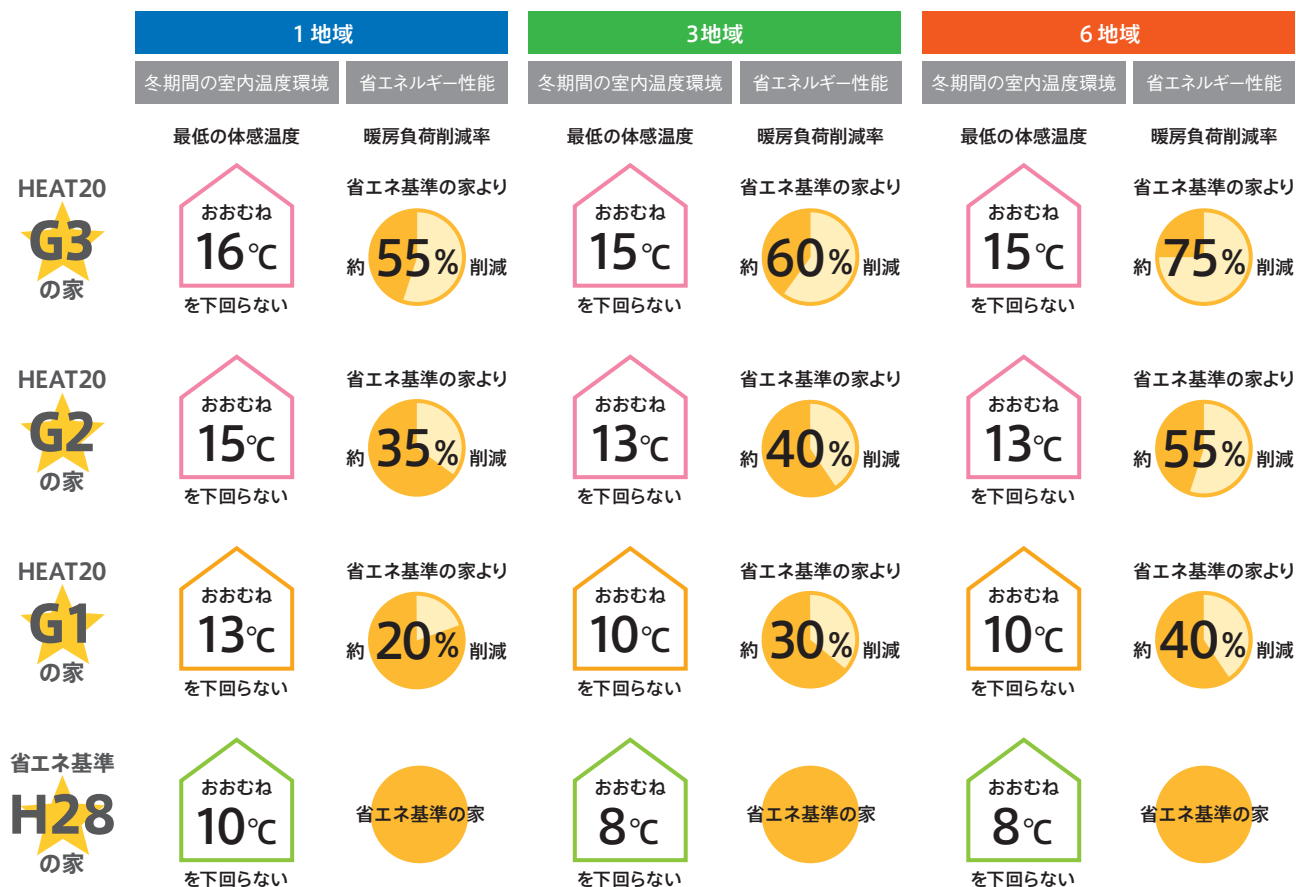
## HEAT20 外皮性能グレードと住宅シナリオ (2017年2月一部修正)

## ■想定する暖房方式

地域区分		1・2地域	3地域		4～7地域	
暖房方式 【暖房時間】	LDK	連続暖房 【24時間】	連続暖房 【平日24時間、休日19時間】		在室時暖房 (深夜・日中は除く)	【平日:14時間】【休日:13時間】
	主寝室		在室時暖房 (深夜・日中は除く)	【全日:9時間】		【全日:3時間】
	子供室			【平日:3時間】【休日:7・10時間】		【平日:3時間】【休日:7・10時間】
	和室		暖房無し			暖房無し
	トイレ、廊下、浴室、洗面室	暖房無し				

## ■冬期間の室内温度環境と省エネルギー性能 (想定する暖房方式におけるシミュレーション)

室内温度環境は、冬期間において家の中が「最も体感温度が低い温度」と「各部屋の体感温度が15℃以下となる時間割合」を表しています。HEAT20のG2仕様では、暖房負荷のエネルギー量や体感温度が15℃未満となる割合が省エネ基準に比べて半減するということがシミュレーション結果で示されました。



※体感温度の考え方:ここで示した体感温度とは作用温度であり、一定の暖房条件のもと、通年に渡る住空間の有効利用、冬季厳寒期の住宅空間内において表面結露・カビ菌類による空気質汚染や健康リスクの低減等も踏まえ設定したものの。

# 省エネ性能表示制度

住宅・建築物のゼロ・エネ化のために必要なのは、誰もが「省エネ性能で建物を選べる」ようにすること。2024年4月から住宅・建築物を販売・賃貸する事業者は、省エネ性能ラベルの表示が努力義務となります。関係する皆様のご協力の下、省エネ性能の高い住宅・ビルがそれを反映した価格や賃料で取引される市場環境の実現を目指します。

## 省エネ性能表示制度の3つのポイント

- 1 **2024年4月から、**  
新たな省エネ性能表示制度が始まります。
- 2 **建築物の販売・賃貸事業者は、**  
販売等の際に省エネ性能の表示が求められます<sup>※</sup>。 ※努力義務
- 3 **新築建築物の販売等の際は、所定のラベルを**広告等に  
表示する必要があります。(既存建築物についても表示を推奨)

## 発行物について 種類と発行方法

省エネ性能表示制度の発行物は、全2種類です。

①省エネ性能ラベル・②エネルギー消費性能の評価書をセットで発行します。

1

### 省エネ性能表示ラベル

ポータルサイトやチラシ等の  
広告に使用するラベル画像



※2023年9月時点

2

### エネルギー消費性能の 評価書

建築物の概要と省エネ性能  
評価を記した保管用の証明書



※2023年9月時点

## 発行方法

評価によって、発行方法が異なります。

### 自己評価

評価によって、発行方法が異なります。

### 第三者評価

販売・賃貸事業者が評価機関に申請し、  
評価機関から交付

既存の第三者評価制度としては、BELS  
(ベルス:建築物省エネルギー性能表示制度)  
があります。

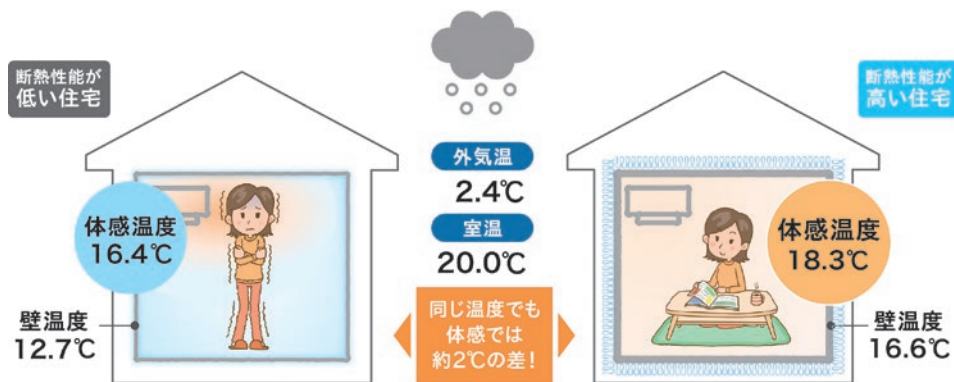
# 高断熱住宅のメリット

高断熱住宅にすることで、省エネだけでなく様々なメリットがあります。  
快適性・経済性・健康性の3つの観点で説明します。

## 1. 快適性

◎室温が同じでも体を感じる温度が違います。

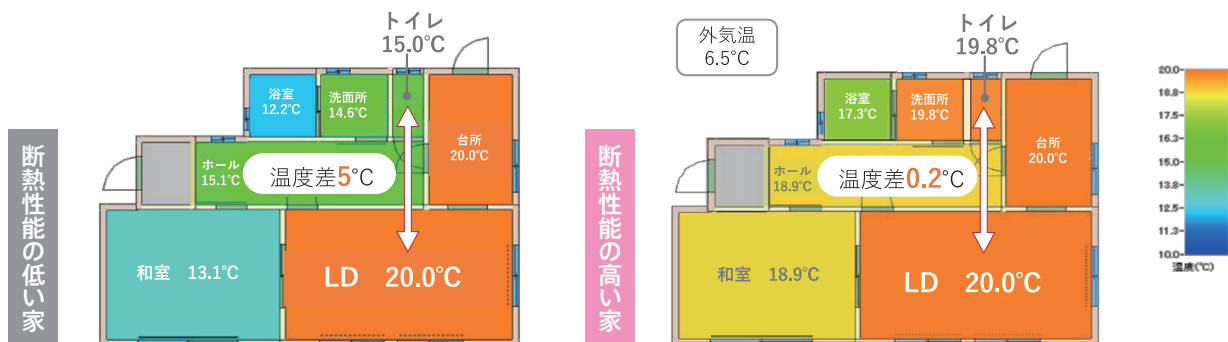
断熱性能の低い家と高い家では室温が同じでも、壁などの周囲の表面温度の差が約4℃になるため、実際に人が感じる体感温度は、断熱性能の高い家のほうが約2℃暖かく感じます。



出典：2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会 (HEAT20) パンフレットより作成

◎暖房していない部屋の温度が上がり、部屋間の温度差が小さくなります。

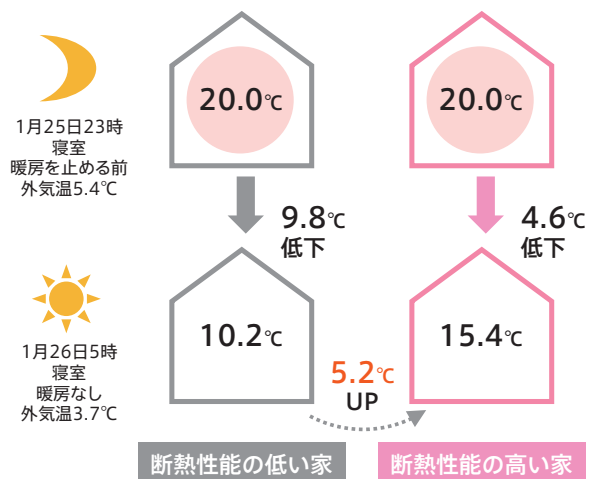
断熱性能の低い家では、暖房しているリビングとトイレの温度差は5℃ですが  
断熱性能の高い家では温度差が0.2℃しかなく家全体が快適な環境になります。



※21時 リビングで20℃の暖房をしている状態

出典：2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会 (HEAT20) パンフレットより作成

◎朝の温度低下が小さくなります。



断熱性能を高めると、寝る前に暖房を止めても暖かい熱は外に逃げにくく室温がそれほど低下しません。

朝5時の寝室の室温は断熱性能の低い家では10.2℃ですが断熱性能の高い家だと15.4℃と5℃以上暖かくなります。

出典：2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会 (HEAT20) パンフレットより作成

## 2. 経済性

◎断熱性能の高い家は暖冷房費を節約できます。

断熱等級4(省エネ基準)の家と断熱等級7(HEAT20 G3クラス[P.60参照])の家で比較すると暖冷房費が約39,000円節約できます。

6地域	断熱等級4	断熱等級5	断熱等級6	断熱等級7
暖冷房費用(円/年) (エアコン)	81,510円	70,830円	61,020円	42,570円
暖冷房費 差額 (円/年)		-10,680円	-20,490円	-38,940円
電気消費量 (kWh/年)	2,717kWh	2,361kWh	2,034kWh	1,419kWh

※6地域、約120㎡のモデル住宅における弊社シミュレーション結果。電気代は30円/kWhで計算。  
実際の住宅で、この数値を保証するものではありません

◎高断熱にするのは後回しにしないで新築でやったほうがお得です。

高断熱住宅にするには初期コストが多少高くなってあともでやり替えるのは大変です。  
最初から断熱住宅にすれば、省エネになるだけではなく、健康・快適メリットを享受できます。

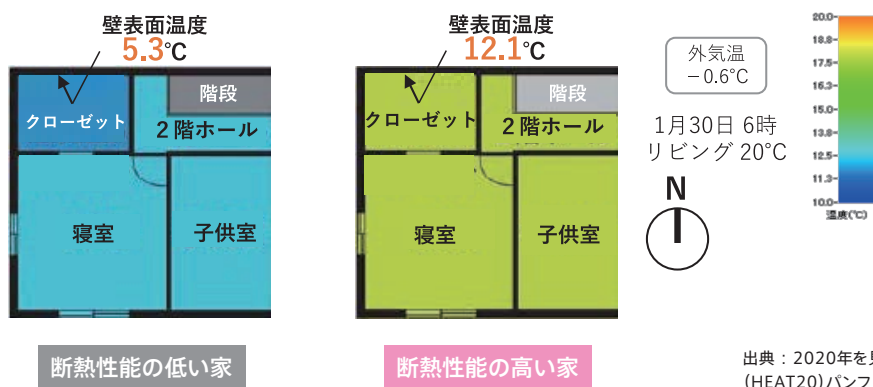


## 3. 健康性

◎断熱性能の高い家のほうが、結露によるカビやダニが発生しにくくなります。

断熱性能の低い家では暖房していないクローゼットなどの北壁の表面温度が5.3度まで低下し結露のリスクが高く結露すると、カビやダニの発生する可能性が高くなります。

参考) 温度20℃湿度50%の空気は表面温度9.3℃以下の壁や窓に触れると結露する可能性が高くなります。



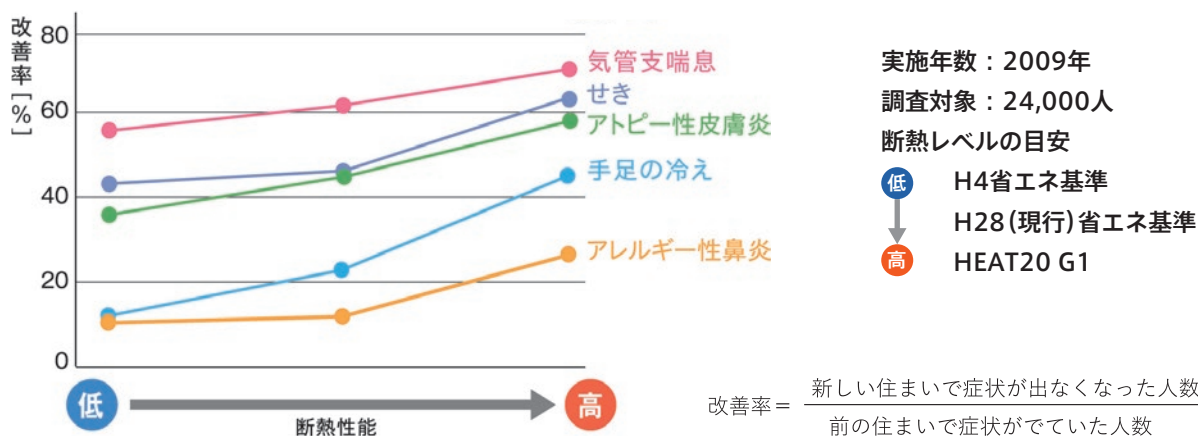
出典：2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会  
(HEAT20)パンフレットより作成



### ◎断熱性能の高い家のほうが体調不良の改善率が高くなります。

断熱性能の高い家のほうが、ぜんそく・のどの痛み・アトピー性皮膚炎などの改善率が高いとの調査結果が報告されています。

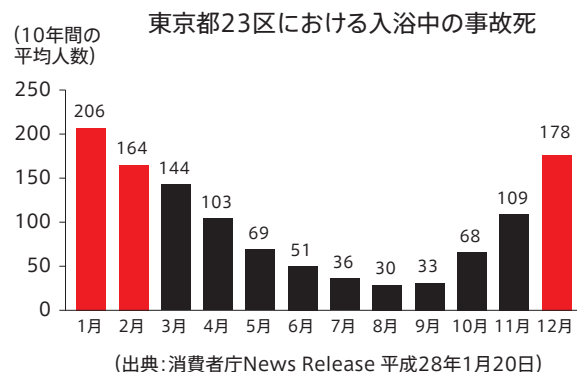
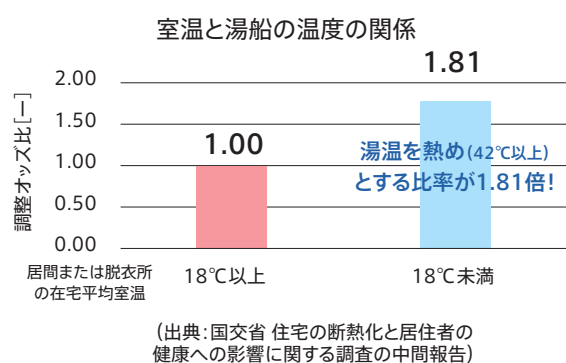
せき・のどの痛み・アトピー性皮膚炎などの症状について、転居前後の変化についてアンケート調査



出典：近畿大学 岩前研究室

### ◎断熱性能の低く寒い家ほど、熱めのお湯に長くつかることになり、入浴事故のリスクが高まります。



家の中や浴室が寒いと、より熱いお湯に長時間入浴しがちです。そうすると、のぼせなどの意識障害が起こり、熱中症になる可能性もあります。また、入浴中の事故死も冬季、高齢者に多いという報告もあります。暖かい家の方が入浴事故のリスクの抑制につながります。暖かい家にして、湯温41℃以下、お湯につかる時間は10分までにしましょう。



### ◎世界保健機関(WHO)が暖かい家にと断熱を勧告しています。

2018年12月にはWHO(世界保健機関)が住宅と健康に関するガイドラインを発行しました。

その中で、室内の温度環境と健康について下記の通り、強く推奨しています。

項目	勧告	勧告の強さ
 室内の寒さと断熱	<b>冬季の最低室温は18℃以上</b> 住宅の室内温度は、居住者の寒さによる健康被害を防ぐのに十分な温度まで高くすべきである。温帯または、より寒い気候の国において、冬期の健康を守るための安全でバランスのとれた室内温度として18℃が提案された。	強い
	<b>住宅の断熱化</b> 寒い季節のある気候帯では、効率的で安全な断熱材を新築住宅に施工し、既存住宅では断熱改修をするべきである。	条件付き
 室内の暑さ	<b>夏季の暑さ対策</b> 高い外気温にさらされる地域において、居住者を過剰な室内の暑さから守る方法を策定し、実施すべきである。	条件付き

# 外皮性能基準別推奨仕様例 <1・2地域>

## 軸組構法

### ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	6.6	アクリアウール 24K-120mm×2層	6.6
天井	5.7	アクリアブローS 13K-300mm	5.7
壁	3.3	アクリアウールα 36K-105mm	3.3
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードピンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			2.3

### ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	6.9	アクリアブローS 32K-270mm	7.1
天井	5.7	アクリアブローS 13K-300mm	5.7
壁	4.0	アクリアウール 16K-105mm + アクリアジオス 32K-45mm	4.1
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードピンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			1.9

### ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアブローS 13K-400mm	0.28
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm	
床	アクリアUボードピンレスα 36K105mm	
玄関土間	R:2.2 (立上)	
浴室土間	R:2.2 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.3	

### ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアブローS 13K-400mm	0.20
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm×2層	
床	アクリアUボードNT 24K80mm + アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	R:3.3 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.3 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 寒冷地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率8.2%、等級7:開口部比率6%)  
 天井:石こうボード9.5mmあり。 壁:石こうボードなし、等級6、7のみ外面材9mmあり。 床:合板24mm、等級7のみ床合板12mm+フローリング12mm

## 枠組壁工法

## ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)
屋根	6.6	アクリアウール 24K-120mm×2層	6.6
天井	5.7	アクリアブローS 13K-300mm	5.7
壁	3.6	アクリアウール 16K-140mm	3.7
床	外気に接する部分	アクリアウール 16K-89mm×2層	4.6
	その他の部分	アクリアウール 16K-140mm 又は アクリアUボード 24K-120mm	3.7/3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			2.3

## ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)
屋根	6.9	アクリアブローS 32K-270mm	7.1
天井	5.7	アクリアブローS 13K-300mm	5.7
壁	4.0	アクリアウールα 20K-140mm	4.1
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードビンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			1.9

## ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(野縁上)アクリアブローS 13K-400mm	0.28
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアジオス 32K45mm	
床	アクリアウールα 20K140mm	
玄関土間	R:2.5 (立上+水平)	
浴室土間	R:2.5 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

## ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(野縁上)アクリアブローS 13K-400mm	0.20
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアウールα 36K105mm	
床	アクリアウールα 20K140mm + アクリアUボードビンレスα 36K105mm	
玄関土間	R:3.6 (立上両面+水平)	
浴室土間	R:3.6 (立上両面+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 寒冷地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率8.2%、等級7:開口部比率6%)  
 天井:石こうボード9.5mm、壁:外面材9mm、床:合板15mmあり。床は等級7のみフローリング12mmあり。

# 外皮性能基準別推奨仕様例 <3地域>

## 軸組構法

### ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	4.6	アクリアウール 16K-105mm×2層	5.6
天井	4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1
壁	2.2	アクリアネクスト 14K-90mm	2.4
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードピンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
	1.2		2.3

### ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	5.7	アクリアウール 24K-105mm×2層	5.8
天井	4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5
壁	2.7	アクリアネクスト 14K-105mm	2.8
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードピンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
	1.2		1.9

### ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアブローS 13K-400mm	0.28
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm	
床	アクリアUボードピンレスα 36K105mm	
玄関土間	R:2.2 (立上)	
浴室土間	R:2.2 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.3	

### ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアブローS 13K-400mm	0.20
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm×2層	
床	アクリアUボードNT 24K80mm + アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	R:3.3 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.3 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 寒冷地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率8.2%、等級7:開口部比率6%)  
 天井:石こうボード9.5mmあり。 壁:石こうボードなし、等級6、7のみ外面材9mmあり。 床:合板24mm、等級7のみ床合板12mm+フローリング12mm



## 枠組壁工法

## ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	4.6	アクリアウール 16K-89mm×2層	4.6
天井	4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1
壁	2.3	アクリアネクスト 14K-89mm	2.3
床	外気に接する部分	アクリアウール 16K-89mm×2層	4.6
	その他の部分	アクリアウール 16K-140mm 又は アクリアUボード 24K-120mm	3.7/3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			2.3

## ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	5.7	アクリアウール 16K-89mm + アクリアウール 16K-140mm	6.0
天井	4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5
壁	2.7	アクリアウールα 28K-89mm	2.7
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm + アクリアUボードNT 24K-80mm	5.6
	その他の部分	アクリアUボードピンレスα 36K-105mm	3.3
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			1.9

## ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(野縁上)アクリアブローS 13K-400mm	0.28
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアジオス 32K45mm	
床	アクリアウールα 20K140mm	
玄関土間	R:2.5 (立上+水平)	
浴室土間	R:2.5 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

## ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(野縁上)アクリアブローS 13K-400mm	0.20
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアウールα 36K105mm	
床	アクリアウールα 20K140mm + アクリアUボードピンレス α36K105mm	
玄関土間	R:3.6 (立上両面+水平)	
浴室土間	R:3.6 (立上両面+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 寒冷地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率8.2%、等級7:開口部比率6%)  
 天井:石こうボード9.5mm、壁:外面材9mm、床:合板15mmあり。床は等級7のみフローリング12mmあり。

# 外皮性能基準別推奨仕様例 <4地域>

## 軸組構法

### ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	4.6	アクリアウール 16K-105mm×2層	5.6
天井	4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1
壁	2.2	アクリアネクスト 14K-90mm	2.4
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			3.5

### ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	5.7	アクリアウール 24K-105mm×2層	5.8
天井	4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5
壁	2.7	アクリアネクスト 14K-105mm	2.8
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			2.3

### ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアR57 20K200mm	0.34
壁	【充填】アクリアウールα 20K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm	
床	アクリアUボードピンレスα 36K105mm	
玄関土間	R:2.5 (立上)	
浴室土間	R:2.5 (立上)	
開口部(窓)	U:1.3	
開口部(ドア)	U:1.3	

### ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアα R71-20K250mm	0.23
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm×2層	
床	アクリアUボードNT 24K42mm + アクリアUボードピンレスS 20K90mm	
玄関土間	R:3.3 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.3 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 温暖地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率10.4%、等級7:開口部比率8.2%)  
 天井:石こうボード9.5mmあり。壁:石こうボードなし、等級6・7のみ外面材9mmあり。床:合板24mm。等級7のみ床合板12mm。

## 枠組壁工法

## ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)
屋根	4.6	アクリアウール 16K-89mm×2層	4.6
天井	4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1
壁	2.3	アクリアネクスト 14K-89mm	2.3
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			3.5

## ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)
屋根	5.7	アクリアウール 16K-89mm + アクリアウール 16K-140mm	6.0
天井	4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5
壁	2.7	アクリアウールα 28K-89mm	2.7
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
			2.3

## ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(桁間)アクリアウール 16K89mm + アクリアR57 20K200mm(敷込)	0.34
壁	【充填】アクリアウール 16K140mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm	
床	アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	R:2.5 (立上)	
浴室土間	R:2.5 (立上)	
開口部(窓)	U:1.3	
開口部(ドア)	U:1.3	

## ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(桁間)アクリアウールα 20K140mm + アクリアウールα 20K140mm(敷込)	0.23
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm×2層	
床	アクリアUボードNT 24K42mm + アクリアUボードピンレスS 20K90mm	
玄関土間	R:3.6 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.6 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 温暖地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率10.4%、等級7:開口部比率8.2%)  
天井:石こうボード9.5mm、壁:外面材9mm、床:合板15mmあり。

# 外皮性能基準別推奨仕様例 <5-7地域>

## 軸組構法

### ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	4.6	アクリアウール 16K-105mm×2層	5.6
天井	4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1
壁	2.2	アクリアネクスト 14K-90mm	2.4
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
	0.5		4.7

### ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準	必要な熱抵抗値(R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値(R値)
屋根	5.7	アクリアウール 24K-105mm×2層	5.8
天井	4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5
壁	2.7	アクリアネクスト 14K-105mm	2.8
床	外気に接する部分	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4
	その他の部分	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	開口部	必要な熱貫流率(U値)
	その他の部分		
	0.7		2.3

### ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアα R71-20K250mm	0.46
壁	アクリアウールα 36K105mm	
床	アクリアUボードピンレスα 36K105mm	
玄関土間	R:1.7 (立上)	
浴室土間	R:1.7 (立上)	
開口部(窓)	U:1.6	
開口部(ドア)	U:1.6	

### ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	アクリアα R71-20K250mm	0.26
壁	【充填】アクリアウールα 36K105mm + 【付加】アクリアウールα 20K105mm	
床	アクリアUボードNT24K42mm + アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	R:3.3 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.3 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.0	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 温暖地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率10.4%、等級7:開口部比率8.2%)  
 天井:石こうボード9.5mmあり。壁:石こうボードなし、等級7のみ外面材9mmあり。  
 床:合板24mm、等級6は合板24mm+フローリング12mm。等級7は床合板12mm+フローリング12mm。



## 枠組壁工法

## ■省エネ基準(断熱等性能等級4相当) 仕様基準

仕様基準		必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)	
屋 根		4.6	アクリアウール 16K-89mm×2層	4.6	
天 井		4.0	アクリアマット 14K-155mm	4.1	
壁		2.3	アクリアネクスト 14K-89mm	2.3	
床	外気に接する部分	3.1	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4	
	その他の部分	2.0	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5	
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	1.7	開口部	必要な熱貫流率 (U値)	4.7
	その他の部分	0.5			

## ■誘導基準・ZEH水準(断熱等性能等級5相当) 仕様基準

仕様基準		必要な熱抵抗値 (R値)	対応商品	断熱材熱抵抗値 (R値)	
屋 根		5.7	アクリアウール 16K-89mm + アクリアウール 16K-140mm	6.0	
天 井		4.4	アクリアR45 14K-170mm	4.5	
壁		2.7	アクリアウールα 28K-89mm	2.7	
床	外気に接する部分	3.4	アクリアUボードNTα 20K-120mm	3.4	
	その他の部分	2.2	アクリアUボードピンレスS 20K-90mm	2.5	
土間床基礎 立上り	外気に接する部分	1.7	開口部	必要な熱貫流率 (U値)	2.3
	その他の部分	0.7			

## ■断熱等性能等級6

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(桁間)アクリアウール 16K140mm + アクリアウール 16K140mm(敷込)	0.46
壁	アクリアウールα 20K140mm	
床	アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	—	
浴室土間	R:1.7 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.6	
開口部(ドア)	U:1.6	

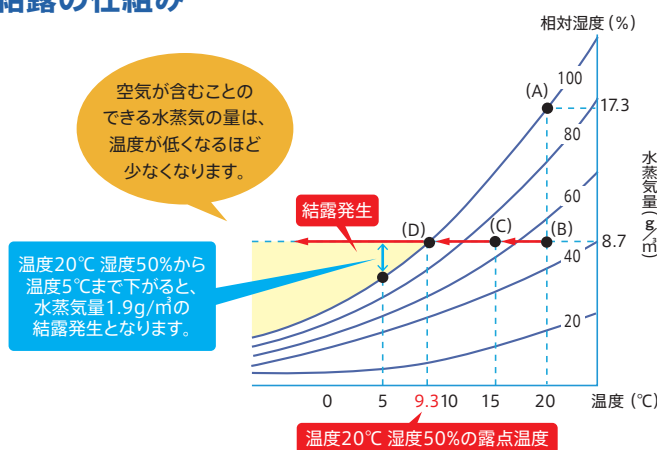
## ■断熱等性能等級7

断熱部位	対象商品	U <sub>A</sub> 基準値
天井	(桁間)アクリアウールα 20K140mm + アクリアウールα 20K140mm(敷込)	0.26
壁	【充填】アクリアウールα 20K140mm + 【付加】アクリアウールα 36K105mm	
床	アクリアUボードピンレスS 20K90mm + アクリアUボードピンレス S20K90mm	
玄関土間	R:3.3 (立上+水平)	
浴室土間	R:3.3 (立上+水平)	
開口部(窓)	U:1.0	
開口部(ドア)	U:1.3	

【計算条件】自立循環型住宅への設計ガイドライン 温暖地モデル住宅での例 (木造2階建て 延床面積:120.07㎡、等級6:開口部比率10.4%、等級7:開口部比率8.2%)  
 天井:石こうボード9.5mm、壁:外面材9mm、床:合板15mmあり。床は等級7のみフローリング12mmあり。

# 結露の基礎

## 結露の仕組み



空気を含むことができる最大の水蒸気量は、温度によって異なります。例えば、20℃の空気を含める最大水蒸気量は17.3g/m³で(A)、この状態が相対湿度100%の状態です。室温20℃相対湿度50%とすると、1m³の空気中には17.3g×0.5=8.7gの水蒸気が含まれていることになります(B)。この空気が冷やされると、相対湿度は上がっていき、15℃で67%(C)、9℃で100%(D)になり、これ以上水蒸気を含めない状態になります。この温度を露点温度と呼び露点温度より温度が下がると水蒸気は水滴などの目に見える液体の水となって現れます。これが結露です。

## 表面結露と内部結露

### ■表面結露とは

〈ガラスや壁の表面で発生〉

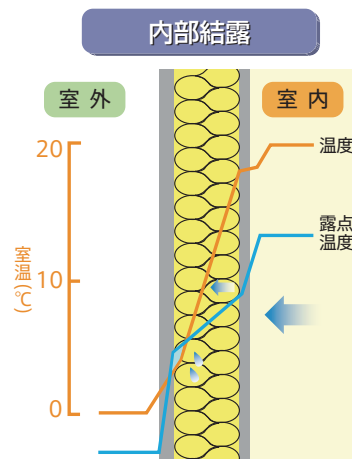
窓ガラス面や、暖房していない部屋の壁など、他より冷たい箇所に暖かく湿った空気が移動し表面に水滴となって現れる結露のことです。



### ■内部結露とは

〈壁や天井などの躯体の中で発生〉

壁の中など、躯体内部で発生する結露のことです。壁の中に断熱材を充填した壁では室内の壁の表面温度は露点温度以上に保たれ、表面結露が発生することはありません。しかし、室内側に防湿層が無い場合には、水蒸気が壁の中に浸入し、温度が下がって断熱材の中で結露が発生する危険性があります。これが内部結露です。



### ■夏型結露とは

夏や梅雨時期の高温多湿な空気が、躯体内の低い温度の部分に触れることで発生する結露のことです。屋根や壁の外装材や木材に含まれる水分が日射により蒸発し、冷房によって冷やされた部分に触れることで発生します。床下や地下室など熱容量の差による表面温度差によっておこる場合もあります。

## 露点温度表

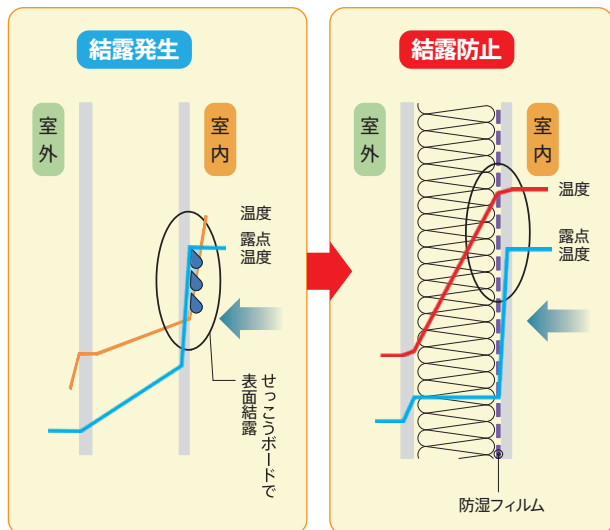
出典：保温JIS解説(2014年版)

		相対湿度 (%)									
		50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
温度 (℃)	10	0.1	1.4	2.7	3.8	4.8	5.8	6.8	7.6	8.5	9.3
	11	1.0	2.4	3.6	4.7	5.8	6.8	7.7	8.6	9.5	10.3
	12	2.0	3.3	4.5	5.7	6.8	7.8	8.7	9.6	10.5	11.3
	13	2.9	4.2	5.5	6.6	7.7	8.7	9.7	10.6	11.4	12.3
	14	3.8	5.2	6.4	7.6	8.7	9.7	10.7	11.6	12.4	13.3
	15	4.7	6.1	7.4	8.5	9.6	10.7	11.6	12.6	13.4	14.3
	16	5.6	7.0	8.3	9.5	10.6	11.6	12.6	13.5	14.4	15.2
	17	6.6	8.0	9.2	10.4	11.5	12.6	13.6	14.5	15.4	16.2
	18	7.5	8.9	10.2	11.4	12.5	13.6	14.6	15.5	16.4	17.2
	19	8.4	9.8	11.1	12.3	13.5	14.5	15.5	16.5	17.4	18.2
	20	9.3	10.7	12.1	13.3	14.4	15.5	16.5	17.5	18.4	19.2
	21	10.2	11.7	13.0	14.2	15.4	16.5	17.5	18.4	19.3	20.2
	22	11.2	12.6	13.9	15.2	16.3	17.4	18.4	19.4	20.3	21.2
	23	12.1	13.5	14.9	16.1	17.3	18.4	19.4	20.4	21.3	22.2
	24	13.0	14.5	15.8	17.1	18.2	19.3	20.4	21.4	22.3	23.2
	25	13.9	15.4	16.8	18.0	19.2	20.3	21.4	22.4	23.3	24.2

## 結露を防止する方法

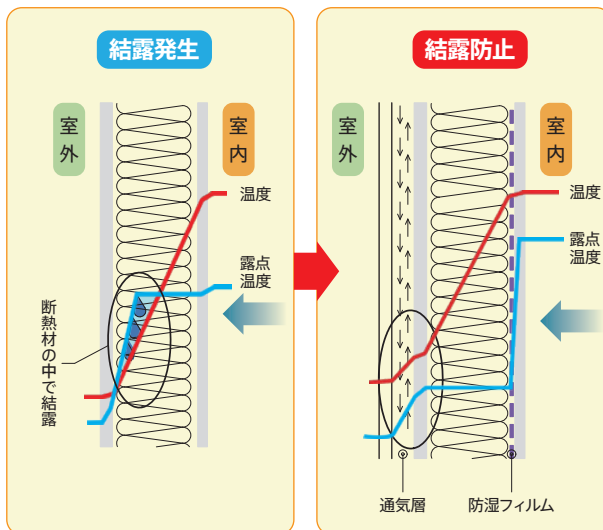
### ■表面結露を防止する方法

躯体内に断熱材を施工することで、室内側の表面温度が上がり、表面結露を防げます。



### ■内部結露を防止する方法

内部結露対策のポイントは、「防湿」と「湿気の排出」です。「防湿」は、断熱材の室内側に防湿フィルムを施工する事、「湿気の排出」のためには、断熱材の外側に通気層を設ける事で内部結露を防げます。通気層は水蒸気を排出するだけでなく、夏の日差しによる外壁材の加熱を和らげる効果もあり、住宅の寿命を延ばす役割もあります。



### ■夏型結露を防止する方法

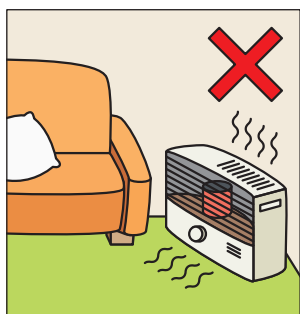
初期含水率の低い材料を使用します。  
通気層を設置し、表面温度の上昇を抑えたり初期含水分を乾燥させます。

## 結露のリスクを低減させる住まい方

窓や躯体の断熱性をあげることに以外に、下記の通り室内の水蒸気量を低減させます。



① 高湿時にはこまめに換気する  
(調理時・入浴時)



② 開放型ストーブは大量の水分  
を発生させるので使用しない



③ 洗濯物の室内干し、加湿器、  
観葉植物、水槽など水分蒸発  
するものを控える



④ 夜間、雨戸やシャッターなどを  
閉める

## 結露計算

結露が発生するのは、その場所の温度が露点温度より低いときです。結露が発生するかどうかをチェックするには、壁の温度分布と露点温度分布を計算すれば確認できます。

結露計算する場合は、長期優良住宅認定等に係る技術的審査マニュアル（2015住宅編）：発行 住宅性能評価・表示協会をご活用ください。

### ■結露計算における注意点

結露計算時に使用する、室内温湿度条件、地域ごとの外気条件は一般的な条件であり、室内側の湿度発生状況や、外気側の条件変化を考慮したものではないことに留意する必要があります。

計算結果で結露無しの判定がでて、住まい方や外気変動により表面結露や内部結露が生じることが考えられます。計算結果を見て、防湿層を施工しない、通気層を設けない等の判断は慎重に行ってください。

### ■用語

#### 相対湿度 絶対湿度

空気中の水蒸気の量を表す数値。湿度には、相対湿度と絶対湿度の2つがあり、一般的に湿度という場合には相対湿度をさしています。相対湿度は、実際に含まれている水蒸気量を飽和水蒸気量との比で表したもので%で表示されます。飽和水蒸気量は、温度が上がると増すため、湿度50%といっても、0℃と20℃のときでは、実際に含まれている水蒸気の量は20℃のときの方が多くなります。絶対湿度は、実際に含まれている水蒸気量のこと、水蒸気分圧 (mmHg) や乾燥空気 (水蒸気を除いた空気) 1kgと共存する水蒸気重量 (kg/kg・dryair) で表します。

#### 透湿率 $\text{ng}/(\text{m} \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})$

材料の透湿性を表す数値です。材料の単位厚さ、単位時間材料両面の水蒸気圧力差あたりの水蒸気通過量で表します。

#### 透湿係数 $\text{ng}/(\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})$

材料の透湿性を表す数値です。材料の単位面積、単位時間材料両面の水蒸気圧力差あたりの水蒸気通過量で表します。

#### 透湿抵抗 $(\text{m}^2 \cdot \text{s} \cdot \text{Pa})/\text{ng}$

透湿係数の逆数。水蒸気の透過しにくさを表す値です。透湿抵抗が大きな素材は水蒸気を通しにくく、小さな素材は水蒸気を通しやすい性質を持ちます。

#### 露点温度

一般に温度の高い空気は温度の低い空気より多くの水蒸気を含んでおり、そのため一定の水蒸気量を含む空気を等圧のもとで冷却していくと、ある温度で飽和状態になります。さらに冷却していくと水蒸気の一部が凝縮して露が生じるが、この水蒸気が凝縮する温度を露点温度といいます。

#### 防湿層

湿気を吸収したり、透過するのを防ぐために、壁や床、天井に設けた不透湿性の層のことをいいます。材料は、アスファルトルーフィング、アルミ箔等の金属板、アルミクラフト紙、アスファルトコートクラフト紙、ポリエチレンシート等が一般的です。通常、断熱材を使用するときは、断熱材の高温側に防湿層を施工します。

#### 防風層

木造一戸建ての通気層工法の外壁などで、通気層に面した断熱材の内部に雨水や外気が侵入しないように設ける層のことをいいます。通気性がなくて、防水性が高いと同時に、断熱材に含まれた湿度を排出できるように一定の透湿性を持つことが求められる。透湿性がないと断熱材に内部結露するおそれがあります。通常は、透湿防水シート、シーキングボード（軟質繊維板）等が使用されます。

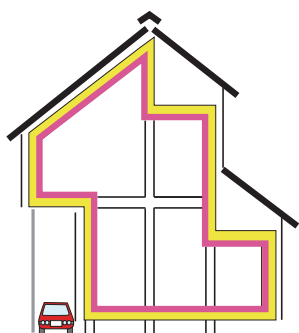


# 各種材料の透湿性能

材料名	透湿率 ng/(m・s・Pa)	透湿比抵抗 (m・s・Pa)/ng	厚さ mm	透湿抵抗 (m <sup>2</sup> ・s・Pa)/ng	備考
グラスウール・ロックウール	170	0.00588	100	0.000588	
セルローズファイバー	155	0.00645	100	0.000645	
ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 1号	3.6	0.28	25	0.0069	JISA9521:2017
ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 2号	5.1	0.20	25	0.00488	JISA9521:2017
ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 3号	6.3	0.16	25	0.00400	JISA9521:2017
ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材 4号	7.3	0.14	25	0.00345	JISA9521:2017
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 1種b、2種b、3種a、3種b(スキンなし)	3.6	0.28	25	0.0069	JISA9521:2017
押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種a、3種b(スキンあり)	1.4	0.73	25	0.018	JISA9521:2017
硬質ウレタンフォーム断熱材 1種	4.6	0.22	25	0.00541	JISA9521:2017
硬質ウレタンフォーム断熱材 2種1号、 2種2号、2種3号、2種4号	1.0	1.0	25	0.025	JISA9521:2017
ポリエチレンフォーム断熱材 1種1号	0.75	1.3	25	0.033	JISA9521:2017
ポリエチレンフォーム断熱材 1種2号	1.4	0.73	25	0.018	JISA9521:2017
ポリエチレンフォーム断熱材 2種	0.75	1.3	25	0.033	JISA9521:2017
ポリエチレンフォーム断熱材 3種	3.8	0.27	25	0.00667	JISA9521:2017
フェノールフォーム断熱材 1種1号、1種2号	1.5	0.67	25	0.0167	JISA9521:2017
フェノールフォーム断熱材 2種1号、 2種2号、2種3号、3種1号	3.6	0.28	25	0.0069	JISA9521:2017
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 A種1	9.0	0.11	25	0.0028	JISA9526:2015
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 A種2、B種	4.5	0.22	25	0.0056	JISA9526:2015
吹付け硬質ウレタンフォーム断熱材 A種3	31.7	0.0315	25	0.00079	
土壁	20.7	0.0483	100	0.00483	
ケイ酸カルシウム板	52.1	0.0192	24.7	0.000474	
コンクリート	2.98	0.336	100	0.0336	
ALC	37.9	0.0264	100	0.00264	表面処理なし
合板	1.11	0.901	12	0.011	
せっこうボード	39.7	0.0252	12	0.00030	
OSB	0.594	1.68	12	0.020	
MDF	3.96	0.253	12	0.0030	
軟質繊維板	18.8	0.0532	12	0.00064	
木材	4.00	0.250	20	0.0050	
モルタル2210kg/m <sup>3</sup>	1.62	0.617	25	0.015	
しっくい	52.1	0.0192	12	0.00023	
コンクリートブロック	7.7	0.13	200	0.026	
窯業系サイディング	2.1	0.48	12	0.0058	塗装なし
住宅用プラスチック系防湿フィルムA種	—	—	—	0.082	JISA6930:1997
住宅用プラスチック系防湿フィルムB種	—	—	—	0.144	JISA6930:1997
透湿防水シート	—	—	—	0.00019	JISA6111:2004 透湿防水シートA
アスファルトフェルト 20kg	—	—	—	0.002	20kg/巻
アスファルトルーフィング22kg	—	—	—	0.144	22kg/巻
通気層+外装材(カテゴリーI)	—	—	—	0.00086	外壁:通気層厚さ18mm以上
通気層+外装材(カテゴリーII)	—	—	—	0.0017	外壁:通気層厚さ18mm以上(通気経路上に 障害物がある場合)通気層厚さ9mm以上 屋根:通気層厚さ18mm以上
通気層+外装材(カテゴリーIII)	—	—	—	0.0026	外壁:通気層厚さ9mm以上(通気経路上に障害物 がある場合) 屋根:通気層厚さ9mm以上 外気に 接する床:軒天井内部が通気層同等と判断できる場合
難燃木毛セメント板	80	0.01	24	0.0003	
断熱木毛セメント板	39	0.026	24.2	0.00062	
GRC板	—	—	—	0.035	
ロックウール系天井材	5.9	0.17	12.5	0.0021	ロックウール吸音板
せっこう系天井材	7.8	0.13	9	0.0012	化粧せっこう

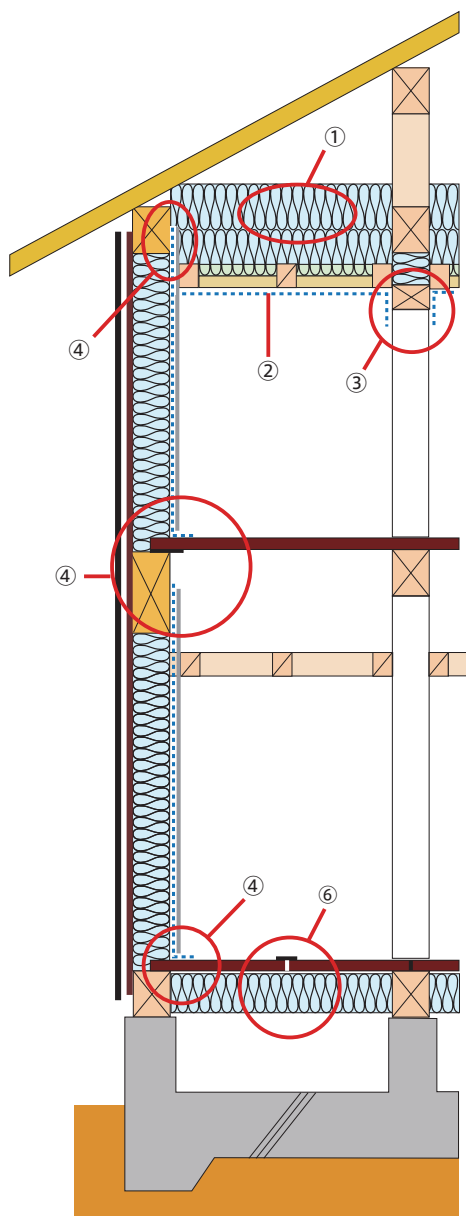
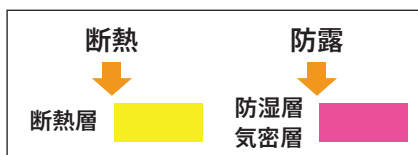
※「住宅の省エネルギー基準の解説」(財)建築環境・省エネルギー機構より

## 防湿フィルム付グラスウール充填断熱施工について



### 【施工法の基本的な考え方】

断熱及び防露性能を確保するために、断熱・防湿・気密層のラインは途切れる事なく、連続性を保てるように施工する事が基本です。



### 天井 (防湿・気密層: 別張り防湿シート)

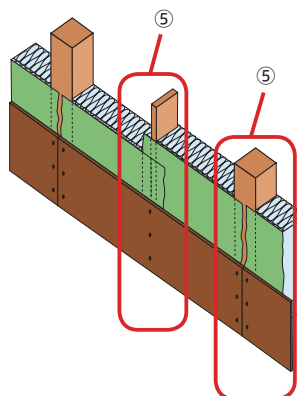
- ① 野縁の上に断熱材を敷き詰める。
- ② 室内側 (野縁下) には防湿シートを施工する。
- ③ 間仕切壁には気流止め (乾燥木材など) を施工し、防湿シートは気流止めを介して連続させる。

### 壁 (防湿・気密層: アクリアネクスト付属防湿フィルム)

- ④ 断熱材は桁・梁から床まで隙間なく充填する。
- ⑤ 防湿フィルム同士は下地のある部分で30mm以上重ね合わせ、ボード等で挟みつける。

### 壁 (別張り防湿シート)

- ④ 断熱材は桁・梁から床まで隙間なく充填する。
- ⑤ 防湿シートは、下地のある部分で100mm以上重ね合わせ、ボード等で挟みつける。



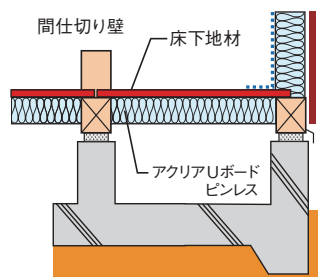
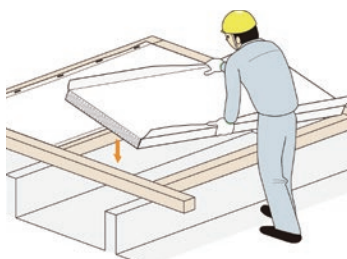
### 床 (防湿層: 省略可、気密層: 床下地材等)

- ⑥ 床に防湿シートを設けない仕様とする場合は、床下地板に構造用合板等の透湿抵抗の高い乾燥した面材 (以下「床下地材等」という) を用い、床下地材等の継目に下地がない場合には気密補助材で処理するか実付き合板などを使用する。

## 床施工のポイント

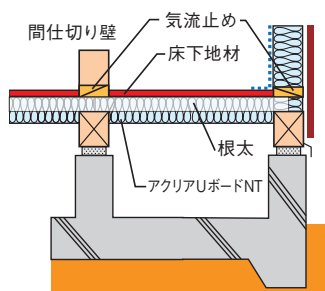
### (1) 剛床の場合(床面の気流止めの施工が不要です)

- ・土台、大引間にアクリアUボードピンレスを充填します。
- ・剛床の場合床下地材で床下からの気流が止められます。

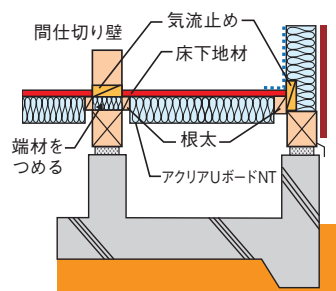


### (2) 根太床の場合

- ・根太間にアクリアUボードNTを施工します。
- ・床下から壁内への気流を止めるために、気流止めを施工します。



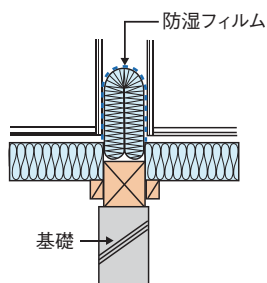
根太床(根太が土台・大引と直交している場合)



根太床(根太が土台・大引と平行している場合)



- ・4地域以南の気流止めは防湿フィルム付きグラスウールの仕様でも可能です。  
(筋交いがある部分には適用できません。木材にて気流止めを行ってください。)



## 壁施工のポイント

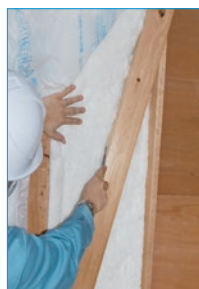
- ・筋交い部分はグラスウールを隙間無く充填し、筋交い表面に防湿フィルムを施工します。



防湿フィルムを剥がします。



グラスウールを筋交いの後ろに充填します。



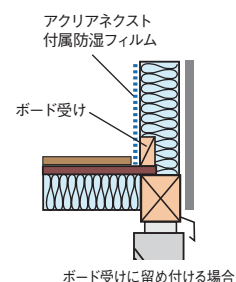
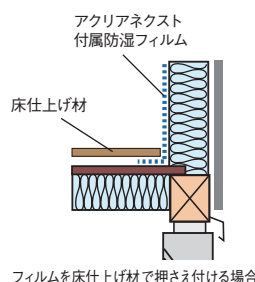
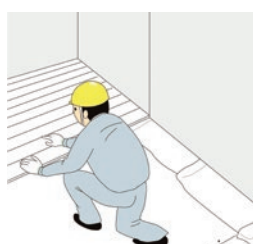
筋交いに沿ってグラスウールに切り込みを入れ、グラスウールを筋交いと同面に盛り上げます。



防湿フィルムを戻しタッカー針で留めます。

### アクリアネクストのフィルムが防湿層になります。

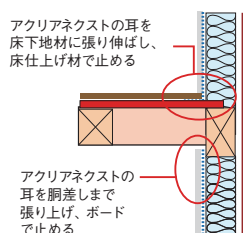
- ・フィルムの下部は床下地材に留め付け、床仕上げ材で押さえて床の気密層につなげます。



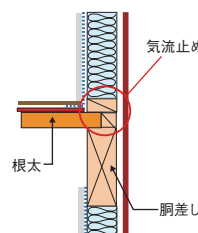
- ・壁のボードで柱・間柱、桁・梁の防湿フィルムを押さえ付けます。



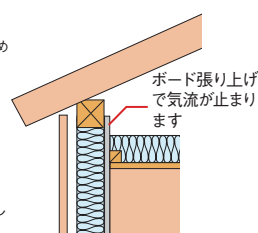
- ・ボードを張り上げる事で胴差を介して2階に断熱、防湿層を連続させます。
- ・2階が根太床の場合は気流が壁内に入らないように気流止めを施工します。
- ・最上部はボードを桁まで張り上げる事で気流止めが不要になります。



2階が剛床の場合  
気流止めは不要



2階が根太床の場合  
気流止めは必要





## 壁施工のポイント

- ・天井野縁は壁のボード張り上げ後に施工します。
- ・野縁を先に施工する場合は断熱材充填後に野縁を施工し、野縁上部もボード等でフィルムを押さえ付けます。



- ・コンセントボックスを取付ける場合は気密コンセントボックスカバーを取付けることを推奨します。



気密コンセントボックスカバーを取り付け、コンセントボックスを取り付け配線を通します。



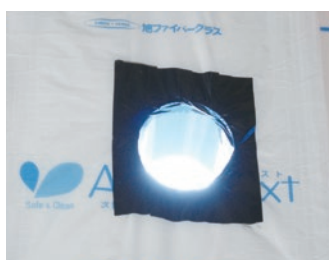
気密コンセントボックスカバー部分の防湿フィルムをカット、グラスウールに切り込みを入れボックスの後ろに充填します。

切り込みを入れる事でコンセントボックスまわりに隙間なくグラスウールを施工できます。



カバー耳と防湿フィルムをテープで処理し防湿層をつなぎます。

- ・断熱層を貫通する部分はテープ等の気密補助材を使用して隙間を塞ぎます。



- ・アクリアネクストの巾、長さを詰める場合は、防湿フィルムを断熱材より長くし耳を確保します。

○長さを詰める場合



①施工部分の内法+100mm程度でカット。



②フィルムをめくって、内法+30～50mm程度でカット。



③フィルム耳を確保。

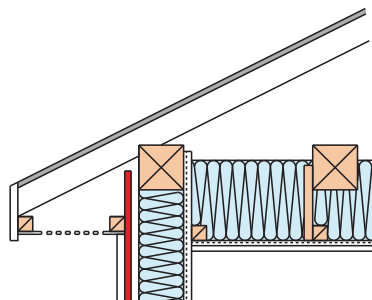
※小口部分や孔あきフィルム部分からグラスウールが見えていても問題ありません。

## 天井施工のポイント

小屋裏の外気が壁内に入らないように気流止めを施工します。  
別張り防湿シートが防湿・気密層になります。

### (1) 天井部の断熱施工

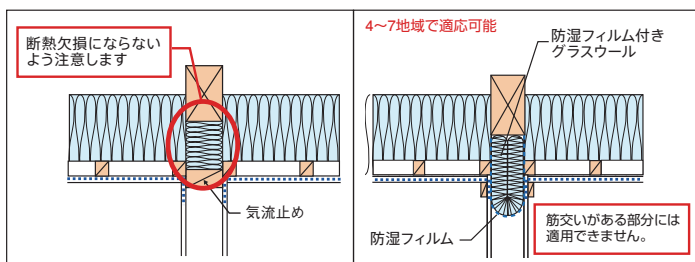
- ・壁のボードを桁まで張り上げ、野縁を組みます。
- ・野縁の上に断熱材を隙間無く敷き詰めます。
- ・室内側に防湿シートを施工します。
- ・天井の断熱材を2層にする際には上の断熱材と下の断熱材が直交するように施工をします。防湿フィルム付の断熱材を使用する場合は、上側の断熱材の防湿フィルムを剥がすか、穴を開けて湿気が通るようにします。



※小口部分や孔あきフィルム部分からグラスウールが見えていても問題ありません。

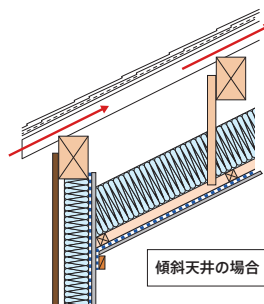
### (2) 間仕切壁との取り合い

- ・小屋裏から間仕切壁に外気が入らないように気流止めを施工します。
- ・気流止め上部が断熱欠損にならないように注意します。(壁用又は天井用の断熱材をあらかじめ充填しておきます。)



### (3) 傾斜天井

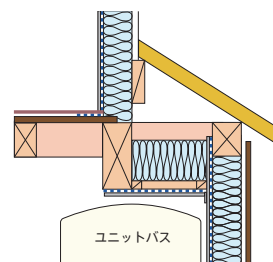
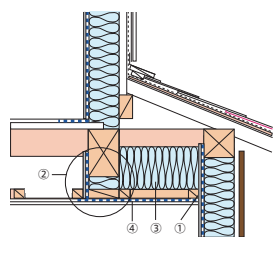
- ・吹抜やロフトなど上部空間を利用する場合は、屋根断熱か傾斜天井で断熱施工します。
- ・断熱材の室外側に通気層を確保します。



### (4) 下屋

- ・下屋は2階壁から1階天井まで下がり壁をつくり、断熱・防湿層を連続させます。
- ・下屋下に浴室がある場合も野縁を組んで天井をつくり断熱・防湿層をつなげます。

- ① 先行して下階の外壁の断熱・ボードを桁まで張り上げます。
- ② 下がり壁と野縁を造作し、下がり壁に室内側から断熱材を充填、ボード等でフィルムを押さえます。  
※下がり壁と天井部分の断熱材の入れ忘れに注意。
- ③ 野縁の上に断熱材を隙間無く敷き込みます。
- ④ 野縁下に防湿シートを施工し、下がり壁の防湿層とつなげます。



## GWS工法とは

硝子繊維協会が推奨する工法で、  
断熱気密施工が難しい筋交いや気流止め材の施工を減らし  
高断熱・高気密・耐震・耐火性能の向上を簡単に実現できる、  
グラスウールによる新しい標準工法です。  
詳細は硝子繊維協会発行のパンフレットをご確認ください。



## GWS工法の特長「4つのS」

### Simple

構造用合板やせっこうボード等を利用して筋交いを減らしたり、気流止め材の施工を省略できる簡易施工

### Smart

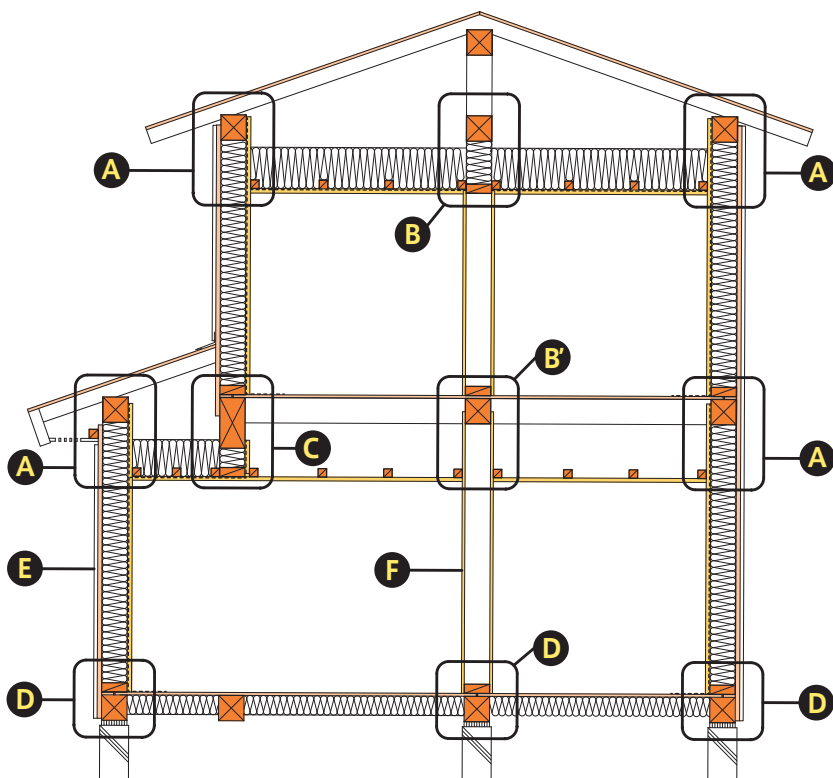
面倒な施工をすることなく  
気密性・断熱性の確保が可能

### Strong

合板やせっこうボード等を利用して壁耐力を向上、  
地震に強い家を実現

### Shield

せっこうボードを張り上げることで耐火性が向上、  
省令準耐火にも対応可能



<b>せっこうボード</b>  張り上げ施工で <b>気流止め</b>  <b>A C</b>	<b>外部からの延焼防止</b>  外壁及び軒裏は <b>防火構造</b>  屋根は <b>不燃材料</b>
<b>構造用合板等</b>  外壁に貼り付けて <b>壁倍率向上</b> <b>気密性向上</b> <b>通気層確保</b>  <b>E</b>	<b>各室防火</b>  天井・外壁・ 間仕切り壁に <b>せっこうボード</b>  <b>C F</b>
<b>床</b>  剛床構造で <b>施工性向上</b> <b>気流止め</b>  <b>D</b>	<b>他室への延焼遅延</b>  必要箇所に <b>ファイヤーストップ材</b>  <b>A B B'</b>

## ●筋交いを減らす

筋交いをできるだけ少なくするために壁倍率の大きい面材を用い、筋交い部への断熱施工を少なくすることで、簡単で確実な断熱・防湿・気密施工につながります。

右記の製品は吉野石膏(株)の製品と仕様です。

仕様例	一般部分		入隅(建物出隅)部分
屋外側壁倍率	EXボード 2.3倍※		EXボード 2.3倍※
室内側壁倍率	タイガーボード 0.9倍～	ハイパーハードT 2.4倍～	ハイパーハードT 2.3倍(ビス41mm)
合計	3.2倍～	4.7倍～	4.6倍

●いずれも木造軸組構法の場合  
●壁量計算の場合、壁倍率の上限は5倍  
●留め金具:GNF40又は28mm以上の木ネジ等 留め付け間隔(外周部):150mm以下  
※標準仕様の場合、床勝ち2.2倍

## 軽量外断熱システム「FEISタイガーモエン」

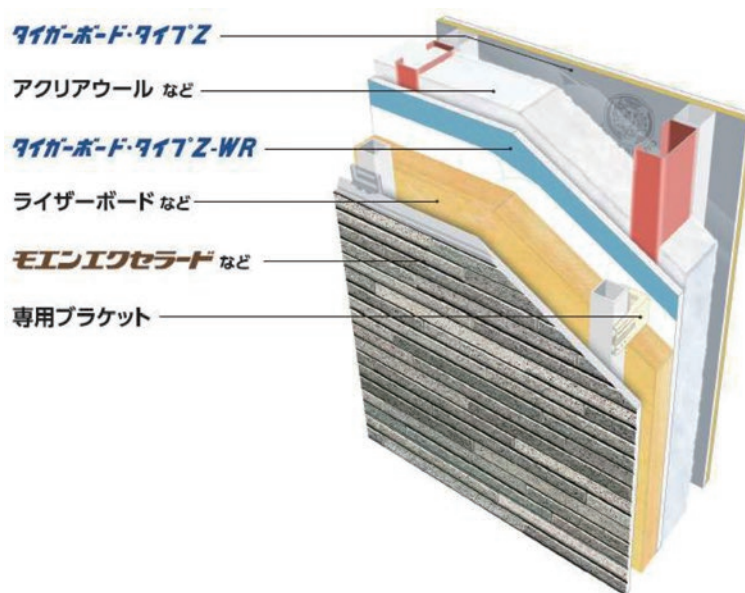
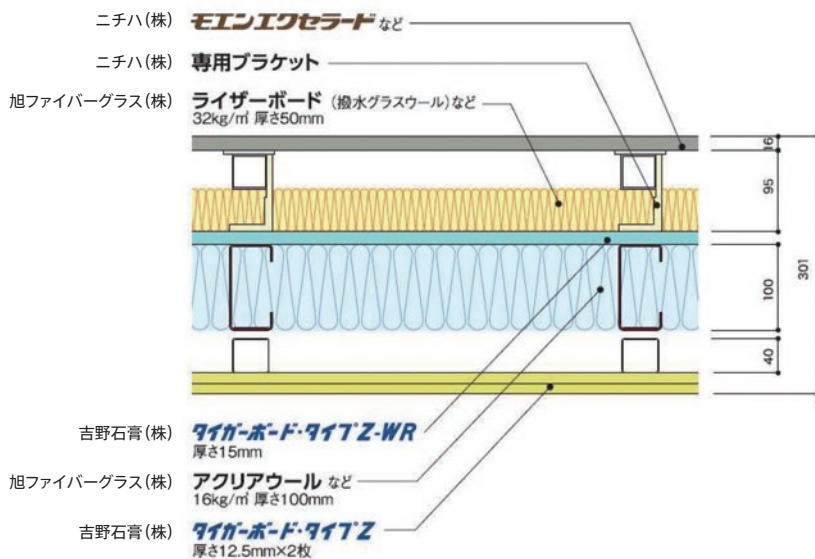
「FEISタイガーモエン」は吉野石膏株式会社、ニチハ株式会社、旭ファイバーグラス株式会社が共同開発した、軽量外断熱工法です。

### ■主な特徴

- ① **軽量化**：外壁下地をコンクリートから鉄骨造にすることで80%削減
- ② **高断熱**：鉄骨内部にアクリアウール16K100mm、外側にライザーボード32K-50mmを施工することで従来の内断熱工法の約1/3の熱貫流率となります。

### ■認定番号

耐火性能：外壁（非耐力）1時間耐火  
耐火構造認定番号：FP060NE-0255(2)



※ 施工方法の詳細に関しましては、吉野石膏株式会社、ニチハ株式会社にご確認ください。



# 断熱リフォーム

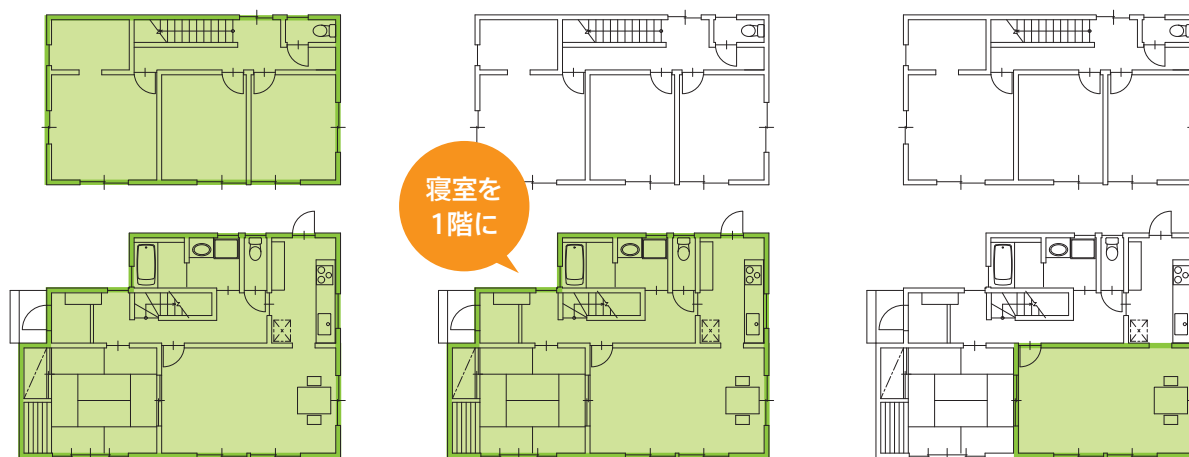
日本の住宅ストックは断熱・気密性が低く、寒いだけではなく、家の中の寒さや温度差が健康に悪影響を与えているという研究や報告がされています。(P63～65参照)

建てた後でも断熱リフォームによって、温熱環境を改善しこのようなリスクを低減することが可能です。

断熱リフォームは家全体を改修することが望ましいですが、新築時の断熱工事より多額の費用がかかりますので、目的に合わせて必要な部分に絞って「部分断熱」リフォームを考えてはいかがでしょうか。

例えば、子供たちが独立し夫婦二人で老後を過ごすために1階に寝室を移し水回りも含めて1階全体を断熱区画化する方法などもお勧めです。

ある部分の部屋や窓などの限定的な部位などを断熱強化する方法は、得られる効果も限定的でヒートショック防止の観点からお勧めしません。



## 全体断熱

建物全体を高断熱化するので理想的な断熱改修方法です。

## ゾーン断熱

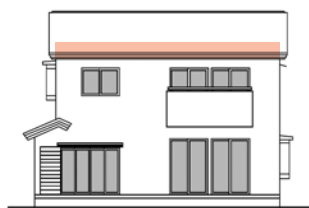
生活を考え、必要なところにのみ断熱化するので経済的です。

※図は子供が独立した世帯で寝室を一部和室に移した

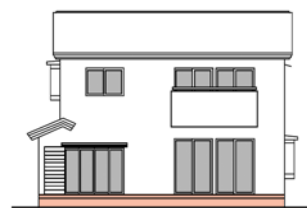
## 局所断熱

窓のみや一部屋だけの断熱化。ヒートショック防止の観点からおすすめしません。

## 内装をはがさず簡単断熱リフォーム



小屋裏にアクリアEブロー/アクリアマット



床下からアクリアUボード



天井点検口などから入って施工



床下収納庫などから床下にもぐって施工

## 断熱リフォーム事例

築35年の中古住宅を購入し、まるごとリフォームを実施しました。

天井・壁・床に断熱等性能等級4相当※<sup>1</sup>の断熱材を施工しました。リフォーム前では、暖房を付けても足元が寒いままで、暖房を切るとすぐに寒くなってしまいました。リフォーム後では部屋全体がすぐに暖まり暖房の効きが良くなり、足元の寒さもなくなりました。また、暖房を切っても部屋の中は暖かいままでした。家全体の温度差が少なく、快適なだけでなく、光熱費も節約できる住まいを手に入れました。

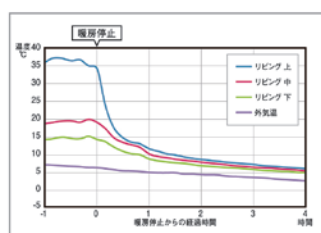
※1 平成25年省エネルギー基準 設計施工指針・附則5（リフォーム実施時の基準）



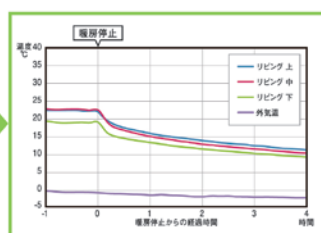
冬の夜は、お風呂上りにパジャマ1枚でくつろいでいますし、夏も外から帰ってくると家の中が涼しく感じられます。中古住宅だからという辛さやがまんは全く感じられない、居心地のいい住まいになりました。（埼玉県 M邸）

### ● 断熱リフォーム前後の温熱環境測定結果

リフォーム前



リフォーム後

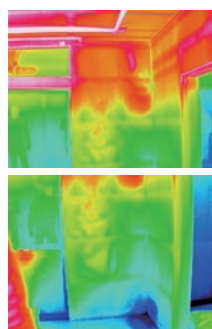


測定条件：床からの高さが200mm(下)、1200mm(中)、2200mm(上)の同位置に温度センサーを設置して温度測定を実施。暖房設定23℃、室温が安定したところで暖房を停止して温度推移を測定した。

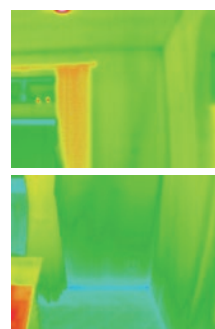
暖房を切った後の部屋の暖かさが違う！

### ● 断熱リフォーム前後の南壁の様子

リフォーム前

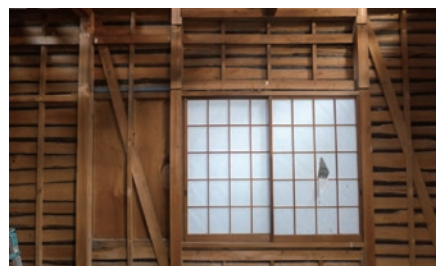


リフォーム後



暖房中の温度ムラ解消 快適性アップ

家の解体



断熱施工



施工後



# 改正建築物省エネ法の概要(令和7年4月施行)

## ■背景

2050年カーボンニュートラル、2030年度温室効果ガス46%削減(2013年度比)の実現に向け、エネルギー消費の約3割を占める建築物分野での省エネ対策の加速

## ■施策

### ① 全ての新築住宅・非住宅に省エネ基準適合の義務付け

建築主は、その建築(新築、増築及び改築)をしようとする建築物について、建築物のエネルギー消費性能の一層の向上を図るよう努めなければならないこととする。

#### ■建築主の義務等

	現行		改正案	
	非住宅	住宅	非住宅	住宅
大規模 2,000㎡以上	適合義務 2017.4~	届出義務	適合義務 2017.4~	適合義務
中規模	適合義務 2021.4~	届出義務	適合義務 2021.4~	適合義務
小規模 300㎡未満	適合努力義務	適合努力義務	適合義務	適合義務

**建築主の努力義務:**  
建築物の省エネ性能の一層の向上※を図ること  
※義務基準である省エネ基準を上回る省エネ性能の確保。  
修繕等の場合は「向上」

### ② 建築士の説明努力義務

建築士は、建築物の建築等に係る設計を行うときは、当該設計を委託した建築主に対し、当該建築物のエネルギー消費性能その他建築物のエネルギー消費性能の向上に資する事項について説明するよう努めなければならないこととする。【説明義務制度の削除】

#### ■建築主の義務等

	現行		改正案	
	非住宅	住宅	非住宅	住宅
大規模 2,000㎡以上	適合義務 2017.4~	届出義務	適合義務 2017.4~	適合義務
中規模	適合義務 2021.4~	届出義務	適合義務 2021.4~	適合義務
小規模 300㎡未満	適合努力義務	適合努力義務	適合義務	適合義務

**建築主の努力義務:**  
建築物の省エネ性能の一層の向上※を図ること  
※義務基準である省エネ基準を上回る省エネ性能の確保。修繕等の場合は「向上」

**建築士の説明努力義務:**  
建築物の省エネ性能の向上について建築主に説明すること

※施行日:公布の日から3年以内

建築士の説明義務:基準適合性の評価結果等を建築主に説明

### ③ 省エネ基準適合義務の対象拡大について

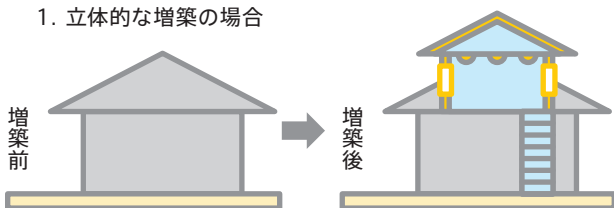
- 基準適合義務の対象を、小規模非住宅、住宅にも拡大する。  
※エネルギー消費性能に及ぼす影響が少ないものとして政令で定める規模(10㎡を想定)以下のものを除く。
- 増改築を行う場合の省エネ基準適合を求める範囲を見直す。



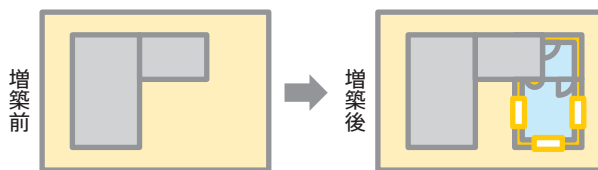
- 届出義務については、基準適合義務の拡大に伴い、廃止する。

#### ■増改築時の規制の概要(改正後)

##### 1. 立体的な増築の場合



##### 2. 平面的な増築の場合



増築部分の壁、屋根、窓などに、一定の断熱材や窓等を施工することにより、増改築部分の基準適合を求める

増築部分に一定性能以上の設備(空調、照明等)を設置することにより、増改築部分の基準適合を求める

# 改正建築物省エネ法の概要 (令和7年4月施行)

## ④ 手続き・審査の合理化について

- (1) 省エネ基準への適合性審査を不要とする建築物の限定  
(適合性審査を不要とする建築物)
  - ① 建築確認の対象外の建築物 ※<sup>1</sup>
  - ② 建築基準法における審査・検査省略の対象である建築物 ※<sup>2</sup>
- (2) 省エネ基準への適合性審査が容易な建築物の省エネ適判手続きの省略 ※<sup>3</sup>

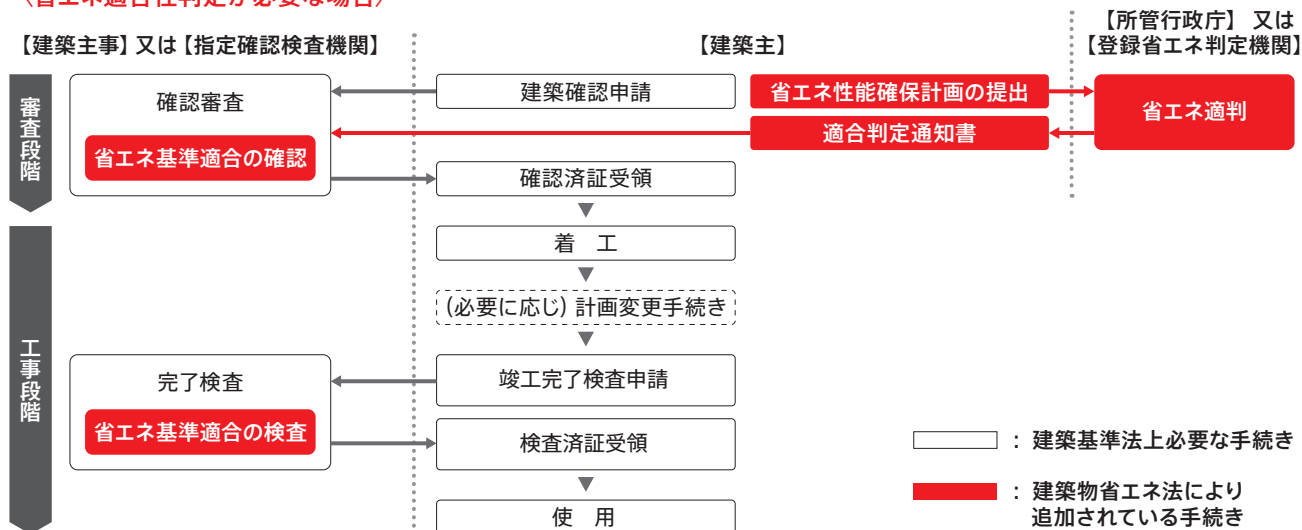
### ■適合義務対象建築物における手続き・審査の要否

	非住宅	住宅	
			審査が容易な場合※ <sup>3</sup>
300㎡以上	適合性判定／建築確認・検査	【省エネ適判必要】 適合性判定／建築確認・検査	【省エネ適判不要】
300㎡以下	適合性判定／建築確認・検査		【(2)】建築確認・検査
平屋かつ 200㎡以下	【(1)②】省エネ基準への適合性審査・検査省略(構造・防火並び)※ <sup>2</sup>		
	【(1)①】建築確認・検査不要※ <sup>1</sup>		

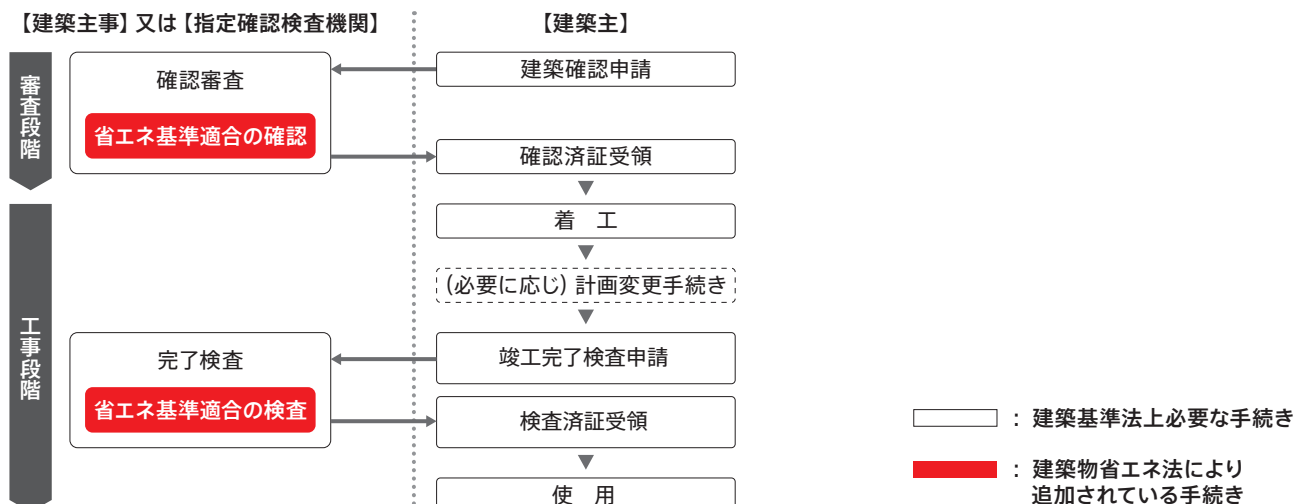
※<sup>1</sup> 都市計画区域・準都市計画区域の外の建築物(平屋かつ200㎡以下) ※<sup>2</sup> 都市計画区域・準都市計画区域の内の建築物(平屋かつ200㎡以下)で、建築士が設計・工事監理を行った建築物  
 ※<sup>3</sup> 仕様基準による場合(省エネ計算なし)等 ※施行日:公布の日から3年以内

### ■建築確認における省エネ基準への適合審査の流れ(改正後)

#### 〈省エネ適合性判定が必要な場合〉



#### 〈省エネ適合性判定を要しない場合〉 ※仕様基準を用いるなど、審査が比較の容易な場合(省令で規定予定)





## ⑤ 住宅トップランナー制度の対象拡充

分譲型住宅のトップランナー制度の対象を、分譲マンションにも拡大\*することとする。

※1000戸以上供給する事業者を対象とする見込み（政令事項）

### ■ 住宅トップランナー制度の対象



## ⑥ 省エネ性能表示の推進

表示制度のイメージ

- 対象……………全ての建築物（販売・賃貸が行われるもの）
- 表示を行う者……………建築物の販売・賃貸を行う事業者
- 表示に関するルール……………表示事項・表示方法等を、国土交通大臣が告示で定める

## ⑦ 市町村が定める再エネ利用促進区域内について、建築士から建築主へ再エネ導入効果の説明義務を導入

- 建築士から建築主へ、設置可能な再エネ設備を書面で説明
- 条例で定める用途・規模の建築物が対象

## ⑧ 再エネ促進区域における形態規制に係る特例許可の創設

- 市町村が定めた促進区域内における再エネ利用設備の設置の加速化

市町村が定める再エネ利用設備の設置に関する促進計画に適合する建築物に対する高さ制限、容積率制限、建蔽率制限の特例許可制度を創設（建築物省エネ法）

参照：脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律（令和4年法律第69号）について〔国土交通省 住宅局より〕

# 省エネ基準の評価方法

## ■省エネ基準に基づく評価方法（戸建住宅）

標準計算ルートと仕様基準ルートについては、これまで外皮性能及び一次エネルギー消費性能共にそれぞれのルートで行なう評価方法が存在していました。2023年10月から、「外皮性能は仕様ルートで行ない、一次エネルギー消費性能は標準計算ルートで行なう」新たな評価ルートが創設されました。



## ■建築物省エネ法の基準 の評価項目

住宅	<b>●外皮性能</b> ◎外皮平均熱貫流率 (U <sub>A</sub> ) による基準 $U_A = \frac{\text{単位温度差当たりの総熱損失量}}{\text{外皮総面積}}$ ◎冷房期の平均日射熱取得率 (η <sub>AC</sub> ) による基準 $\eta_{AC} = \frac{\text{単位日射強度当たりの総日射熱取得量}}{\text{外皮総面積}} \times 100$	<b>●一次エネルギー消費量</b> $= \frac{\begin{aligned} &+ \text{暖冷房設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{換気設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{照明設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{給湯設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{その他（家電等）一次エネルギー消費量} \\ &- \text{エネルギー利用効率化設備による一次エネルギー消費量の削減量} \end{aligned}}{\text{—}} \\           = \text{一次エネルギー消費量}         $
	<b>●外皮性能 (PAL*)</b> ◎ペリメーターゾーンの年間熱負荷 $PAL^* = \frac{\text{ペリメーターゾーンの年間熱負荷 (MJ/年)}}{\text{ペリメーターゾーンの床面積の合計 (㎡)}}$ ◎1年間における①～④までに掲げる熱による暖房負荷及び冷房負荷を合計したもの。 ①外気とペリメーターゾーンの温度差 ②外壁・窓等からの日射熱 ③ペリメーターゾーンで発生する熱 ④取入外気とペリメーターゾーンとの温湿度の差及び取入外気量に基づく取入外気の熱 <b>●ペリメーターゾーンとは</b> 各階の外気に接する壁の中心線から水平距離が5m以内の屋内の空間、屋根直下の階の屋内の空間及び外気に接する床の直上の屋内の空間をいいます。	<b>●一次エネルギー消費量</b> $= \frac{\begin{aligned} &+ \text{空調設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{換気設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{照明設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{給湯設備一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{昇降機一次エネルギー消費量} \\ &+ \text{その他（OA機器等）一次エネルギー消費量} \\ &- \text{エネルギー利用効率化設備による一次エネルギー消費量の削減量} \end{aligned}}{\text{—}} \\           = \text{一次エネルギー消費量}         $

# 外皮の基準と一次エネルギー消費量の基準

## ■外皮が満たすべき性能基準

### 1) 外皮平均熱貫流率(U<sub>A</sub>値)

外皮における断熱性能は平成11年省エネルギー基準と同等の性能が求められます。従来の床面積当たりの熱損失量Q値から、外皮面積当たりの熱損失量U<sub>A</sub>値に変更して建物規模の大小や形状の影響を受けにくい評価ができるようになりました。

室内から屋外にどのくらい熱が移動するかを表す指標が熱貫流率です。外皮熱貫流率とは、住宅全体からの熱損失量を天井、壁、床、窓等の外皮の合計面積で割った値です。数値が小さいほど断熱性能が高い住宅です。

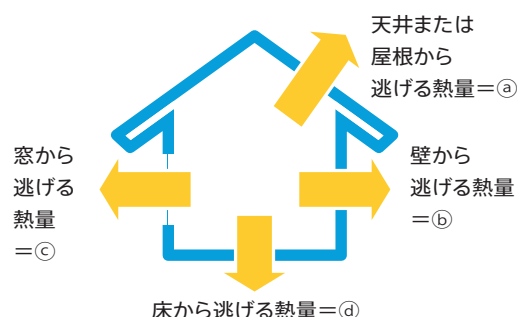
$$\frac{\text{熱損失量の合計 (a+b+c+d)}}{\text{外皮面積の合計}} = \text{外皮平均熱貫流率 (U}_A\text{)}$$

#### ■地域区分ごとの基準値

新地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
旧地域区分	Ia	Ib	II	III	IVa	IVb	V	VI
U <sub>A</sub> 値	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	0.87	—

※ U<sub>A</sub>値の算出方法については当社ホームページをご参照ください。

旭ファイバーグラス > お役立ち情報 > 建築物省エネ法 住宅\_H28年基準 省エネ計算 (U<sub>A</sub>・一次エネ) (<https://www.afgc.co.jp/knowledge/2017/05/17/50>)



### 2) 冷房期の平均日射熱取得率(η<sub>AC</sub>値)

日射遮へい性能については、従来の床面積当たりの総日射取得量μ値から、外皮面積当たりの平均日射取得率η<sub>AC</sub>に変更して評価することになりました。

住宅に日射がどのくらい入ってくるかを表したのが日射熱取得率です。平均日射熱取得率とは、住宅全体の日射熱取得量を天井、壁、床、窓等の外皮の合計面積で割った値です。数値が大きいくほど、日射熱が侵入しやすい住宅です。

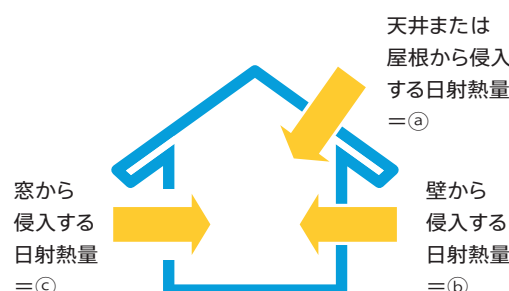
$$\frac{\text{日射熱取得量の合計 (a+b+c)}}{\text{外皮面積の合計}} \times 100 = \text{冷房期の平均日射熱取得率 (}\eta_{AC}\text{)}$$

#### ■地域区分ごとの基準値

新地域区分	1	2	3	4	5	6	7	8
旧地域区分	Ia	Ib	II	III	IVa	IVb	V	VI
η <sub>AC</sub> 値	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7

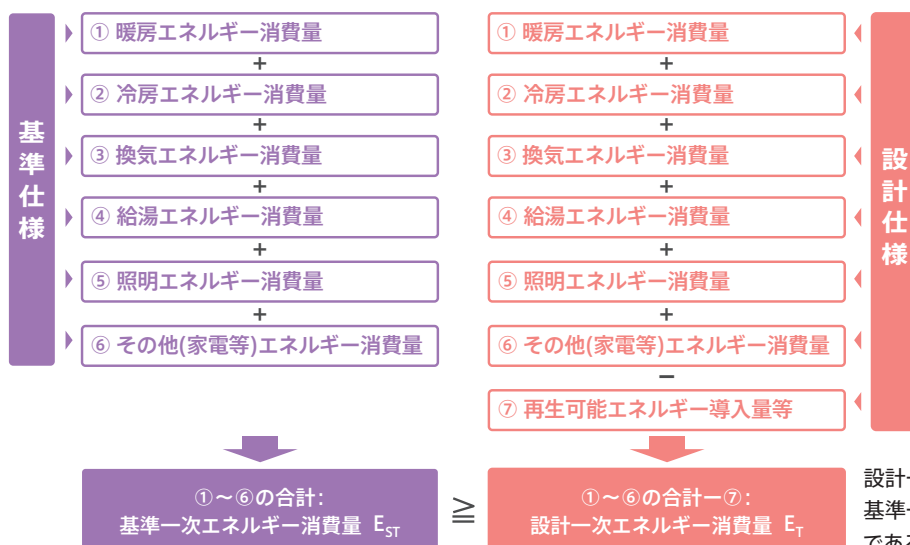
※ η<sub>AC</sub>値の算出方法については当社ホームページをご参照ください。

旭ファイバーグラス > お役立ち情報 > 建築物省エネ法 住宅\_H28年基準 省エネ計算 (U<sub>A</sub>・一次エネ) (<https://www.afgc.co.jp/knowledge/2017/05/17/50>)



## ■一次エネルギー消費量の基準

住宅・住戸の居室における用途面積、地域区分や延床面積に応じて各設備機器によるエネルギー消費量から算出します(WEB上の算定プログラムを使用して計算します)。



# 省エネ基準・誘導基準の仕様基準 (戸建:断熱材の熱抵抗値)

仕様基準には熱貫流率の基準と熱抵抗値の基準があります。

## ■断熱材の熱抵抗値の基準

※仕様で併記している数値は、軸組／枠組壁の基準値。

構造	部位		断熱工法	省エネ基準				誘導基準			
				1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
木造（充填）	屋根又は天井	屋根	充填断熱	6.6	4.6	4.6	0.96	6.9	5.7	5.7	1.0
		天井		5.7	4.0	4.0	0.78/0.89	5.7	4.4	4.4	0.8
	壁			3.3/3.6	2.2/2.3	2.2/2.3		4.0	2.7	2.7	
	床	外気に接する部分		5.2/4.2	5.2/4.2	3.3/3.1		5.0	5.0	3.4	
		その他の部分		3.3/3.1	3.3/3.1	2.2/2.0		3.3	3.3	2.2	
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分		3.5	3.5	1.7		3.5	3.5	1.7	
		その他の部分		1.2	1.2	0.5		1.2	1.2	0.7	
木造・鉄骨造（外張・内張）	屋根又は天井		外張断熱又は、内張断熱	5.7	4.0	4.0	0.78	6.3	4.8	4.8	0.9
	壁			2.9	1.7	1.7		3.8	2.3	2.3	
	床	外気に接する部分		3.8	3.8	2.5		4.5	4.5	3.1	
		その他の部分									
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分		3.5	3.5	1.7		3.5	3.5	1.7	
		その他の部分		1.2	1.2	0.5		1.2	1.2	0.7	
RC造	屋根又は天井		内張張	8.9	5.4	5.4	0.7	8.9	6.1	6.1	0.7
			外断熱	10.9	6.1	6.1	0.6	10.9	7.0	7.0	0.6
			両面断熱	5.7	4.0	4.0	0.6	5.7	4.4	4.4	0.6
	壁		内断熱	5.4	2.7	2.7		8.9	3.7	3.7	
			外・両面	2.8	1.8	1.8		3.7	2.2	2.2	
	床	外気に接する部分	内・両面	5.3	5.3	2.3		5.3	5.3	2.3	
			外断熱	12.3	12.3	3.2		12.3	12.3	3.2	
		その他の部分	内・両面	2.9	2.9	1.3		2.9	2.9	1.3	
			外断熱	5.9	5.9	1.8		5.9	5.9	1.8	
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	内・外・両面断熱	3.5	3.5	1.7		3.5	3.5	1.7	
		その他の部分		1.2	1.2	0.5		1.2	1.2	0.7	

構造	省エネ基準							誘導基準						
	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
鉄骨造(充填) 壁	0.56以上		柱、梁	1.91	0.63	0.08		0.5以上		柱、梁	1.2	1.2	1.2	
		無し	一般部	2.12	1.08	1.08			無し	一般部	3.0	1.7	1.7	
		有り	一般部	3.57	2.22	2.22			有り	一般部	3.2	2.7	2.7	
			金属部材	0.72	0.33	0.33				金属部材	1.4	0.9	0.9	
	0.15以上 0.56未満		柱、梁	1.91	0.85	0.31		0.1以上 0.5未満		柱、梁	1.6	1.6	1.6	
		無し	一般部	2.43	1.47	1.47			無し	一般部	3.4	2.1	2.1	
		有り	一般部	3.57	2.22	2.22			有り	一般部	3.6	3.2	3.2	
			金属部材	1.08	0.50	0.50				金属部材	1.8	1.4	1.4	
	0.15未満		柱、梁	1.91	1.27	0.63		0.1未満		柱、梁	1.7	1.7	1.7	
		無し	一般部	3.00	1.72	1.72			無し	一般部	3.5	2.2	2.2	
		有り	一般部	3.57	2.22	2.22			有り	一般部	3.7	3.3	3.3	
			金属部材	1.43	0.72	0.72				金属部材	1.9	1.5	1.5	



## ●開口部の熱貫流率と日射遮蔽対策の基準

地域の区分	熱貫流率の基準値(W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準(いずれかに該当)
1～3地域	2.3	
4地域	3.5	
5～7地域	4.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>開口部の日射熱取得率が0.59以下であるもの</li> <li>ガラスの日射熱取得率が0.73以下であるもの</li> <li>付属部材を設けるもの</li> <li>ひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>
8地域		<ul style="list-style-type: none"> <li>開口部の日射熱取得率が0.53以下であるもの</li> <li>ガラスの日射熱取得率が0.66以下であるもの</li> <li>付属部材を設けるもの</li> <li>ひさし、軒等を設けるもの</li> </ul>

## ●一次エネ消費量の仕様基準(戸建・共同共通)

設備		1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域	8地域
暖房	単位住戸全体を暖房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、ヒートポンプを熱源とするもの							
	居室のみを暖房する方式	次のイからハまでのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までのいずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 石油熱源機であって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が83.0%以上であるもの (ロ) ガス熱源機であって、日本産業規格S2112に規定する熱効率が78.9%以上であるもの (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ 強制対流式の密閉式石油ストーブであって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が86.0%以上であるもの ハ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの -0.321×暖房能力[kW]+6.16				次のイ又はロのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までのいずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 石油熱源機であって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が87.8%以上であるもの (ロ) ガス熱源機であって、日本産業規格S2112に規定する熱効率が82.5%以上であるもの (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの -0.321×暖房能力[kW]+6.16			
冷房	単位住戸全体を冷房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、ヒートポンプを熱源とするもの							
	居室のみを冷房する方式	ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する冷房能力を消費電力で除した数値が、右記の算出式により求められる基準以上であるもの -0.504×冷房能力[kW]+5.88							
換気		単位住戸に採用する全般換気設備が、次のイから二までのいずれかに該当するもの又は算出方法等に係る事項に定める算出方式を用いる方法においてこれと同等以上の評価となるもの イ 比消費電力(熱交換換気設備を採用する場合にあっては、比消費電力を有効換気量率で除した値)が0.3[W/(m³/h)]以下の換気設備 ロ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備(熱交換換気設備を採用しない場合に限る) ハ 内径75mm以上のダクトを用いるダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備 ニ 壁付式第二種換気設備又は壁付式第三種換気設備							
照明		単位住戸に採用する照明設備について、非居室に白熱灯又はこれと同等以下の性能の照明設備を採用しないこと							
給湯		次のイからハまでのいずれかに該当 イ 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が81.3%以上であるもの ロ ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が83.7%以上であるもの ハ 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機であって、日本産業規格C9220に規定するふる熱回収機能を使用しない場合の年間給湯保温効率又は年間給湯効率が、地域の区分に応じ、次に掲げる基準値以上であるもの (イ) 1の地域 3.5 (ロ) 2の地域 3.2 (ハ) 3の地域 3.0 (二) 4の地域 2.9				次のイからハまでのいずれかに該当 イ 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が77.8%以上であるもの ロ ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が78.2%以上であるもの ハ 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機			

# 誘導基準の仕様基準 (戸建:開口部、設備)

## ●開口部の基準【1～8地域】

	1.2地域	3地域	4地域	5～7地域	8地域
熱貫流率	1.9			2.3	
日射遮蔽 (建具の種類 若しくはその組合せ 又は付属部材 若しくはひさし、軒等の 設置に関する事項)			次のいずれか イ 開口部の日射熱取得率が 0.59以下であるもの ロ ガラスの日射熱取得率が 0.73以下であるもの ハ 付属部材を設けるもの ニ ひさし、軒等を設けるもの		次のいずれか イ 開口部の日射熱取得率が 0.53以下であるもの ロ ガラスの日射熱取得率が 0.66以下であるもの ハ 付属部材を設けるもの ニ ひさし、軒等を設けるもの

## ●一次エネ消費量の基準(戸建・共同共通)

設備		1～7地域	8地域
暖房	単位住戸全体を 暖房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、次のイからハまでのいずれにも該当するもの (単位住戸に熱交換換気設備を採用する場合に限る) イ ヒートポンプを熱源とするもの ロ 可変風量制御方式であるもの ハ 外皮の室内側に全てのダクトを設置するもの	
	居室のみを 暖房する方式	次のイ又はロのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までの いずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 潜熱回収型の石油熱源機 (ロ) 潜熱回収型のガス熱源機 (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する 暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる 基準値以上であるもの(地域の区分のうち1又は2地域にあつては、 当該単位住戸に熱交換換気設備を採用する場合に限る) $-0.352 \times \text{暖房能力}[\text{kW}] + 6.51$	
冷房	単位住戸全体を 冷房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、次のイからハまでのいずれにも該当するもの イ ヒートポンプを熱源とするもの ロ 可変風量制御方式であるもの ハ 外皮の室内側に全てのダクトを設置するもの	
	居室のみを 冷房する方式	ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する冷房能力を消費電力で除した数値が、 以下の算出式により求められる基準値以上であるもの $-0.553 \times \text{冷房能力}[\text{kW}] + 6.34$	
換気	熱交換換気設備 の有無	なし	次のイから二までのいずれかに該当 イ 比消費電力が $0.3[\text{W}/(\text{m}^3/\text{h})]$ 以下の換気設備 ロ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備 ハ 内径75mm以上のダクトを用いるダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備 ニ 壁付式第二種換気設備又は壁付式三種換気設備
		あり	次のイ及びロのいずれにも該当 イ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備であって、 有効換気量率が0.8以上であるもの ロ 熱交換換気設備が、日本産業規格B8628に規定する温度交換効率が70%以上のものであるもの
照明		単位住戸に採用する全ての照明設備について、LED又はこれと同等以上の性能のものを採用すること	
給湯		単位住戸に採用する給湯設備(排熱利用設備及び浴槽を含む)が、次のイ及びロのいずれにも該当するもの又は 算出方法等に係る事項に定める算出方法を用いる方法においてこれと同等以上の評価するものであること イ 次の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当するもの (イ) 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が84.9%以上であるもの (地域区分のうち8地域を除く) (ロ) ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が86.6%以上であるもの (地域区分のうち8地域を除く) (ハ) 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機であって、日本産業規格C9220に規定 するふろ熱回収機能を使用しない場合の年間給湯保温効率又は年間給湯効率が3.3以上であるもの ロ 次の(イ)から(ハ)までのいずれにも該当するもの (イ) 給湯機の配管がヘッダー方式であって、ヘッダーから分岐する全ての配管の呼び径が13A以下であるもの (ロ) 浴室シャワー水栓として手元止水機構及び小流量吐水機構が設けられた節湯水栓を用いるもの (ハ) 高断熱浴槽を採用するもの	

# 省エネ基準 共同住宅の評価方法

## 外皮性能基準

共同住宅において、隣接空間が住戸の場合の温度差係数を見直すことに伴い、断熱性能の評価が適正化することになるため、住戸単位で一定の外皮性能を確保する観点から、単位住戸の外皮基準のみに統一し、住棟単位(全住戸平均)で外皮性能を評価する基準については廃止されました。フロア入力法による場合は、改正前は住棟単位(全住戸平均基準)への適合が求められましたが、当該基準の廃止に伴い、改正後は単位住戸の外皮基準への適合が求められます。

		標準計算	仕様基準
		住戸評価	性能値がでない
外皮性能	部位ごとの面積計算	住戸ごとに計算	計算をしない
	評価方法	各戸で基準値の適合確認	仕様基準への適合確認

一次エネルギー消費性能	評価方法	住棟全体(各住戸分と共有部分)で適合確認	仕様基準への適合確認
	計算ツール(住戸分)	エネルギー消費性能プログラム(住宅版)	—
	備考	共用部分の1次エネルギー消費量は非住宅の標準入力法を使用しますが、共用部分の評価は任意となりました。	—

		地域区分							
		1	2	3	4	5	6	7	8
住戸単位で 基準への適否を判断する場合 (戸建住宅・共同住宅等)	外皮平均熱貫流率 [W/m <sup>2</sup> K] (U <sub>A</sub> 値)	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
	冷房期の平均日射熱取得率 (η <sub>Ac</sub> 値)	—	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7

# 省エネ基準・誘導基準の仕様基準 (共同:断熱材の熱抵抗値)

仕様基準には熱貫流率の基準と熱抵抗値の基準があります。

## ■断熱材の熱抵抗値の基準

※仕様で併記している数値は、軸組／枠組壁の基準値。

構造	部位		断熱工法	省エネ基準					誘導基準			
				1～2地域	3地域	4地域	5～7地域	8地域	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
木造（充填）	屋根又は天井	屋根	充填断熱	2.9	2.0	1.4	1.1	1.0	4.4	2.5	2.0	1.0
		天井		2.3	1.6	1.1	0.9	0.8	3.4	2.0	1.6	0.8
	壁			2.5	1.8	1.1	1.1		2.5	2.1	1.8	
	床	外気に接する部分		3.4	2.9	2.9	2.9		3.4	3.4	2.9	
		その他の部分		2.1	1.7	1.7	1.7		2.1	2.1	1.7	
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分		1.2	0.6	0.6	0.6		1.2	1.0	0.6	
		その他の部分		0.4	0.1	0.1	0.1		0.4	0.3	0.1	
木造・鉄骨造（外張・内張）	屋根又は天井		外張断熱又は、内張断熱	2.5	1.7	1.2	1.0	0.9	3.7	2.1	1.7	0.9
	壁			2.2	1.6	1.0	1.0		2.2	1.8	1.6	
	床	外気に接する部分		3.1	2.6	2.6	2.6		3.1	3.1	2.6	
		その他の部分										
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分		1.2	0.6	0.6	0.6		1.2	1.0	0.6	
		その他の部分		0.4	0.1	0.1	0.1		0.4	0.3	0.1	
RC造	屋根又は天井		内張張	2.5	1.6	1.2	0.9	0.7	3.3	2.3	1.6	0.7
			外・両面	2.3	1.6	1.1	0.9	0.6	3.1	2.2	1.6	0.6
	壁		内断熱	1.9	1.2	0.8	0.8		2.1	1.4	1.2	
			外・両面	1.4	1.0	0.7	0.7		1.5	1.1	1.0	
	床	外気に接する部分	内・両面	2.0	1.4	1.0	0.8		2.6	1.9	1.4	
			外断熱	3.5	2.0	1.3	1.0		5.3	3.2	2.0	
		その他の部分	内・両面	1.2	0.8	0.5	0.4		1.7	1.1	0.8	
			外断熱	2.2	1.2	0.7	0.5		3.5	2.0	1.2	
	土間床等の外周部分の基礎壁	外気に接する部分	内・外・両面断熱	1.7	0.6	0.6	0.6		1.7	1.7	0.6	
		その他の部分		0.5	0.1	0.1	0.1		0.5	0.5	0.1	

構造	省エネ基準							誘導基準						
	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域	外装材の熱抵抗	一般部の断熱層を貫通する金属部材の有無	断熱材を施工する箇所の区分	1～2地域	3地域	4～7地域	8地域
鉄骨造(充填) 壁	0.5以上		柱、梁	1.2	1.2	0.4		0.5以上		柱、梁	1.2	1.2	1.2	
		無し	一般部	1.5	1.0	1.0			無し	一般部	1.5	1.2	1.0	
		有り	一般部	2.5	2.0	1.9			有り	一般部	2.5	2.1	2.0	
			金属部材	0.7	0.3	0.3				金属部材	0.7	0.5	0.3	
	0.1以上0.5未満		柱、梁	1.6	1.6	0.8		0.1以上0.5未満		柱、梁	1.6	1.6	1.6	
		無し	一般部	1.9	1.4	1.4			無し	一般部	1.9	1.6	1.4	
		有り	一般部	3.0	2.4	2.3			有り	一般部	3.0	2.5	2.4	
			金属部材	1.2	0.7	0.7				金属部材	1.2	0.9	0.7	
	0.1未満		柱、梁	1.7	1.7	0.9		0.1未満		柱、梁	1.7	1.7	1.7	
		無し	一般部	2.0	1.5	1.5			無し	一般部	2.0	1.7	1.5	
		有り	一般部	3.1	2.5	2.4			有り	一般部	3.1	2.6	2.5	
			金属部材	1.3	0.8	0.8				金属部材	1.3	1.0	0.8	



## ●開口部の熱貫流率と日射遮蔽対策の基準

地域の区分	熱貫流率の基準値(W/(m <sup>2</sup> ・K))	日射遮蔽対策の基準
1～3地域	2.3	
4地域	3.5	
5～7地域	4.7	
8地域		北±22.5度の方位を除く開口部が次のいずれかに該当するもの ・開口部の日射熱取得率が0.52以下であるもの・付属部材を設けるもの ・ガラスの日射熱取得率が0.65以下であるもの・ひさし、軒等を設けるもの

## ●一次エネ消費量の仕様基準(戸建・共同共通)

設備		1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域	8地域
暖房	単位住戸全体を暖房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、ヒートポンプを熱源とするもの							
	居室のみを暖房する方式	次のイからハまでのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までのいずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 石油熱源機であって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が83.0%以上であるもの (ロ) ガス熱源機であって、日本産業規格S2112に規定する熱効率が78.9%以上であるもの (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ 強制対流式の密閉式石油ストーブであって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が86.0%以上であるもの ハ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの -0.321×暖房能力[kW]+6.16				次のイ又はロのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までのいずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 石油熱源機であって、日本産業規格S3031に規定する熱効率が87.8%以上であるもの (ロ) ガス熱源機であって、日本産業規格S2112に規定する熱効率が82.5%以上であるもの (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの -0.321×暖房能力[kW]+6.16			
冷房	単位住戸全体を冷房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、ヒートポンプを熱源とするもの							
	居室のみを冷房する方式	ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する冷房能力を消費電力で除した数値が、右記の算出式により求められる基準以上であるもの -0.504×冷房能力[kW]+5.88							
換気		単位住戸に採用する全般換気設備が、次のイから二までのいずれかに該当するもの又は算出方法等に係る事項に定める算出方式を用いる方法においてこれと同等以上の評価となるもの イ 比消費電力(熱交換換気設備を採用する場合にあっては、比消費電力を有効換気量率で除した値)が0.3[W/(m³/h)]以下の換気設備 ロ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備(熱交換換気設備を採用しない場合に限る) ハ 内径75mm以上のダクトを用いるダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備 ニ 壁付式第二種換気設備又は壁付式第三種換気設備							
照明		単位住戸に採用する照明設備について、非居室に白熱灯又はこれと同等以下の性能の照明設備を採用しないこと							
給湯		次のイからハまでのいずれかに該当 イ 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が81.3%以上であるもの ロ ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が83.7%以上であるもの ハ 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機であって、日本産業規格C9220に規定するふる熱回収機能を使用しない場合の年間給湯保温効率又は年間給湯効率が、地域の区分に応じ、次に掲げる基準値以上であるもの (イ) 1の地域 3.5 (ロ) 2の地域 3.2 (ハ) 3の地域 3.0 (二) 4の地域 2.9				次のイからハまでのいずれかに該当 イ 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が77.8%以上であるもの ロ ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が78.2%以上であるもの ハ 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機			

# 誘導基準の仕様基準 (共同:開口部、設備)

## ●開口部の基準【1～8地域】

	1. 2地域	3地域	4地域	5～7 地域	8地域
熱貫流率	1.9	2.3	2.9		
日射遮蔽 (建具の種類 若しくはその組合せ 又は付属部材 若しくはひさし、軒等の 設置に関する事項)					北±22.5度以外の方位に設置された開口部が 次のイから二までのいずれかに該当するもの イ 開口部の日射熱取得率が0.52以下であるもの ロ ガラスの日射取得率が0.65以下であるもの ハ 付属部材を設けるもの ニ ひさし、軒等を設けるもの

## ●一次エネ消費量の基準(戸建・共同共通)

設備		1～7地域	8地域
暖房	単位住戸全体を暖房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、次のイからハまでのいずれにも該当するもの (単位住戸に熱交換換気設備を採用する場合に限る) イ ヒートポンプを熱源とするもの ロ 可変風量制御方式であるもの ハ 外皮の室内側に全てのダクトを設置するもの	
	居室のみを暖房する方式	次のイ又はロのいずれかに該当するもの イ 温水暖房用パネルラジエーターであって、次の(イ)から(ハ)までのいずれかの熱源機を用い、かつ、配管に断熱被覆があるもの (イ) 潜熱回収型の石油熱源機 (ロ) 潜熱回収型ガス熱源機 (ハ) フロン類が冷媒として使用された電気ヒートポンプ熱源機 ロ ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する暖房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの(地域の区分のうち1の地域又は2の地域に存する単位住戸にあっては、当該単位住戸に熱交換換気設備を採用する場合に限る) $-0.352 \times \text{暖房能力}[\text{kW}] + 6.51$	
冷房	単位住戸全体を冷房する方式	ダクト式セントラル空調機であって、次のイからハまでのいずれにも該当するもの イ ヒートポンプを熱源とするもの ロ 可変風量制御方式であるもの ハ 外皮の室内側に全てのダクトを設置するもの	
	居室のみを冷房する方式	ルームエアコンディショナーであって、日本産業規格B8615-1に規定する冷房能力を消費電力で除した数値が、以下の算出式により求められる基準値以上であるもの $-0.553 \times \text{冷房能力}[\text{kW}] + 6.34$	
換気	熱交換換気設備の有無	なし	次のイから二までのいずれかに該当 イ 比消費電力が $0.3[\text{W}/(\text{m}^3/\text{h})]$ 以下の換気設備 ロ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備 ハ 内径75mm以上のダクトを用いるダクト式第二種換気設備又はダクト式第三種換気設備 ニ 壁付式第二種換気設備又は壁付式三種換気設備
		あり	次のイ及びロのいずれにも該当 イ 内径75mm以上のダクト及び直流電動機を用いるダクト式第一種換気設備であって、有効換気量率が0.8以上であるもの ロ 熱交換換気設備が、日本産業規格B8628に規定する温度交換効率が70%以上のものであるもの
照明		単位住戸に採用する全ての照明設備について、LED又はこれと同等以上の性能のものを採用すること	
給湯		単位住戸に採用する給湯設備(排熱利用設備及び浴槽を含む)が、次のイ及びロのいずれにも該当するもの又は算出方法等に係る事項に定める算出方法を用いる方法においてこれと同等以上の評価するものであること イ 次の(イ)から(ハ)までのいずれかに該当するもの (イ) 石油給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が84.9%以上であるもの(地域の区分のうち8の地域に存する単位住戸に採用されるものを除く) (ロ) ガス給湯機であって、日本産業規格S2075に規定するモード熱効率が86.6%以上であるもの(地域の区分のうち8の地域に存する単位住戸に採用されるものを除く) (ハ) 二酸化炭素が冷媒として使用された電気ヒートポンプ給湯機であって、日本産業規格C9220に規定するふろ熱回収機能を使用しない場合の年間給湯保温効率又は年間給湯効率率が3.3以上であるもの ロ 次の(イ)から(ハ)までのいずれにも該当するもの (イ) 給湯機の配管がヘッダー方式であって、ヘッダーから分岐する全ての配管の呼び径が13A以下であるもの (ロ) 浴室シャワー水栓として手元止水機構及び小流量吐水機構が設けられた節湯水栓を用いるもの (ハ) 高断熱浴槽を採用するもの	

# 住宅トプランナー制度

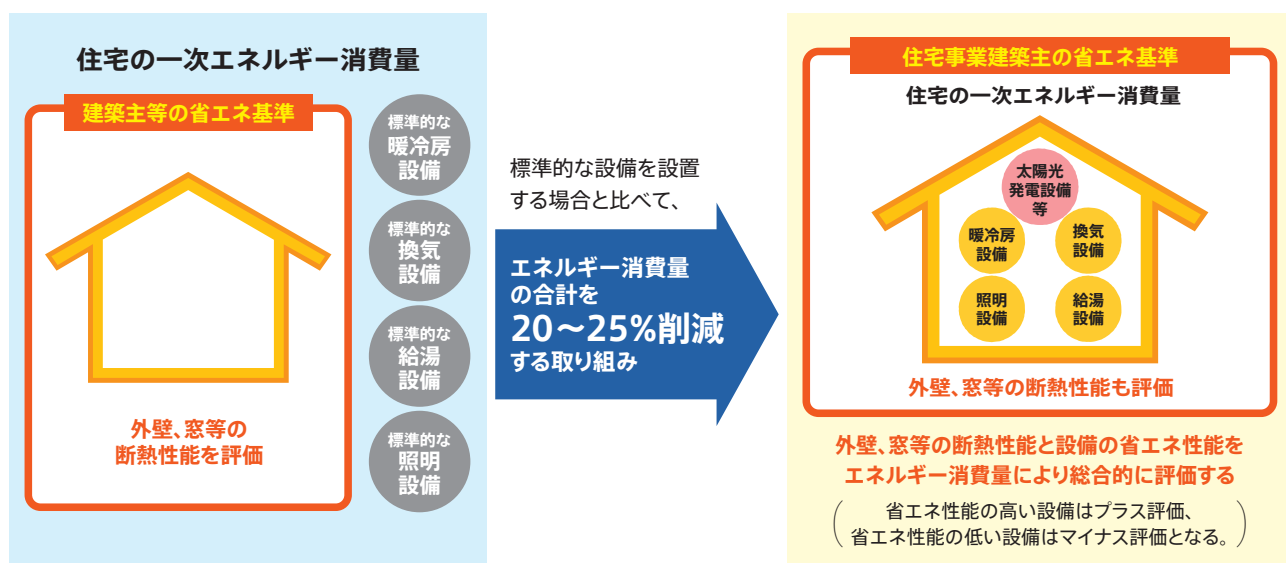
## 住宅事業建築主基準（トプランナー制度）

平成29年4月に施行された住宅事業建築主基準（住宅トプランナー制度）の対象は年間150戸以上供給する建売戸建住宅の事業者のみに対する基準でしたが、新たに年間300戸以上を供給する注文戸建住宅事業者、年間1000戸以上供給する賃貸アパート事業者が追加され、令和元年11月16日に施行されました。

	注文戸建住宅	賃貸アパート	建売戸建住宅	分譲マンション
目標年度	2027年度	2027年度	2027年度	2026年度
外皮基準	各年度に供給する全ての住宅が省エネ基準に適合	各年度に供給する全ての住宅が省エネ基準に適合	各年度に供給する全ての住宅が省エネ基準に適合	各年度に供給する全ての住宅が強化外皮基準に適合
一次エネルギー消費量基準 BEI (再エネ除き)	$\frac{\text{設計値}}{\text{基準値}} \leq 0.75$	$\frac{\text{設計値}}{\text{基準値}} \leq 0.80$	$\frac{\text{設計値}}{\text{基準値}} \leq 0.80$	$\frac{\text{設計値}}{\text{基準値}} \leq 0.80^{※1}$
太陽光発電設備設置率 <sup>※2</sup>	87.5%	—	37.5%	—
対象となる事業者	年間300戸以上供給する事業者	年間1,000戸以上供給する事業者	年間150戸以上供給する事業者	年間1,000戸以上供給する事業者

※1：分譲マンションのBEIについては、従来通り再エネ含む水準。

※2：多雪地域、都市部狭小地、その他の周辺環境等により設置が困難な住宅を除く。



## ■基準達成の評価方法

評価の対象となる住宅の省エネルギー性能は、基準として定められた一次エネルギー消費量に対する対象住宅の一次エネルギー消費量の基準達成率によって評価します。

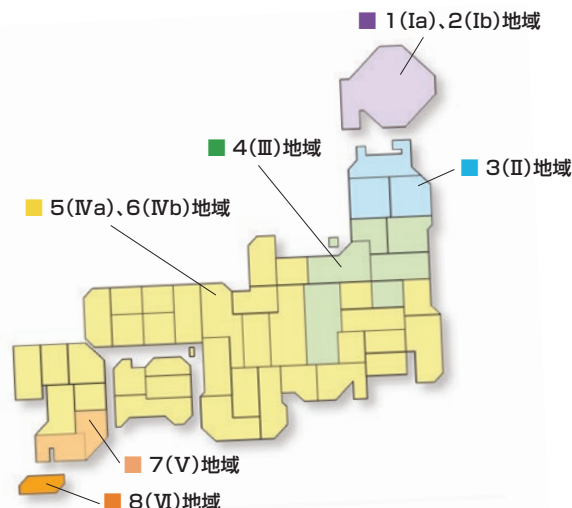
その際、個々の住宅の全てが基準達成率100%以上である必要はなく、1年間に供給した住宅全体の平均の基準達成率が100%以上となるよう努めるものとします。上記計算式の「基準一次エネルギー消費量」と「評価対象住宅の一次エネルギー消費量」は算定Webプログラムによって計算できます。

$$\text{評価対象住宅の基準達成率} = \frac{\text{基準一次エネルギー消費量 (GJ/年・世帯)}}{\text{評価対象住宅の一次エネルギー消費量 (GJ/年・世帯)}} \times 100\%$$

# 省エネルギー基準の地域区分

## ■基本的な都道府県別 地域区分（下記表記の市町村を除く）

新地域区分	旧地域区分	都道府県名
1、2	Ia、Ib	北海道
3	II	青森県、岩手県、秋田県
4	III	宮城県、山形県、福島県、栃木県、新潟県、長野県
5、6	IVa、IVb	茨城県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、福井県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県
7	V	宮崎県、鹿児島県
8	VI	沖縄県



## ■都道府県別 地域区分

〔備考〕この表に掲げる区域は、令和元年5月1日における行政区画によって表示されたものとする。ただし、括弧内に記載する区域は、平成13年8月1日における旧行政区画によって表示されたものとする。

	地域区分	市区町村
北海道地方	北海道	1 夕張市、士別市、名寄市、伊達市（旧大滝村に限る。）、留寿都村、喜茂別町、愛別町、上川町、美瑛町、南富良野町、占冠村、下川町、美深町、音威子府村、中川町、幌加内町、猿払村、浜頓別町、中頓別町、枝幸町（旧歌登町に限る。）、津別町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、上士幌町、中札内村、更別村、幕別町（旧忠類村に限る。）、大樹町、豊頃町、足寄町、陸別町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、別海町、中標津町
		2 札幌市、小樽市、旭川市、釧路市、帯広市、北見市、岩見沢市、網走市、留萌市、苫小牧市、稚内市、美瑛市、芦別市、江別市、赤平市、紋別市、三笠市、根室市、千歳市、滝川市、砂川市、歌志内市、深川市、富良野市、登別市、恵庭市、伊達市（旧伊達市に限る。）、北広島市、石狩市、北斗市、当別町、新篠津村、木古内町、七飯町、鹿部町、森町、八雲町（旧八雲町に限る。）、長万部町、今金町、せたな町、島牧村、寿都町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、真狩村、京極町、倶知安町、共和町、岩内町、泊村、神恵内村、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、南幌町、奈井江町、上砂川町、由仁町、長沼町、栗山町、月形町、浦臼町、新十津川町、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、東川町、上富良野町、中富良野町、和寒町、剣淵町、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、枝幸町（旧枝幸町に限る。）、豊富町、礼文町、利尻町、利尻富士町、幌延町、美幌町、斜里町、清里町、小清水町、湧別町、大空町、豊浦町、壮瞥町、白老町、厚真町、洞爺湖町、安平町、むかわ町、日高町、平取町、新冠町、浦河町、様似町、えりも町、新ひだか町、音更町、士幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、広尾町、幕別町（旧幕別町に限る。）、池田町、本別町、浦幌町、釧路町、厚岸町、浜中町、白糠町、標津町、羅臼町
		3 函館市、室蘭市、松前町、福島町、知内町、八雲町（旧熊石町に限る。）、江差町、上ノ国町、厚沢部町、乙部町、奥尻町
	青森県	2 平川市（旧碓ヶ関村に限る。）、
		3 青森市、弘前市、八戸市、黒石市、五所川原市、十和田市、三沢市、むつ市、つがる市、平川市（旧尾上町、旧平賀町に限る。）、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町、西目屋村、藤崎町、大鰐町、田舎館村、板柳町、鶴田町、中泊町、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町、大間町、東通村、風間浦村、佐井村、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村
		4 鯉ヶ沢町、深浦町
	岩手県	2 八幡平市（旧安代町に限る。）、葛巻町、岩手町、西和賀町、九戸村
		3 盛岡市、花巻市、久慈市、遠野市、二戸市、八幡平市（旧西根町、旧松尾村に限る。）、一関市（旧大東町、旧藤沢町、旧千厩町、旧東山町、旧室根村に限る。）、滝沢市、雫石町、紫波町、矢巾町、住田町、岩泉町、田野畑村、普代村、軽米町、野田村、洋野町、一戸町
		4 宮古市、大船渡市、北上市、一関市（旧一関市、旧花泉町、旧川崎村に限る。）、陸前高田市、釜石市、奥州市、金ヶ崎町、平泉町、大槌町、山田町
	宮城県	3 七ヶ宿町
		4 石巻市、塩竈市、気仙沼市、白石市、名取市、角田市、岩沼市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、蔵王町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亘理町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷市、大衡村、色麻町、加美町、涌谷町、美里町、女川町、南三陸町
		5 仙台市、多賀城市、山元町
	秋田県	2 小坂町
		3 能代市（旧二ツ井町に限る。）、横手市、大館市、湯沢市、鹿角市、大仙市、北秋田市、仙北市、上小阿仁村、藤里町、美郷町、羽後町、東成瀬村
		4 秋田市、能代市（旧能代市に限る。）、男鹿市、由利本荘市、潟上市、三種町、八峰町、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
		5 にかほ市



		地域区分	市区町村
東北地方	山形県	3	新庄市、長井市、尾花沢市、南陽市、西川町、朝日町、大江町、大石田町、金山町、最上町、舟形町、真室川町、鮭川村、戸沢村、高畠町、川西町、小国町、飯豊町
		4	山形市、米沢市、鶴岡市、酒田市(旧八幡町、旧松山町、旧平田町に限る。)、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、山辺町、中山町、河北町、大蔵村、白鷹町、三川町、庄内町、遊佐町
		5	酒田市(旧酒田市に限る。)
	福島県	2	檜枝岐村、南会津町(旧館岩村、旧伊南村、旧南郷村に限る。)
		3	二本松市(旧東和町に限る。)、下郷町、只見町、南会津町(旧田島町に限る。)、北塩原村、磐梯町、猪苗代町、柳津町、三島町、金山町、昭和村、鮫川村、平田村、小野町、川内村、葛尾村、飯館村
		4	会津若松市、白河市、須賀川市、喜多方市、二本松市(旧二本松市、旧安達町、旧岩代町に限る。)、田村市、伊達市、本宮市、桑折町、国見町、川俣町、大玉村、鏡石町、天栄村、西会津町、会津坂下町、湯川村、会津美里町、西郷村、泉崎村、中島村、矢吹町、棚倉町、矢祭町、塙町、石川町、玉川村、浅川町、古殿町、三春町、
		5	福島市、郡山市、いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、新地町
	茨城県	4	城里町(旧七会村に限る。)、大子町
		5	水戸市、土浦市(旧新治村に限る。)、石岡市、結城市、下妻市、常総市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、取手市、牛久市、つくば市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、筑西市、坂東市、稲敷市、かすみがうら市、桜川市、行方市、鉾田市、つくばみらい市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町(旧常北町、旧桂村に限る。)、東海村、美浦村、阿見町、河内町、八千代町、五霞町、境町、利根町
		6	日立市、土浦市(旧新治村を除く。)、古河市、龍ヶ崎市、鹿嶋市、潮来市、守谷市、神栖市
関東地方	栃木県	2	日光市(旧栗山村に限る。)
		3	日光市(旧足尾町に限る。)
		4	日光市(旧日光市、旧今市市、旧藤原町に限る。)、那須塩原市、塩谷町、那須町
		5	宇都宮市、栃木市、鹿沼市、小山市、真岡市、大田原市、矢板市、さくら市、那須烏山市、下野市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町、野木町、高根沢町、那珂川町
		6	足利市、佐野市
	群馬県	2	嬬恋村、草津町、片品村
		3	上野村、長野原町、高山村、川場村
		4	高崎市(旧倉渕村に限る。)、桐生市(旧黒保根村に限る。)、沼田市、神流町、南牧村、中之条町、東吾妻町、昭和村、みなかみ町
		5	桐生市(旧新里村に限る。)、渋川市、富岡市、安中市、みどり市、榛東村、吉岡町、下仁田町、甘楽町、板倉町
		6	前橋市、高崎市(旧倉渕村を除く。)、桐生市(旧桐生市に限る。)、伊勢崎市、太田市、館林市、藤岡市、玉村町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町
	埼玉県	4	秩父市(旧大滝村に限る。)
		5	秩父市(旧秩父市、旧吉田町、旧荒川村に限る。)、飯能市、日高市、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、寄居町
		6	さいたま市、川越市、熊谷市、川口市、行田市、所沢市、加須市、本庄市、東松山市、春日部市、狭山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、富士見市、三郷市、蓮田市、坂戸市、幸手市、鶴ヶ島市、吉川市、ふじみ野市、白岡市、伊奈町、三芳町、上里町、宮代町、杉戸町、松伏町
	千葉県	5	印西市、富里市、栄町、神崎町
		6	千葉市、銚子市、市川市、船橋市、木更津市、松戸市、野田市、茂原市、成田市、佐倉市、東金市、旭市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鴨川市、鎌ヶ谷市、君津市、富津市、浦安市、四街道市、袖ヶ浦市、八街市、白井市、南房総市、匝瑳市、香取市、山武市、いすみ市、大網白里市、酒々井町、多古町、東庄町、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、大多喜町、御宿町、鋸南町
		7	館山市、勝浦市
	東京都	4	檜原村、奥多摩町
		5	青梅市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町
		6	東京23区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、西東京市
		7	大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村
		8	小笠原村
	神奈川県	5	山北町、愛川町、清川村
		6	横浜市、川崎市、相模原市、平塚市、鎌倉市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市、葉山町、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
		7	横須賀市、藤沢市、三浦市

		地域区分	市区町村
中部地方	新潟県	4	小千谷市、十日町市、村上市、魚沼市、南魚沼市、阿賀町、湯沢町、津南町、関川村
		5	新潟市、長岡市、三条市、柏崎市、新発田市、加茂市、見附市、燕市、糸魚川市、妙高市、五泉市、上越市、阿賀野市、佐渡市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、出雲崎町、刈羽村、粟島浦村
	富山県	5	富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村、上市町、立山町、入善町、朝日町
		3	白山市(旧白峰村に限る。)
	石川県	4	白山市(旧河内村、旧吉野谷村、旧鳥越村、旧尾口村に限る。)
		5	七尾市、輪島市、珠洲市、加賀市、羽咋市、かほく市、白山市(旧美川町、旧鶴来町に限る。)、能美市、川北町、津幡町、内灘町、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、能登町
		6	金沢市、白山市(旧松任市に限る。)、小松市、野々市市
	福井県	4	池田町
		5	大野市、勝山市、あわら市、坂井市、永平寺町、南越前町、若狭町
		6	福井市、敦賀市、小浜市、鯖江市、越前市、越前町、美浜町、高浜町、おおい町
	山梨県	3	北杜市(旧小淵沢町に限る。)、笛吹市(旧芦川村に限る。)、忍野村、山中湖村、鳴沢村、小菅村、丹波山村
		4	甲府市(旧上九一色村に限る。)、富士吉田市、北杜市(旧明野村、旧須玉町、旧高根町、旧長坂町、旧大泉村、旧白州町に限る。)、甲州市(旧大和村に限る。)、道志村、西桂町、富士河口湖町
		5	甲府市(旧中道町に限る。)、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市(旧武川村に限る。)、甲斐市、笛吹市(旧春日居町、旧石和町、旧御坂町、旧一宮町、旧八代町、旧境川村に限る。)、上野原市、甲州市(旧塩山市、旧勝沼町に限る。)、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、富士川町
		6	甲府市(旧甲府市に限る。)、南部町、昭和町
	長野県	2	塩尻市(旧檜川村に限る。)、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、木祖村、木曾町(旧開田村に限る。)
		3	上田市(旧真田町、旧武石村に限る。)、岡谷市、小諸市、大町市、茅野市、佐久市、小海町、佐久穂町、御代田町、立科町、長和町、富士見町、原村、辰野町、平谷村、売木村、上松町、王滝村、木曾町(旧木曾福島町、旧日義村、旧三岳村に限る。)、麻績村、生坂村、朝日村、筑北村、白馬村、小谷村、高山村、山ノ内町、野沢温泉村、信濃町、小川村、飯綱町
		4	長野市、松本市、上田市(旧上田市、旧丸子町に限る。)、諏訪市、須坂市、伊那市、駒ヶ根市、中野市、飯山市、塩尻市(旧塩尻市に限る。)、千曲市、東御市、安曇野市、青木村、下諏訪町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、根羽村、下條村、天龍村、泰阜村、豊丘村、大鹿村、南木曾町、大桑村、山形村、池田町、松川村、坂城町、小布施町、木島平村、栄村
		5	飯田市、喬木村
	岐阜県	3	飛騨市、郡上市(旧高鷲村に限る。)、下呂市(旧小坂町、旧馬瀬村に限る。)、白川村
		4	高山市、中津川市(旧長野県木曾郡山口村、旧坂下町、旧川上村、旧加子母村、旧付知町、旧福岡町、旧蛭川村に限る。)、本巣市(旧根尾村に限る。)、郡上市(旧八幡町、旧大和町、旧白鳥町、旧明宝村、旧和良村に限る。)、下呂市(旧萩原町、旧下呂町、旧金山町に限る。)、東白川村
		5	大垣市(旧上石津町に限る。)、中津川市(旧中津川市に限る。)、美濃市、瑞浪市、恵那市、郡上市(旧美並村に限る。)、土岐市、関ヶ原町、坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、御嵩町
		6	岐阜市、大垣市(旧大垣市、旧墨俣町に限る。)、多治見市、関市、羽島市、美濃加茂市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、本巣市(旧本巣町、旧真正町、旧糸貫町に限る。)、海津市、岐南町、笠松町、養老町、垂井町、神戸町、輪之内町、安八町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町
	静岡県	5	御殿場市、小山町、川根本町
		6	浜松市、熱海市、三島市、富士宮市、島田市、掛川市、袋井市、裾野市、湖西市、伊豆市、菊川市、伊豆の国市、西伊豆町、函南町、長泉町、森町
		7	静岡市、沼津市、伊東市、富士市、磐田市、焼津市、藤枝市、下田市、御前崎市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、清水町、吉田町
	愛知県	4	豊田市(旧稲武町に限る。)、設楽町(旧津具村に限る。)、豊根村
		5	設楽町(旧設楽町に限る。)、東栄町
		6	名古屋市、岡崎市、一宮市、瀬戸市、半田市、春日井市、豊川市、津島市、碧南市、刈谷市、豊田市(旧稲武町を除く。)、安城市、西尾市、蒲郡市、犬山市、常滑市、江南市、小牧市、稲沢市、新城市、東海市、大府市、知多市、知立市、尾張旭市、高浜市、岩倉市、豊明市、日進市、田原市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、みよし市、あま市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町、幸田町
		7	豊橋市

		地域区分	市区町村
近畿地方	三重県	5	津市(旧美杉村に限る。)、名張市、いなべ市(旧北勢町、旧藤原町に限る。)、伊賀市
		6	津市(旧津市、旧久居市、旧河芸町、旧芸濃町、旧美里村、旧安濃町、旧香良洲町、旧一志町、旧白山町に限る。)、四日市市、伊勢市、松阪市、桑名市、鈴鹿市、尾鷲市、亀山市、鳥羽市、いなべ市(旧員弁町、旧大安町に限る。)、志摩市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町、多気町、明和町、大台町、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町
		7	熊野市、御浜町、紀宝町
	滋賀県	5	大津市、彦根市、長浜市、栗東市、甲賀市、野洲市、湖南市、高島市、東近江市、米原市、日野町、竜王町、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
		6	近江八幡市、草津市、守山市
	京都府	5	福知山市、綾部市、宮津市、亀岡市、京丹後市、南丹市、宇治田原町、笠置町、和束町、南山城村、京丹波町、与謝野町
		6	京都市、舞鶴市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、八幡市、京田辺市、木津川市、大山崎町、久御山町、井手町、精華町、伊根町
	大阪府	5	豊能町、能勢町
		6	大阪市、堺市、岸和田市、豊中市、池田市、吹田市、泉大津市、高槻市、貝塚市、守口市、枚方市、茨木市、八尾市、泉佐野市、富田林市、寝屋川市、河内長野市、松原市、大東市、和泉市、箕面市、柏原市、羽曳野市、門真市、摂津市、高石市、藤井寺市、東大阪市、泉南市、四條畷市、交野市、大阪狭山市、阪南市、島本町、忠岡町、熊取町、田尻町、太子町、河南町、千早赤坂村
		7	岬町
	兵庫県	4	香美町(旧村岡町、旧美方町に限る。)
		5	豊岡市、西脇市、三田市、加西市、丹波篠山市、養父市、丹波市、朝来市、宍粟市、加東市、猪名川町、多可町、市川町、神河町、上郡町、佐用町、新温泉町(旧温泉町に限る。)
		6	神戸市、姫路市、尼崎市、明石市、西宮市、洲本市、芦屋市、伊丹市、相生市、加古川市、赤穂市、宝塚市、三木市、高砂市、川西市、小野市、南あわじ市、淡路市、たつの市、稲美町、播磨町、福崎町、太子町、香美町(旧村岡町、旧美方町を除く。)、新温泉町(旧浜坂町に限る。)
	奈良県	3	野迫川村
		4	奈良市(旧都祁村に限る。)、五條市(旧大塔村に限る。)、曽爾村、御杖村、黒滝村、天川村、川上村
		5	生駒市、宇陀市、山添村、平群町、吉野町、大淀町、下市町、十津川村、下北山村、上北山村、東吉野村
		6	奈良市(旧都祁村を除く。)、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、五條市(旧大塔村を除く。)、御所市、香芝市、葛城市、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
	和歌山県	4	高野町
		5	田辺市(旧龍神村に限る。)、かつらぎ町(旧花園村に限る。)、日高川町(旧美山村に限る。)
		6	海南市、橋本市、有田市、田辺市(旧本宮町に限る。)、紀の川市、岩出市、紀美野町、かつらぎ町(旧花園村を除く。)、九度山町、湯浅町、広川町、有田川町、日高町、由良町、日高川町(旧川辺町、旧中津村に限る。)、上富田町、北山村
		7	和歌山市、御坊市、田辺市(旧龍神村、旧本宮町を除く。)、新宮市、美浜町、印南町、みなべ町、白浜町、すさみ町、那智勝浦町、太地町、古座川町、串本町
	鳥取県	4	若桜町、日南町、日野町
		5	倉吉市、智頭町、八頭町、三朝町、南部町、江府町
		6	鳥取市、米子市、境港市、岩美町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町、日吉津村、大山町、伯耆町
	島根県	4	飯南町、吉賀町
		5	益田市(旧美都町、旧匹見町に限る。)、雲南市、奥出雲町、川本町、美郷町、邑南町、津和野町
		6	松江市、浜田市、出雲市、益田市(旧益田市に限る。)、大田市、安来市、江津市、海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町
	岡山県	4	津山市(旧阿波村に限る。)、真庭市(旧湯原町、旧美甘村、旧川上村、旧八束村、旧中和村に限る。)、新庄村、西粟倉村、吉備中央町
		5	津山市(旧津山市、旧加茂町、旧勝北町、旧久米町に限る。)、高梁市、新見市、備前市、真庭市(旧北房町、旧勝山町、旧落合町、旧久世町に限る。)、美作市、和気町、鏡野町、勝安町、奈義町、久米南町、美咲町
		6	岡山市、倉敷市、玉野市、笠岡市、井原市、総社市、瀬戸内市、赤磐市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町
	広島県	3	廿日市市(旧吉和村に限る。)、
		4	庄原市(旧総領町、旧西城町、旧東城町、旧口和町、旧高野町、旧比和町に限る。)、安芸太田町、世羅町、神石高原町
		5	府中市、三次市、庄原市(旧庄原市に限る。)、東広島市、廿日市市(旧佐伯町に限る。)、安芸高田市、熊野町、北広島町
		6	広島市、呉市、竹原市、三原市、尾道市、福山市、大竹市、廿日市市(旧佐伯町、旧吉和村を除く。)、江田島市、府中町、海田町、坂町、大崎上島町

	地域区分	市区町村
近畿地方	山口県	5 下関市(旧豊田町に限る。)、萩市(旧むつみ村、旧福栄村に限る。)、美祢市
		6 宇部市、山口市、萩市(旧萩市、旧川上村、旧田万川町、旧須佐町、旧旭村に限る。)、防府市、下松市、岩国市、光市、長門市、柳井市、周南市、山陽小野田市、周防大島町、和木町、上関町、田布施町、平生町、阿武町
		7 下関市(旧豊田町を除く。)
四国地方	徳島県	5 三好市、上勝町
		6 徳島市、鳴門市、吉野川市、阿波市、美馬市、勝浦町、佐那河内村、石井町、神山町、那賀町、牟岐町、松茂町、北島町、藍住町、板野町、上板町、つるぎ町、東みよし町
		7 小松島市、阿南市、美波町、海陽町
	香川県	6 全ての市町
	愛媛県	4 新居浜市(旧別子山村に限る。)、久万高原町
		5 大洲市(旧肱川町、旧河辺村に限る。)、内子町(旧小田町に限る。)
		6 今治市、八幡浜市、西条市、大洲市(旧大洲市、旧長浜町に限る。)、伊予市、四国中央市、西予市、東温市、上島町、砥部町、内子町(旧内子町、旧五十崎町に限る。)、伊方町、松野町、鬼北町
		7 松山市、宇和島市、新居浜市(旧新居浜市に限る。)、松前町、愛南町
	高知県	4 いの町(旧本川村に限る。)、梶原町
		5 本山町、大豊町、土佐町、大川村、いの町(旧吾北村に限る。)、仁淀川町
		6 香美市、馬路村、いの町(旧伊野町に限る。)、佐川町、越知町、日高村、津野町、四万十町、三原村、黒潮町
		7 高知市、室戸市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、土佐清水市、四万十市、香南市、東洋町、奈半利町、田野町、安田町、北川村、芸西村、中土佐町、大月町
	福岡県	5 東峰村
		6 北九州市、大牟田市、久留米市、直方市、飯塚市、田川市、柳川市、八女市、筑後市、大川市、行橋市、豊前市、中間市、小郡市、筑紫野市、春日市、大野城市、宗像市、太宰府市、古賀市、福津市、うきは市、宮若市、嘉麻市、朝倉市、みやま市、糸島市、那珂川市、宇美町、篠栗町、須恵町、久山町、水巻町、岡垣町、遠賀町、小竹町、鞍手町、桂川町、筑前町、大刀洗町、大木町、広川町、香春町、添田町、糸田町、川崎町、大任町、赤村、福智町、苅田町、みやこ町、吉富町、上毛町、築上町
		7 福岡市、志免町、新宮町、粕屋町、芦屋町
	佐賀県	6 全ての市町
	長崎県	6 佐世保市、松浦市、対馬市、雲仙市(旧小浜町に限る。)、東彼杵町、川棚町、波佐見町、佐々町
		7 長崎市、島原市、諫早市、大村市、平戸市、壱岐市、五島市、西海市、雲仙市(旧小浜町を除く。)、南島原市、長与町、時津町、小値賀町、新上五島町
九州地方	熊本県	5 八代市(旧泉村に限る。)、阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇市、山都町、水上村、五木村
		6 八代市(旧坂本村、旧東陽村に限る。)、人吉市、荒尾市、玉名市、山鹿市、菊池市、合志市、美里町、玉東町、南関町、和水町、大津町、菊陽町、西原村、御船町、益城町、甲佐町、錦町、多良木町、湯前町、相良村、山江村、球磨村、あさぎり町
		7 熊本市、八代市(旧八代市、旧千丁町、旧鏡町に限る。)、水俣市、宇土市、上天草市、宇城市、天草市、長洲町、嘉島町、氷川町、芦北町、津奈木町、苓北町
	大分県	5 佐伯市(旧宇目町に限る。)、由布市(旧湯布院町に限る。)、九重町、玖珠町
		6 大分市(旧野津原町に限る。)、別府市、中津市、日田市、臼杵市、津久見市、竹田市、豊後高田市、杵築市、宇佐市、豊後大野市、由布市(旧挾間町、旧庄内町に限る。)、国東市、姫島村、日出町
		7 大分市(旧野津原町を除く。)、佐伯市(旧宇目町を除く。)
	宮崎県	5 椎葉村、五ヶ瀬町
		6 小林市、えびの市、高原町、西米良村、諸塚村、美郷町、高千穂町、日之影町
		7 宮崎市、都城市、延岡市、日南市、日向市、串間市、西都市、三股町、国富町、綾町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町
	鹿児島県	6 伊佐市、湧水町
		7 鹿児島市、鹿屋市、枕崎市、阿久根市、出水市、指宿市、西之表市、垂水市、薩摩川内市、日置市、曾於市、霧島市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市、三島村、十島村、さつま町、長島町、大崎町、東串良町、錦江町、南大隈町、肝付町、中種子町、南種子町、屋久島町
		8 奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、喜界町、徳之島町、天城町、伊仙町、和泊町、知名町、与論町
	沖縄県	8 全ての市町村



MEMO

## 住宅性能表示制度の概要

住宅性能表示は「住宅の品質確保の促進等に関する法律」の一部として施行され、住宅性能を契約の事前に比較できるよう新たに性能の表示基準を設定するとともに、客観的に性能を評価できる第三者機関を設置し、住宅の品質の確保を図っています。

- ① 構造耐力、遮音性、省エネルギー性などの住宅の性能を表示するための共通ルールを定め、住宅の性能を相互比較しやすくします。
- ② 住宅の性能評価を客観的に行う第三者機関（登録住宅性能評価機関）を整備し、表示される住宅の性能についての信頼性を確保します。
- ③ 登録住宅性能評価機関により交付された住宅性能評価書を添付して住宅の契約をかわした場合などは、その記載内容（住宅の性能）が契約内容とみなされます。

### 10分野のものさしで住宅の性能を表示します（専用住宅）

必須項目	選択項目	
<b>温熱環境・エネルギー消費量</b> <small>（省エネルギー対策）</small>	<b>高齢者等への配慮</b> <small>（高齢者等配慮対策等級）</small>	<b>音環境</b> <small>（重量床衝撃音対策等級）</small>
<b>構造の安定</b> <small>（耐震等級）</small>	<b>光・視環境</b> <small>（単純開口率）</small>	<b>火災時の安全</b> <small>（耐火等級）</small>
<b>劣化の軽減</b> <small>（劣化対策等級）</small>	<b>空気環境</b> <small>（ホルムアルデヒド発散等級）</small>	<b>防犯</b> <small>（開口部の侵入防止対策）</small>
<b>維持管理・更新への配慮</b> <small>（維持管理対策等級）</small>		

## 温熱環境・エネルギー消費量について

温熱環境については、断熱等性能等級と一次エネルギー消費量等級の2つで、性能表示。

### 断熱等性能等級

温熱環境・エネルギー消費量に関すること

等級7	【HEAT20 G3相当】
等級6	【HEAT20 G2相当】
等級5	【ZEH基準相当】
等級4	【省エネ基準相当】
等級3	【H4基準 <sup>※1</sup> 相当】
等級2	【S55基準 <sup>※2</sup> 相当】
等級1	【上記以外】

### 一次エネルギー消費量等級

等級6	【ZEH基準相当】
等級5	【誘導基準 <sup>※3</sup> 相当】
等級4	【省エネ基準相当】
等級1	【上記以外】

## 断熱等性能等級の基準値

外皮平均熱貫流率[W/(m<sup>2</sup>・K)]

等級	対象建築物の種類	地域区分							
		1	2	3	4	5	6	7	8
7	一戸建ての住宅	0.20	0.20	0.20	0.23	0.26	0.26	0.26	—
6		0.28	0.28	0.28	0.34	0.46	0.46	0.46	—
5	一戸建ての住宅及び共同住宅等	0.40	0.40	0.50	0.60	0.60	0.60	0.60	—
4		0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
3		0.54	0.54	1.04	1.25	1.54	1.54	1.81	—
2	共同住宅等	0.72	0.72	1.21	1.47	1.67	1.67	2.35	—
1		—	—	—	—	—	—	—	—

外皮平均日射熱取得率[—]

等級	対象建築物の種類	地域区分					
		1～4		5	6	7	8
7	一戸建ての住宅	—		3.0	2.8	2.7	—
6		—		3.0	2.8	2.7	5.1
5	一戸建ての住宅及び共同住宅等	—		3.0	2.8	2.7	6.7
4		—		3.0	2.8	2.7	6.7
3		—		4.0	3.8	4.0	—
2	共同住宅等	—		—	—	—	—
1		—		—	—	—	—

## 断熱等性能等級4～7における「結露の発生を防止する対策に関する基準」について

- ① グラスウール、ロックウール、セルローズファイバー等の繊維系断熱材、その他これらに類する透湿抵抗の小さい断熱材(※)を使用する場合にあっては、防湿層を設けられていること。  
(※) 透湿抵抗の小さい断熱材としては、吹付け硬質ウレタンフォームA種3などが該当します。  
高発泡倍率の現場発泡ウレタンには結露防止のために、防湿層の施工が必要です。
- ② 屋根又は外壁を断熱構造とする場合にあっては、断熱層の外気側への通気層の設置  
(断熱層に繊維系断熱材等を使用する場合にあっては、断熱層と通気層の間に防風層を併せて設置するものとする)

## ■防湿層の施工を省略できる条件(断熱等性能等級4～7)

1. 地域区分が8地域である場合(断熱等性能等級7の場合を除く)
2. コンクリート躯体又は土塗壁の外側に断熱層がある場合
3. 床断熱において、断熱材下側に床下に露出する場合又は湿気の排出を妨げない構成となっている場合
4. 断熱層が単一の材料で均質に施工され、透湿抵抗比が次の数値以上となる場合
5. 1～4と同等以上の結露の発生防止に有効な措置が講じられている場合

地域区分	1・2	3	4	5・6	7
屋根・天井	6		4	3	
その他の部位	5		3	2	

※左表の数値は断熱等性能等級4～7の場合

## ■通気層設置を省略できる条件

通気層の設置を省略できる条件	断熱等性能等級			
	7	6	5	4
1. 鉄筋コンクリート造等、躯体の耐久性能を損なうおそれのない場合	○	○	○	○
2. 防湿層の透湿抵抗が、次の地域で、次の数値以上の場合	4～7地域 0.144(m <sup>2</sup> ・s・Pa/ng)		3～7地域 0.082(m <sup>2</sup> ・s・Pa/ng)	
3. 3地域以南で、外気側にALCパネル又はこれと同等以上の断熱性及び吸湿性を有する材料を用いる場合で、防湿層の透湿抵抗が0.019m <sup>2</sup> ・s・Pa/ng以上の場合	—	—	○	○
4. 上表の透湿抵抗比を満たしている場合	○	○	○	○
5. 地域区分が8地域である場合	—	○	○	○
6. 1～5と同等以上の結露の発生防止に有効な措置が講じられている場合	○	○	○	○

防湿層の材料としては以下のものがあります。

防湿層を形成する防湿材の例(国交省監修『日本住宅性能表示基準・評価方法基準技術解説』)

	透湿抵抗[m <sup>2</sup> ・s・Pa/ng] (カッコ内[m <sup>2</sup> ・h・mmHg/g])	主な例示仕様
(ア)	0.029 (60)	防湿フィルムの材厚15μm 以上のもの
(イ)	0.082 (170)	防湿フィルムの材厚50μm 以上のもの(JIS A 6930に規定するA種と同等以上の透湿抵抗を有するもの)
(ウ)	0.144 (300)	防湿フィルムの材厚100μm 以上のもの(JIS A 6930に規定するB種と同等以上の透湿抵抗を有するもの)

# 建築基準法の防火関連基準の概略

## ■指定地域と構造制限

防火地域・準防火地域は都市計画法(第8、9条)により決定され、建築基準法第22条地域は知事または市町村長が指定し、この該当地域では原則として以下の制限があります。

### A 防火地域 (法61条)

1. 外壁の開口部で延焼の恐れのある部分  
→ 防火戸、その他の政令で定める防火装置を設ける、かつ、地域別並びに規模に応じた技術的基準に適合
2. 階数3以上、若しくは延べ面積100㎡超え  
→ 耐火建築物、または延焼防止建築物
3. 階数2以下で延べ面積100㎡以下  
→ 準耐火建築物、または準延焼防止建築物

### B 準防火地域 (法61条)

1. 外壁の開口部で延焼の恐れのある部分  
→ 防火戸、その他の政令で定める防火装置を設ける、かつ、地域別並びに規模に応じた技術的基準に適合
2. 地上4階以上、若しくは延べ面積1500㎡超え  
→ 耐火建築物、または延焼防止建築物
3. 地上3階で延べ面積1500㎡以下  
または地上2階以下で延べ面積500㎡を超え1500㎡以下  
→ 準耐火建築物、または準延焼防止建築物
4. 地上2階以下、延べ面積500㎡以下(木造、非木造)  
→ 施行令第136条の2の3号(木造)または4号(非木造)

### C 22条指定地域 (法22条)

1. 木造で可  
(但し、屋根→不燃、延燃のおそれのある部分の外壁、土塗壁同等以上の防火上有効な壁)
2. 準耐火木造三階建共同住宅  
(延べ3,000㎡以下)

### D その他の地域

1. 無制限  
(但し、木造は高さ→13m以下、軒高9m以下、延べ3,000㎡以下)
2. 政令による技術基準に適合するもの(大断面の木造建築物など)は高さ制限を外す。

## ■構造の種類

防火性能上の構造区分は以下の4種類があります。

### 耐火構造

通常の火災が終了するまで建築物の倒壊及び延焼を防止する性能を有する構造で、所定時間通常の火災による火熱が加えられた後も非損傷、遮熱、遮炎を有する、柱・壁・床などの建築物の各部分の構造をいいます。

1. 非損傷性 構造耐力上支障のある変形、溶融、破壊その他の損傷を生じない。
2. 遮熱性 加熱面(火災側)の反対側の面の温度が可燃物延焼温度以上に上昇しない。
3. 遮炎性 加熱面(火災側)の反対側の面に火災を出す原因となる亀裂その他の損傷を生じない。

### 準耐火構造

通常の火災による延焼を抑制する性能を有する構造で所定時間通常の火災による火熱が加えられている間、非損傷、遮熱、遮炎を有する、柱・壁・床などの建築物の各部分の構造をいいます。

### 防火構造

建物の周囲で発生する通常の火災による延焼を抑制する性能を有する外壁又は軒裏構造をいいます。

### 準防火構造

建物の周囲で発生する火災による延焼の通常の抑制に一定の効果を発揮する性能を有する、土塗壁もしくは、土塗壁と同等の防火性能を有する外壁構造です。

耐火構造認定、防火構造認定等を個別に取得している場合、断熱仕様変更の際には断熱性能以外に断熱材の「密度」や「厚さ」の指定が無いかをご確認ください。



# 耐火、準耐火、防火構造の認定

断熱材の種類によっては使えない場合があります。詳しくはお問合せ下さい。

## ■ 防火地域指定による構造制限

	用途	戸建住宅						共同住宅				
地域	延べ床面積 階数	0～	100～	500～	1000～	1500～	3000～	0～	100～	500～	1500～	3000～
防火地域	3階建	耐火構造(法61条)					耐火構造 (法21条)	耐火構造(法61条)				耐火構造 (法21条)
	2階建											
準防火地域	3階建	技術的基準適合建築物 (準防火3戸) (法61条、令136条の2)	準耐火構造 (法61条)		耐火構造 (法61条)	耐火構造 (法21条)	木造3階建共同住宅仕様 (法27条、告255号)			耐火構造 (法61条)	耐火構造 (法21条)	
	2階建	外壁・軒：防火構造 (法61条) 屋根：(法62条)					外壁：防火構造 (法61条) 屋根：(法62条)	準耐火構造 (法27条) <sup>※2</sup>	準耐火構造 (法61条)			
22条地域	3階建	屋根：(法22条) 外壁：準防火構造 <sup>※1</sup> (法23条)			外壁：防火構造(法25条) 屋根(法25条)		耐火構造 (法21条)	木造3階建共同住宅仕様(法27条、告255号)				耐火構造 (法21条)
	2階建							屋根：(法22条) 外壁：準防火構造 <sup>※1</sup> (法23条)		外壁：防火構造 <sup>※1</sup> (法25条) 屋根：(法25条)		

※1 延焼のおそれのある部分の構造を準耐火構造 ※2 2階床面積 300㎡以上(法27条) ※3 延べ床面積 1000㎡以上

それぞれの構造において、グラスウールの使用が広く認められています。

構造の種類	認定の種類	番号	構造材として用いる場合のグラスウールの仕様
耐火構造	法定(告示) <sup>※1</sup>	第1399号(H12年)	—
準耐火構造	法定(告示) <sup>※1</sup>	第1358号(H12年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●外壁 屋内側 10K以上 50mm以上</li> <li>[間柱・下地：木材、屋外防火被覆：鉄網軽量モルタル15mm以上]</li> <li>●床・はり・階段・屋根 24K以上 50mm以上</li> </ul>
省令準耐火構造	住宅金融支援機構		界壁 20K以上-25mm以上 界床 24K以上-50mm以上 上階に床がある部分の天井 24K以上-50mm以上、 又は 10K以上-100mm以上
防火構造	法定(告示) <sup>※1</sup>	第1359号(H12年)	<b>【外壁】</b> ●屋内 75mm以上 ●屋内 10K以上 50mm以上(下記の場合) [間柱・下地：木材、屋外防火被覆：鉄網軽量モルタル15mm以上] [間柱・下地：木材又は鉄材、屋外防火被覆：窯業系サンディング15mm以上]
準防火構造	法定(告示) <sup>※1</sup>	第1362号(H12年)	外壁 75mm以上充填
界壁の遮音構造	法定(告示) <sup>※1</sup>	第1827号(S45年)	界壁間仕切 20K以上 25mm以上 天井裏に界壁を設けない場合、天井16K以上 100mm以上

※1 国土交通省が例示・告示した仕様。

# 省令準耐火構造の住宅について

省令準耐火構造は(独)住宅金融支援機構の融資等に特有の構造で、建築基準法に定める準耐火構造とは異なります。省令準耐火構造の住宅は、建築基準法で定める準耐火構造に準ずる耐火性能を持つもので、建築基準法上は木造住宅の扱いとなりますが、フラット35Sや(独)住宅金融支援機構の融資を利用される場合は、準耐火構造の住宅の扱いとなるため火災保険料<sup>※1</sup>が一般の木造住宅より大幅に割安になります。

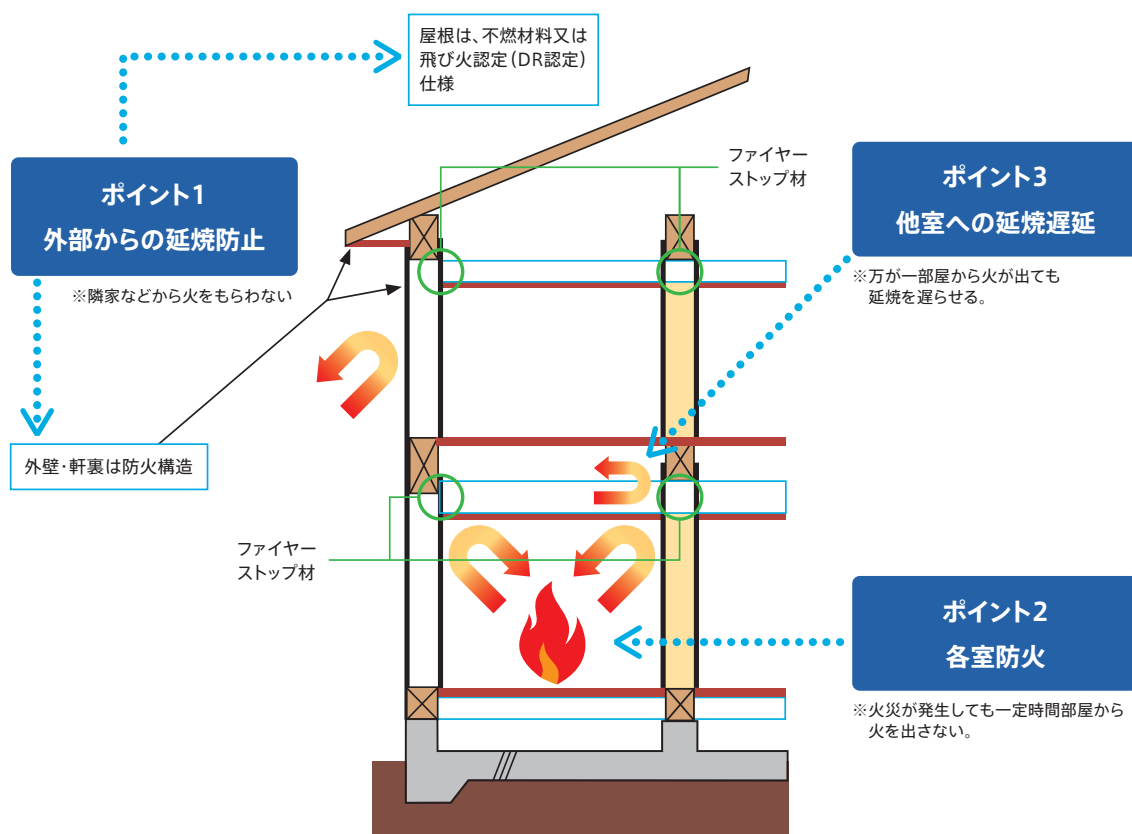
※1 保険料については地域や保険会社によってこととなりますので、詳細は保険会社にご確認ください。

## 省令準耐火構造の住宅の主なポイント

1. 外部からの延焼防止(外壁・軒裏は防火構造、屋根は不燃材料等<sup>※2</sup>)
2. 各室防火(天井、内部壁は15分耐火)
3. 他室への延焼遅延(ファイヤーストップ材及び防火被覆材の設置<sup>※3</sup>)

※2 屋根は不燃材料又は建築基準法施行令第136条の2の2第1号及び第2号に基づく屋根防火に関する大臣認定(飛び火認定)仕様

※3 火災の通り道となる壁と壁の取り合い部や壁と天井の取り合い部にファイヤーストップ材(グラスウール密度24K以上、厚み50mm以上、グラスウール密度10K以上厚み100mm以上がファイヤーストップ材として使用できます)を設置します。

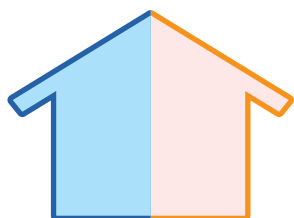


省令準耐火構造の屋根に飛び火認定を取得している屋根材“リッジウェイ”をお勧めします。  
(屋根飛び火試験認定番号: DR-2041(1))

※詳細はカタログ及び設計・施工マニュアルをご参照ください。

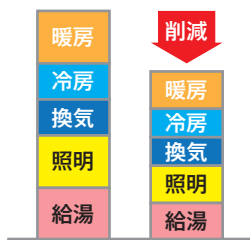
年間で消費する住宅のエネルギー量が正味で概ねゼロ以下

エネルギーを極力必要としない  
(夏は涼しく、冬は暖かい住宅)



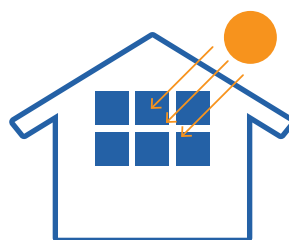
+

エネルギーを上手に使う



+

エネルギーを創る

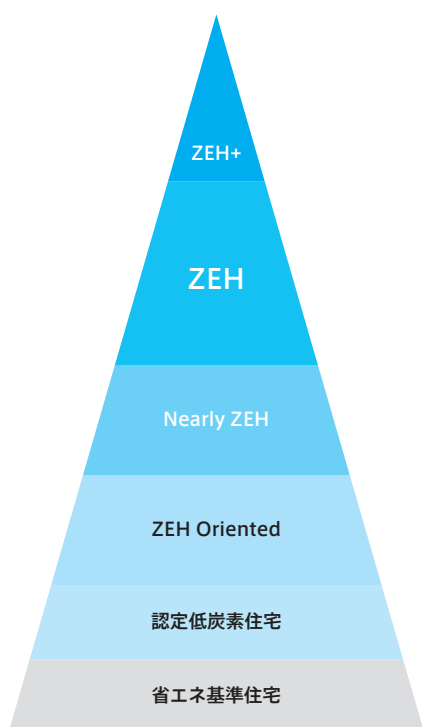


## ■ZEHの判断基準 ※資源エネルギー庁 省エネルギー課

以下の①～④のすべてに適合した住宅

- ① ZEH強化外皮基準(地域区分1～8地域の平成28年省エネルギー基準( $\eta_{AC}$ 値、気密・防露性能の確保等の留意事項)を満たした上で、 $U_A$ 値[W/( $m^2 \cdot K$ )] 1・2地域: 0.40以下、3地域: 0.50以下、4～7地域: 0.60以下)。
- ② 再生可能エネルギー等を除き、基準一次エネルギー消費量から20%以上の一次エネルギー消費量削減。
- ③ 再生可能エネルギーを導入(容量不問)。
- ④ 再生可能エネルギー等を加えて、基準一次エネルギー消費量から100%以上の一次エネルギー消費量削減。

外皮性能基準	1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域	8地域
$U_A$ 値 [W/( $m^2 \cdot K$ )]	0.4以下		0.5以下	0.6以下			—	
$\eta_{AC}$ 値 [-]	—	—	—	—	3.0以下	2.8以下	2.7以下	6.7以下



### ZEH+ (ゼッチ・プラス/ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス・プラス)

『ZEH』の要件を満たし、さらに以下の追加要件を満たす住宅。

- I. 更なる省エネルギーの実現
- II. 売電のみを前提とせず、自家消費を意識した再生可能エネルギー等の促進に係る措置の実施

### ZEH (ゼッチ/ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)

外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギー等により年間の一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの住宅。

### Nearly ZEH (ニアリー・ゼッチ/準ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)

『ZEH』を見据えた先進住宅として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備え、再生可能エネルギー等により年間の一次エネルギー消費量をゼロに近づけた住宅。

### ZEH Oriented (ゼッチ・オリエンテッド/ゼロ・エネルギー・ハウス指向型住宅)

『ZEH』を指向した先進的な住宅として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた住宅。都市部狭小地及び多雪地域に建築される場合に限り、ZEH及びNearly ZEHと並んで広義のZEHの概念に含まれる。

ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス (ZEH)

■ZEH支援事業(2025年度)

申請対象者		●新築住宅を建築・購入する個人						●新築住宅の販売者となる法人		
分類・通称	戸建住宅						その他要件		補助額	
	断熱外皮基準U <sub>A</sub> 値				一次エネルギー消費量 削減率		その他要件・備考			
	地域区分									
	1・2	3	4	5-7	省エネのみ	再エネ等含む				
『ZEH』					20%以上	100%以上	再生可能エネルギーを導入 (容量不問。全量売電を除く) すること。		55万円/戸	
Nearly ZEH	断熱等性能等級5以上					75%以上 100%未満				
ZEH Oriented	0.40 以下	0.50 以下	0.60 以下			—				下表の対象地域に該当する。 再生可能エネルギー未導入も可。
『ZEH+』					30%以上	100%以上	再生可能エネルギーを導入 (容量不問。全量売電を除く。) することに加え、※のうち1項目 以上を満たす。		90万円/戸	
Nearly ZEH+	0.28 以下		0.34 以下	0.46 以下		75%以上 100%未満				
ZEH Oriented 対象地域 (右記のいずれかの地域該当する)					・多雪地域(建築基準法で規定する垂直積雪量が100cm以上に該当する地域) ・都市部狭小地等(北側斜線制限の対象となる用途地域等(第一種及び第二種低層住居専用地域、 第一種及び第二種中高層住居専用地域並びに地方自治体の条例において北側斜線規制が定められている地域) であって、敷地面積が8㎡未満である土地。ただし、住居が平屋建ての場合は除く。)					
※ZEH+の追加要件については、次の2要素のうち少なくとも1つ以上を満たすこととする。										
① 再生可能エネルギーの自家消費の拡大措置 以下より1つ以上を措置すること。										② 高度エネルギーマネジメント
1).初期実行容量5kWh以上の蓄電システム    4).昼間に沸き上げをシフトする機能を有する給湯器										
2).PVTシステム    5).電気自動車(PHEVを含む)の充電設備又は充放電設備										
3).太陽熱利用システム										

上記は、一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)発行「2024年の経済産業省と環境省のZEH補助金について」に基づき作成。

■新ZEHの定義見直し(案)2027年度以降適用開始予定

	戸建住宅						その他要件		
	断熱外皮基準U <sub>A</sub> 値				一次エネルギー消費量 削減率		設備要件	その他要件・備考	
	地域区分								
	1・2	3	4	5・7	省エネのみ	再エネ等含む			
GX ZEH+					35%以上	115%以上	【必須】 ・高度エネルギー マネジメント ・蓄電池 (太陽光発電を 設置する場合のみ)  【推奨】 ・EV充電/ 充放電設備 ・再エネ導入 (Orientedのみ)	再生可能エネルギーを導入 (容量不問。全量売電を除く) すること。	
GX ZEH	断熱等性能等級6以上					100%以上 115%未満			
Nearly GX ZEH	0.28 以下		0.34 以下	0.46 以下		75%以上 100%未満		—	下表の対象地域に該当する。 再生可能エネルギー未導入 も可。
GX ZEH Oriented									
ZEH Oriented 対象地域 (右記のいずれかの地域該当する)					・多雪地域(建築基準法で規定する垂直積雪量が100cm以上に該当する地域) ・都市部狭小地等(北側斜線制限の対象となる用途地域等(第一種及び第二種低層住居専用地域及び第二種中高層住居専用地域、田園住居地域並びに地方自治体の条例において北側斜線規制が定められている地域)であって、敷地面積が85㎡未満である土地。ただし、住居が平屋建ての場合は除く。)				

●定義見直しのスケジュールイメージ(新築住宅の場合) ※2025年6月現在

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	～
GX ZEHシリーズ								新ZEH
現行ZEH								現行ZEH

上記は、2025年5月ZEH・ZEH-M委員会、「ZEH・ZEH-Mの普及促進に向けた今後の検討の方向性について」に基づき作成。



長期優良住宅の認定基準

長期優良住宅(新築)の認定基準[概要]						
性能項目等	新築基準の概要			一戸建て の住宅	共同住宅 等	
劣化対策	劣化対策等級(構造躯体等) <b>等級3</b> かつ構造の種類に応じた基準			○	○	
	木造	床下空間の有効高さ確保及び床下・小屋裏の点検口設置など				
	鉄骨造	柱、梁、筋かいに使用している鋼材の厚さ区分に応じた防錆措置 または 上記木造の基準				
	鉄筋コンクリート造	水セメント比を減ずるか、かぶり厚さを増す				
耐震性	次のいずれかに該当する場合 耐震等級(倒壊等防止) <b>等級2</b> (階数が2以下の木造建築物等で壁量計算による場合にあっては <b>等級3</b> ) 耐震等級(倒壊等防止) <b>等級1</b> かつ 安全限界時の層間変形を1/100(木造の場合1/40)以下 耐震等級(倒壊等防止) <b>等級1</b> かつ 各階の張り間方向及びけた行方向について所定の基準に適合するもの (鉄筋コンクリート造等の場合に限る) 品確法に定める免震建築物			○	○	
維持管理・ 更新の容易性	維持管理対策等級(専用配管) <b>等級3</b>			○	○	
	共同住宅等のみ適用	・維持管理対策等級(共用配管) <b>等級3</b> ・更新対策(共用排水管) <b>等級3</b>				
可変性	躯体天井高さ 2,650mm 以上 ただし、認定対象住戸が区分所有住宅以外の共同住宅等である場合は、専用配管の設置が可能な床下空間 その他の当該認定対象住戸の可変性の確保に有効な空間の高さを含む。			—	○ 共同住宅及び 長屋に適用	
バリアフリー性	高齢者等配慮対策等級(共用部分) <b>等級3</b> ※一部の基準を除く			—	○	
省エネルギー性	断熱等性能等級 <b>等級5</b> 及び 一次エネルギー消費量等級 <b>等級6</b>			○	○	
居住環境	地区計画、景観計画、条例によるまちなみ等の計画、建築協定、景観協定等の区域内に ある場合には、これらの内容と調和を図る。 ※申請先の所轄行政庁に確認が必要			○	○	
住戸面積	一戸建ての住宅	75㎡以上	共同住宅等	40㎡以上	○	○
	※地域の実情を勘案して所管行政庁が別に基準を定める場合は、その面積要件を満たす必要がある。 ※令和4年10月1日施行(予定)					
維持保全計画	以下の部分・設備について定期的な点検・補修等に関する計画を策定			○	○	
	・住宅の構造耐力上主要な部分 ・住宅の雨水の浸入を防止する部分 ・住宅に設ける給水又は配水のための設備 〔法令で定めるものについて仕様並びに点検の項目及び時期を設定〕					
災害配慮	災害発生のリスクのある地域においては、そのリスクの高さに応じて、所管行政庁が定めた措置を講じる。 ※申請先の所管行政庁に確認が必要			○	○	

※具体的な内容は「長期使用構造等とするための措置および維持保全の方法の基準」[平成21年2月24日 国土交通省告示第209号(最終改正:令和6年7月5日 国土交通省告示第1001号)]をご確認ください。

長期優良住宅普及促進税制(新築)

住宅ローン減税	2024年1月1日～ 2025年12月31日に入居	控除対象借入限度額 <b>4,500万円</b> ※、控除率0.7%、 13年間で最大 <b>409.5万円</b> の所得税額控除 ※子育て世帯・若者夫婦世帯で2024年1月1日～同年12月31日に入居した場合:借入限度額5,000万円(最大控除額455万円)
投資減税型の 特別控除	2024年1月1日～ 2025年12月31日に入居	標準的な性能強化費用相当額(上限 <b>650万円</b> )の <b>10%</b> 相当額をその年の 所得税額から控除(標準的な性能強化費用相当額の㎡単価を45,300円とする。)
登録免許税	2027年3月31日までに取得	所有権の保存登記 登記に係る税率 <b>0.1%</b> (一般住宅は0.15%) 所有権の移転登記 登記に係る税率 戸建 <b>0.2%</b> 、マンション <b>0.1%</b> (一般住宅は0.3%)
不動産取得税	2026年3月31日までに取得	課税額の控除額が <b>1,300万円</b> (一般住宅は1,200万円)
固定資産税	2026年3月31日までに取得	戸建は <b>5年間</b> 、マンションは <b>7年間</b> (一般住宅戸建は3年間、マンションは5年間) 税額 <b>1/2</b> 軽減

2024年9月現在

認定の流れ



# 低炭素建築物認定制度

## ■低炭素建築物とは

低炭素建築物とは、二酸化炭素の排出の抑制に資する建築物で、所管行政庁（都道府県、市又は区）が認定を行うものです。低炭素建築物は、平成24年12月に施行された「都市の低炭素化の促進に関する法律」（エコまち法）の中で、低炭素住宅の認定制度としてスタートしました。

2022年10月より、2030年に向けて、建築物省エネ法に基づく建築物エネルギー消費性能誘導基準及びエコまち法に基づく低炭素建築物の認定基準において求める省エネ性能の水準を、ZEH・ZEB（ZEB Oriented）水準の省エネ性能（再生可能エネルギーを除く）に引き上げる。

## ■低炭素建築物の基準

【市街化区域等の住宅・建築物に適用】

必須項目

【非住宅】

用途	一次エネ (BEI)	外皮 (BPI: PAL*)
事務所等、学校等、工場等	0.6 <sup>※1</sup>	1.0
ホテル等、病院等、百貨店等、飲食店等、集会所等	0.7 <sup>※1</sup>	1.0

【住宅】

地域区分		1・2	3	4	5	6	7	8
外皮基準	U <sub>A</sub> 値	0.4	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	—
	η <sub>AC</sub> 値	—	—	—	3.0	2.8	2.7	6.7
一次エネ基準		0.8 <sup>※1</sup>						

※1 太陽光発電設備を除き、コージェネレーション設備の発電量のうち自家消費分を含む。

再生可能エネルギー利用設備が設けられていること

住宅（一戸建て）	省エネ量＋創エネ量(再エネ)の合計が基準一次エネルギーの <b>50%</b> 以上であること <sup>※2</sup>
住宅（共同）	再生可能エネルギー利用設備が設けられていること
非住宅	再生可能エネルギー利用設備が設けられていること

+

選択項目	低炭素化に資する措置をする。（9項目から1項目を選択）		5.一定のヒートアイランド対策（屋上、壁面の緑化等）の実施
	1. 節水に資する機器（便器・水栓など）の設置		6. 住宅性能表示における劣化対策等級取得
	2. 雨水、井戸水又は雑排水利用のための設備の設置		7. 木造住宅 又は 木造建造物であること
	3. HEMS 又は BEMSの設置		8. 高炉セメント又はフライアッシュセメントの使用
	4. 再生可能エネルギーと連系した蓄電池の設置		9.V2H充放電設備の設置 <sup>※3</sup>

※2 家電等その他一次エネルギー消費量は除く。

※3 電気自動車に充電可能とする設備を含む。

上記9項目から1項目が適合していることを確認する。  
または、建築物の総合的な環境性能評価を行い、標準的な建築物と比べて低炭素化に資する建築物であること。  
（例えば、CASBEEによる評価でAランク以上を取得したものなど、所管行政庁が認めるもの）を確認する。

## ■低炭素建築物の優遇措置

低炭素建築物認定制度で認定を取得した住宅や建築物は、減税や住宅ローン金利引き下げ等の優遇措置が受けられます。戸建住宅および共同住宅等の住戸ごとに認定を受けた場合は住宅ローン減税等の優遇措置があり、住戸を含む建築物（非住宅部分含む）全体として認定を受けた場合は、容積率緩和の優遇があります。

低炭素建築物の減税措置（新築）

住宅ローン減税	2024年1月1日～2025年12月31日に入居	控除対象借入限度額 <b>4,500万円</b> <sup>※</sup> 、控除率0.7%、13年間で最大 <b>409.5万円</b> の所得税額控除 <small>※子育て世帯・若者夫婦世帯で2024年1月1日～同年12月31日に入居した場合：借入限度額5,000万円（最大控除額455万円）</small>	
投資減税型の特別控除	2024年1月1日～2025年12月31日に入居	標準的な性能強化費用相当額（上限 <b>650万円</b> ）の <b>10%</b> 相当額をその年の所得税額から控除 （標準的な性能強化費用相当額の㎡単価を45,300円とする。）	
登録免許税	2027年3月31日までに取得	所有権の保存登記	登記に係る税率 <b>0.1%</b> （一般住宅は0.15%）
		所有権の移転登記	登記に係る税率 <b>0.1%</b> （一般住宅は0.3%）

2024年9月現在

容積率の不算入	低炭素化に資する設備（再生利用可能エネルギーと連系した蓄電池、コージェネレーション設備等）について、通常の建築物の床面積を超える部分は、容積率算定時の延べ面積に算入されません。（延べ面積の1/20が限度）
---------	--

## ■性能向上計画認定とは

建築物省エネ法第30条に係る建築物エネルギー消費性能向上計画の認定が誘導基準に適合している旨を所管行政庁が認定を行うもので、住宅及び非住宅のいずれの用途でも受け付けが可能となっています。

なお、令和元年5月17日に公布された改正建築物省エネ法の施行に伴い、令和元年11月16日より複数の住宅・建築物の連携による申請も可能となりました。

## 【認定対象】

1. 建築物の新築
2. 建築物の増築、改築、修繕若しくは模様替え
3. 空気調和設備の設置・改修

## 認定基準

1. 誘導基準に適合 ※エネルギー消費性能基準を超えるものとして、経済産業省令・国土交通省令で定める基準 ⇒ 2022年10月～[ZEH基準]
2. 計画に記載された事項が基本方針に照らして適切であること
3. 資金計画が適切であること

## 【容積率特例】

新築及び省エネ改修(増築・改築、修繕・模様替え、空気調和設備等の設置・改修)を行う場合に、省エネ基準の水準を超える誘導基準等に適合していると所管行政庁の認定が受けられ、認定を受けた改修工事については、容積率の特例が受けられます。

2019年11月に建築物省エネ法が改正され、容積率特例の対象が拡大されました。

今までは、単棟の住宅・建築物の省エネ性能向上の取組を想定してましたが、複数の住宅・建築物の連携による省エネ性能向上の取組についても、容積率の特例が適用されます。

## 容積率特例 対象設備

省エネ性能向上のための設備について、通常の建築物の床面積を超える部分を不算入(床面積の10%が上限)

<対象設備(イメージ)>

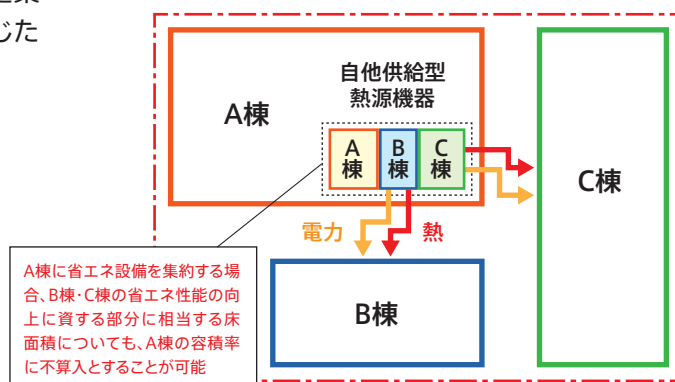
- |               |                                   |
|---------------|-----------------------------------|
| ①太陽熱集熱設備      | ⑤地域熱供給設備                          |
| ②太陽光発電設備      | ⑥ヒートポンプ式熱源措置と併せて設ける蓄熱設備           |
| ③燃料電池設備       | ⑦蓄電池設備(再生利用可能エネルギー発電設備と連携するものに限る) |
| ④コージェネレーション設備 |                                   |

- 複数建築物の認定制度に基づく認定を受ける場合には、申請建築物から熱や電力の供給を受ける建築物の省エネ性能を評価するにあたり、申請建築物に設置された個別の熱源・電源の性能に応じた評価ができることとする。

※詳しくは、「改正建築物省エネ法の各措置の内容とポイント  
3-5.性能向上計画認定制度」をご参照ください。

複数の住宅・建築物の連携による省エネ性能向上の  
取り組みに係わる容積率特例のイメージ

複数建築物の認定制度における認定対象の範囲



## ■【フラット35】とは

【フラット35】は、民間金融機関と住宅金融支援機構が提携して実現した長期固定金利の住宅ローンです。お借入れ時に返済終了までの返済額が確定し、返済途中で金利が変わらないため、計画的な返済を行うことができます。また、新築住宅における【フラット35】は、2023年4月に省エネ基準（断熱等性能等級4以上かつ一次エネルギー消費等級4以上）への適合が求められることになりました。詳細につきましては【フラット35】のウェブサイト(<https://www.flat35.com/>)をご覧ください。

## ■【フラット35】Sについて

【フラット35】Sとは、【フラット35】を申し込まれた方が、所定の性能以上の住宅を取得する場合に【フラット35】の借入金利を一定期間引き下げる制度です。

### 【フラット35】Sの基準

新築住宅	区分	省エネルギー性	耐震性	バリアフリー性	耐久性・可変性
	ZEH	『ZEH』等住宅	設定なし		
	金利Aプラン	断熱等級5以上 &一次エネ等級6	耐震等級3 or 免振建築物	高齢者配慮対策等級4以上 (共同建て住宅の専用部分は等級3も可)	長期優良住宅
	金利Bプラン	一次エネ等級6 or 断熱等級5以上	耐震等級2	高齢者配慮対策等級3以上	劣化対策等級3 & 維持管理対策等級2以上等

※ 土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)内で新築住宅を建設または購入する場合、【フラット35】Sおよび【フラット35】維持保全型はご利用いただけません。

### 【フラット35】S (ZEH)の基準

戸建	区分	断熱等性応	一次エネルギー消費量(対省エネ基準)		耐久性・可変性
			再エネ除く	再エネ含む	
	『ZEH』	外皮強化基準 【断熱等性能等級5相当】	▲20%以上	▲100%以上	—
	Nearly ZEH			▲75%以上▲100%未満	寒冷地、低日射地域、多雪地域
	ZEH Oriented			(再エネの導入は必要ない)	都市部狭小地、多雪地域

## ■【フラット35】の金利引き下げプラン

詳しくはWEBサイトをご覧ください。



# 住宅防音工事(民防工事)概要

国では、「防衛施設周辺の住宅環境の整備等に関する法律」に基づき、自衛隊や在日米軍の飛行場の運用に伴う航空機による騒音の障害を防止又は軽減するために、住宅に対して防音工事の助成を行っています。限度額が設けられていますが、住宅防音工事に係る費用は原則として100%補助となります。

## ■ 住宅防音工事の内容

防衛省の定めた「住宅防音工事標準仕方書」により防音工事を行います。

住宅防音工事標準仕方書

5章 内外装工事

5.1.2 材料

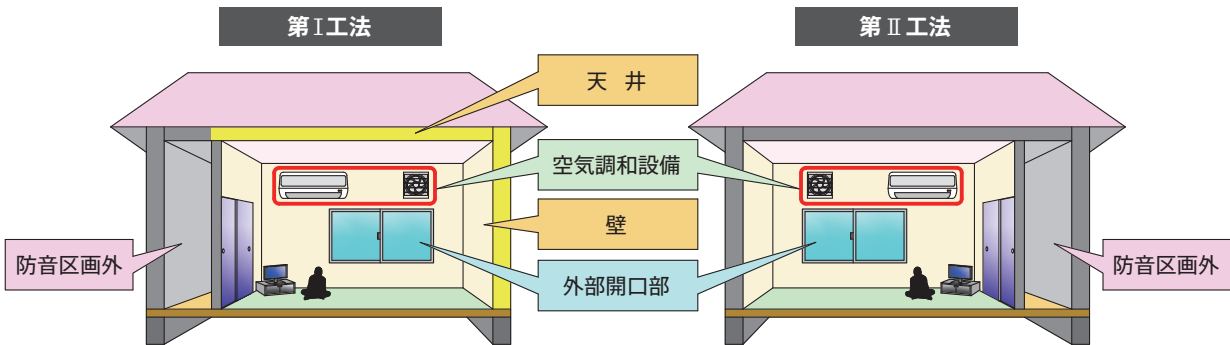
(2) 吸音材

ア ロックウール吸音材は、JIS A 6301 (吸音材料) の規格品とし、種類は、ロックウール吸音フェルトとする。

イ グラスウール吸音材は、JIS A 6301 (吸音材料) の規格品とし、種類は、グラスウール吸音フェルト(16K)とする。

※「1章 防音工事 1.4.1 工法」における標準工法では外壁面、天井面における吸音材は厚さ100mmが採用されています。

※住宅防音工事標準仕方書は防衛省のホームページで確認できます。



区 分		第I工法	第II工法
施工対象区域		80WECPNL以上の第一種区域	75WECPNL以上80WECPNL未満の第一種区域
計画防音量		25dB以上	20dB以上
工事内容	屋 根	既存のまま	既存のまま
	天 井	既存天井の一部を撤去し、防音天井に改造	原則として既存のまま。 ただし、著しく防音上有害な亀裂、隙間等がある場合は有効な防音工事を実施
	壁	既存壁を撤去し、防音壁に改造	
	外部開口部	防音サッシ(第I工法用)の取付	防音サッシ(第II工法用)の取付
	内部開口部	原則として既存のまま。ただし、襖、障子等についてはフラッシュ戸等に交換	
	床	原則として既存のまま	
	空気調和設備	換気装置及び冷暖房機等の設置 (換気装置は、防音工事を行う隣り合う2居室が引き戸で区切られている場合は2室で1台) (冷暖房機は、第I工法の場合最大4台まで、第II工法の場合最大2台まで)	
	その他	防音工事に伴う必要な工事	

※対象区域、工法についてはお近くの防衛局にお問合せください。

住宅防音工事には、JIS A 6301:吸音材料の認証製品である  
"マットエースHG16K-100mm"をお勧めします。

※詳細は担当営業にお問合せください。

# 断熱改修補助金

国の補助制度として、省エネ・省CO<sub>2</sub>性能が高い建材を用いた断熱改修を支援しています。

## 令和7年度 環境省 補助事業

事業名		二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 【既存住宅における断熱リフォーム支援事業】		
住宅区分	戸建住宅	集合住宅		
		(個別)	(全体)	
トータル断熱	事業内容	高性能建材などを用いた既存住宅の断熱リフォーム		
	補助対象となる申請者	個人の所有者または、個人の所有予定者 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)		管理組合等の代表者、賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)
	補助対象となる製品	高性能建材 (断熱材、窓、ガラス+玄関ドア)		高性能建材 (断熱材、窓、ガラス+玄関ドア+共用部LED)
		家庭用蓄電システム 家庭用蓄熱設備 熱交換型換気設備等 EV充電設備	熱交換型換気設備等	—
	補助率	補助対象経費の1/3 以内		
	補助金額(上限額)	1住戸当たり120万円 (玄関ドア5万円を含む) + 家庭用蓄電システム:20万円 家庭用蓄熱設備:20万円 熱交換型換気設備等:5万円 EV充電設備:5万円	1住戸当たり15万円 (玄関ドアも改修する場合は) 1住戸当たり20万円 + 熱交換型換気設備等:5万円	1住戸当たり15万円 (玄関ドアも改修する場合は) 1住戸当たり20万円 ※上記上限額にLED補助金を含む
	申請要件	・常時居住する専用住宅であること。 ※賃貸住宅(社宅を含む)も対象 ・店舗・事務所等との併用は不可とする。		
申請要件の詳細は 北海道環境財団の ウェブサイトに掲載 の公募要領を ご参照ください。		交付申請後に所有を予定している場合は、 完了時に登記事項証明書の写しを提出すること。		・当該集合住宅の全戸を改修すること。 ・改修について当該集合住宅の管理 組合総会等での承認決議を得ること。
居間だけ断熱	事業内容	居間を中心とした高性能建材などを用いた既存住宅の断熱リフォーム		
	補助対象となる申請者	個人の所有者または、個人の所有予定者 賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)		管理組合等の代表者、賃貸住宅の所有者(個人・法人どちらでも可)
	補助対象となる製品	高性能建材 (窓+玄関ドア)		高性能建材 (窓+玄関ドア+共用部LED)
		家庭用蓄電システム 家庭用蓄熱設備 熱交換型換気設備等 EV充電設備	熱交換型換気設備等	—
	補助率	補助対象経費の1/3 以内		
	補助金額(上限額)	1住戸当たり120万円 (玄関ドア5万円を含む) + 家庭用蓄電システム:20万円 家庭用蓄熱設備:20万円 熱交換型換気設備等:5万円 EV充電設備:5万円	1住戸当たり15万円 (玄関ドアも改修する場合は) 1住戸当たり20万円 + 熱交換型換気設備等:5万円	1住戸当たり15万円 (玄関ドアも改修する場合は) 1住戸当たり20万円 ※上記上限額にLED補助金を含む
	申請要件	・常時居住する専用住宅であること。 ※賃貸住宅(社宅を含む)も対象 ・店舗・事務所等との併用は不可とする。		
申請要件の詳細は 北海道環境財団の ウェブサイトに掲載 の公募要領を ご参照ください。		・居間は必ず改修すること。 ・交付申請後に所有を予定している場合は、 完了時に登記事項証明書の写しを提出すること。		・当該集合住宅の全戸を改修すること。 ・改修について当該集合住宅の管理組合 総会等での承認決議を得ること。

※ 詳細につきましては公益財団法人北海道環境財団のウェブサイト(<https://www.heco-hojo.jp/danref/index.html>)をご参照ください。



P.111以降の【補助金・税制など】  
最新情報につきましては、  
下記二次元コードよりご確認ください。



<https://x.gd/O4KHB>

## 代理店様からのご注文に関してはこちらへ

営業時間 9:00～12:00/13:00～17:30 (平日のみ)

※個人のお客様はお近くの工務店、ハウスメーカー様にご相談ください。

### ご注文専用FAX

断熱材	
北海道	0120-726-371
東北	0120-726-372
東京・神奈川・千葉・山梨・静岡(東部)	0120-726-370
埼玉・群馬・栃木・茨城・新潟・長野	0120-726-390
建築・設備(関東)、産業(GW)	0120-726-384
中部・東海・北陸	0800-222-3692
近畿	0800-222-3691
中国・四国	0120-726-373
九州	0120-726-380
シングル(屋根材)	
全国共通	0120-726-351

### 納期確認・在庫照会TEL

断熱材	
北海道	0120-778-354
東北	0120-778-362
東京・神奈川・千葉・山梨・静岡(東部)	0120-778-311
埼玉・群馬・栃木・茨城・新潟・長野	0120-778-324
建築・設備(関東)、産業(GW)	0120-778-370
中部・東海・北陸	0800-222-3689
近畿	0800-222-3596
中国・四国	0120-778-359
九州	0120-778-364
シングル(屋根材)	
全国共通	0120-778-659

## 製品に関するお問合せはこちらへ

TEL. 0120(99)6388

FAX. 0467(74)1761

な ん で も  
E-mail: nandemo@afgc.co.jp

営業時間 9:00～12:00/13:00～17:30 (平日のみ)

インターネットでグラスウールの役立つ情報をご覧になれます。

旭ファイバーグラス(株) ホームページ …… <https://www.afgc.co.jp>

硝子繊維協会ホームページ …… <https://www.glass-fiber.net>

- 本カタログに掲載されている製品仕様およびデザインは改良のため、予告なく変更することがあります。
- 製品等の色は印刷により実際の物と若干異なる場合があります。
- その他記載の社名、製品名は各社の商標もしくは登録商標です。



旭ファイバーグラス(株)  
ホームページ

最新の情報につきましては、当社Webカタログをご参照ください。  
設計価格は税抜価格です。北海道、沖縄および離島は別途の価格設定となります。

快適の未来へ <https://www.afgc.co.jp>

ISO 9001-14001 認証取得

FIBER + GLASS

旭ファイバーグラス株式会社

〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町3-6-3 神田三菱ビル

### 〈関連会社情報〉

■旭ビルウォール株式会社

繊維補強建材の設計施工コンサルティング  
耐アルカリ硝子繊維の販売など

詳細は旭ファイバーグラスのホームページからご覧いただけます。